

山口県立美術館年報

平成31～令和2年度

ANNUAL REPORT

2019～2020

YAMAGUCHI PREFECTURAL ART MUSEUM



山口県立美術館年報

平成31～令和2年度

ANNUAL REPORT

2019～2020

YAMAGUCHI PREFECTURAL ART MUSEUM

目 次

山口県立美術館概要	3
1) 事業	
I . 展覧会事業	
(1) 特別展	6
(2) 山口県美術展覧会	48
(3) コレクション展	51
(4) 新型コロナウイルス感染症対策	59
II . 教育普及事業	
(1) ミュージアム・タウン・ヤマグチ	64
(2) HEART	65
(3) デジタル技術を活用した事業	69
(4) 学校連携	73
(5) 美術館ボランティア	75
(6) 県立美術館メンバーズクラブ	76
(7) キャンパスメンバーズ	76
(8) 博物館実習	77
(9) その他の事業	79
(10) 原稿執筆・講演等	82
III . 調査研究事業	
(1) 雪舟研究会	86
(2) 調査研究実績	86
IV . 収集管理保存事業	
(1) 館藏品寄託品貸出利用状況	90
(2) コレクション	91
(3) 美術図書	105
2) 入館者数一覧	108
3) 組織等	114

山口県立美術館概要

所在地 山口市亀山町3番1号
敷地面積 11,618.330平方メートル

1.当初建物

建物面積 4,077.168平方メートル
建物延面積 5,477.880平方メートル
構造 鉄筋コンクリート造／地下1階・地上2階／一部鉄骨造
工期 昭和52年(1977)8月～昭和54年(1979)3月
設計 鬼頭梓建築設計事務所
施工 鹿島建設株式会社／日本電設工業株式会社／株式会社大気社／塩田工業株式会社
総工費 1,700,000,000円

2.喫茶室新築

建築延面積 66.16平方メートル
構造 壁式鉄筋コンクリート造／平屋建
工期 昭和62年(1987)1月～3月
総工費 25,552,000円

3.収蔵庫等増築

建築延面積 1,188平方メートル
構造 鉄筋コンクリート造／2階建(地下1階)
施設概要 収蔵庫、備品収納庫、作業室、図書室、資料室等
工期 昭和62年(1987)12月～平成元年(1989)1月
総工費 604,853,000円

4.空気調和設備等改修工事

工期 平成17年(2005)7月～平成18年(2006)3月
総工費 436,755,000円

5.美術館改修工事

改修施設概要 展示室、ロビー、収蔵庫、トラックヤード、中庭、喫茶室、講座室
工期 平成23年(2011)11月～平成24年(2012)3月
総工費 699,915,000円

展覧会事業

特別展

館の調査研究にもとづくユニークな自主企画展や新聞社および他館との共催展を開催し、古今東西の多様な美術文化を紹介する。

山口県美術展覧会等

山口県における総合的美術文化の普及と振興をはかるために、幅広く作品を公募。審査の後、その優秀なるものを展示、紹介する。

コレクション展(常設展)

当館のコレクション(館蔵品、寄託品)を中心に、本県の実術文化の歴史や郷土が生んだ代表的作家の全体像などをわかりやすく展示する。

教育普及事業

ミュージアム・タウン・ヤマグチ

県庁前パークロードから山口市中心商店街にかけての文教・商店街エリアを〈山口〉を発信する観光・文化・教育拠点とするべく、周辺地域および教育文化施設と一体となってさまざまな事業を展開。

HEART

ミュージアム・タウン・ヤマグチのメイン事業のひとつ。県美術展覧会の開催に合わせて、近隣の山口市商店街連合会とも協働し、アートイベント「HEART」を開催。様々な視点から現代の実術に接する場を県民に提供する。

学校連携

児童生徒、教員が美術文化にふれあい、ともに学ぶ場としての美術館の普及をはかる。

ボランティア

ボランティアの知識や経験を生かした活動を通じて県民の実術館活動への理解を高めるとともに、その活動が県民にとって美術により深く接する場となることをねらいとする。

講演会・講座

美術講座、美術講演会、ワーク・ショップなどを実施し、美術への理解を深める場を県民に提供する。

調査研究および収集管理保存事業

本県の実術に関する調査研究を実施し、基礎資料や作品の収集を充実させるとともに、これを保管整理し有効な活用をはかる。

事業

I. 展覧会事業

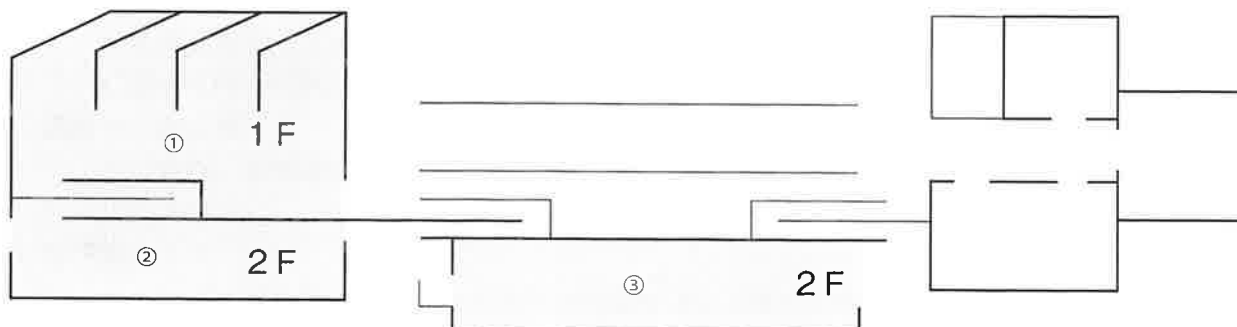
(1) 特別展

平成31年度（2019年度）は、前年度の3月20日からすでに始まっていた「扇の国、日本」展でスタートを切った。それに続いて、地元在住の写真家、下瀬信雄（土門拳賞受賞作家）の回顧展（5月23日 - 7月7日）を開催。萩に生まれ、萩に住み、萩をめぐる自然を題材に、日本写真史に名を留める写真家を県民に幅広く知らしめる機会となった。夏休みには、収蔵品による特別企画として、「香月泰男のシベリア・シリーズ」展を開催。家族にしっかりと記憶してもらおうべく、香月泰男美術館とも連動して広報活動を行った。また、秋には、多くの美術ファンから要望の多いヨーロッパ絵画の名品展を久しぶりに開催することができた。近年、輸送経費および借用経費等、開催経費の高騰により、ヨーロッパ絵画展が開催しづらい状況において、この「ヨーロッパ絵画 美の400年」展が実現できたのは、日本の美術館において有数のヨーロッパ名画コレクションを誇る東京富士美術館の格別のご協力があったからこそであった。年末には、日本の近代洋画史を語る上で欠かすことのできない岸田劉生の没後90年を記念して、「岸田劉生展 孤高なる絵画への道」を開催。全国を巡回した展覧会ではあるが、劉生の没地・徳山が山口県にあることから、周南市のご協力を得て、劉生の絶筆をお借りすることができた。山口県民にとっては劉生をより身近に感じる機会となった。

また、「岸田劉生展」との同時開催展として、小さい展覧会ではあるが、「雪舟の仏画」展を開催。雪舟の若い時代の作品《騎獅文殊・黄初平・張果老図》を初公開し、雪舟の画業初期の研究に一石を投じるとともに、当館の長年の雪舟研究の成果を示すことができた。

令和2年度（2020年度）は、誠に残念ながら、新型コロナウイルス感染症拡大のあおりをうけ、臨時休館からのスタートとなった。当館が7年がかりで準備してきた「ハマスホイとデンマーク絵画」展、江戸時代の美術の新たな側面を浮かび上がらせようと企画された「奇才－江戸絵画の冒険者たち－」展、狩野派の視点から見た雪舟を紹介する「雪舟と狩野派」、＜昭和の春信＞と呼ばれ近年大人気の小村雪岱を紹介する「小村雪岱スタイル 江戸の粋から東京モダンへ」展。いずれも、新型コロナウイルス感染症の影響で、最後の二つの展覧会は延期。「ハマスホイとデンマーク絵画」展は最後の2週間のみの開催。「奇才」展は会期を全うできたものの、入館するためには日時を指定し予約をしなければいけない状況となり、想定からは大幅に少ない入場者数となった。いずれも、長年の準備、研究を経た展覧会だっただけに、多くの方々にご覧いただけなかったのは、残念であった。

*2年間の特別展総入場者数は157,160人(H31:127,943人、R2:29,217人)



展示室 F	(①)	583.298 m ²
展示室 E	(②)	304.695 m ²
展示室 D	(③)	471.825 m ²

* 凡例

以下の展覧会は名称(会期・主催等)、
(1)趣旨・概要、(2)会場構成、(3)カタログ、(4)出品目録、
(5)講演会等の順で編集した。

山口県立美術館開館 40 周年記念
下瀬信雄展 天地結界

会 期 令和元年(2019年)5月23日(木)～7月7日(日) ※月曜休館、ただし6月3日および7月1日は開館
主 催 山口県立美術館、読売新聞社、KRY山口放送、萩市、萩市教育委員会
後 援 山口県教育委員会、山口市、山口市教育委員会、一般社団法人山口県観光連盟、
山口商工会議所、一般財団法人山口観光コンベンション協会、湯田温泉旅館協同組合、
萩商工会議所、一般社団法人萩市観光協会、萩市文化協会
助 成 花王芸術・科学財団



チラシA



チラシB



チラシC



チラシD



チラシ裏面(共通)



ポスターA



ポスターB

(1) 趣旨・概要

本展は、「結界」シリーズを中心に、初期の作品から近年のカラー写真まで、萩市在住の写真家・下瀬信雄(1944-)のこれまでの歩みをたどる回顧展であった。

下瀬信雄は、東京総合写真専門学校で写真を学び、帰郷して家業の写真館を継いでからは、ふるさとの文化や風土を独自の視点で撮るスタンスを貫いてきた。最初の写真集『萩・HAGI』(1989年)では、私的な視点から萩の街並みや風景をみつめる感性が評価され日本写真協会新人賞を受賞。萩を題材とするシリーズは、さらに6×6センチ判の中判カメラで自然や風景をとらえた「風のとき」、35ミリフィルムを用いる小型カメラによるスナップショットを集めた「風の中の日々」のシリーズへと展開していき、次作『萩の日々』(1999年)に結実する。90年代初め頃からは、4×5インチの大判カメラを用いたモノクローム撮影で自然界に潜む境界にせまる、「結界」シリーズにも取り組み始めた。このシリーズから編まれた写真集『結界』(2014年)は、第34回土門拳賞を受賞、下瀬信雄のライフワークとなっている。

入場者数は10,267人。図録は完売、会期中2回を予定していた作家本人によるギャラリートークは大盛況で、追加開催を決定した。地元に着目した活動を行ってきたこの写真家への根強い支持が、成果として表れた展覧会事業となった。



会場風景1



会場風景2



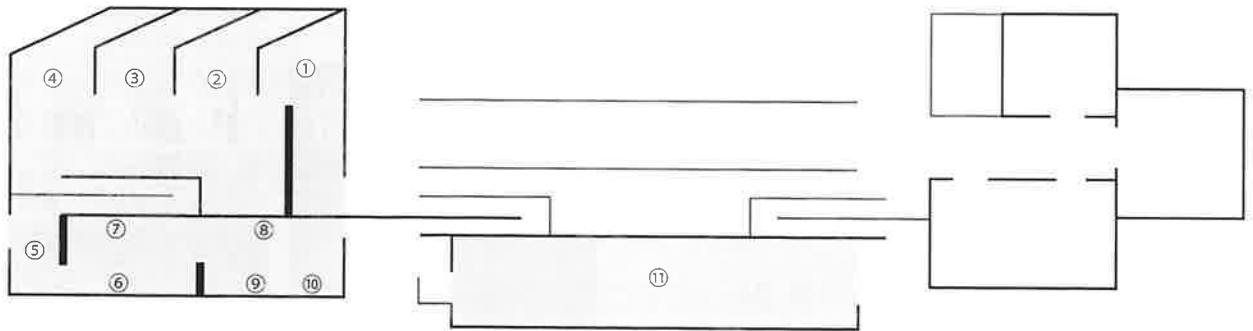
会場風景3

(2) 会場構成

- ① I 結界 春夏秋冬
- ② II ふるさと 山口の風景
- ③ III 日本点景
- ④ IV 下瀬信雄の歩み
- ⑤ V 下瀬信雄が写した人々
- ⑥ VI 萩 HAGI
- ⑦ VII 萩の日々
- ⑧ VIII 風の中の日々
- ⑨ IX つきをゆびさす
- ⑩ 写真をめぐる実験的な試み
- ⑪ X 結界



会場風景4



(3) カタログ

- 編集 矢追愛弓(山口県立美術館)
 編集補助 福田善子(山口県立美術館)
 萬屋健司(山口県立美術館)
 岡本麻美(山口県立美術館)
 執筆 飯沢耕太郎(写真評論家)
 下瀬信雄(写真家)
 矢追愛弓
 英訳 岡本小百合
 デザイン・制作 榎原朗(クワハラデザイン)
 印刷・製本 隣報社写真印刷株式会社
 発行 下瀬信雄展実行委員会
 内容 005 ごあいさつ
 006 謝辞
 008 科学者と詩人—下瀬信雄の写真世界
 飯沢耕太郎
 015 足湯で温めるダイコン足
 下瀬信雄
 017 I 結界 春夏秋冬
 033 II ふるさと 山口の風景
 049 III 日本点景
 057 IV 下瀬信雄の歩み



カタログ表紙(帯有り)



カタログ表紙(帯無し)

069	V	下瀬信雄が写した人々
075	VI	萩 HAGI
089	VII	萩の日々
099	VIII	風の中の日々
107	IX	つきをゆびさす
114		写真をめぐる実験的な試み
117	X	結界
資料編		
166		私家版写真集『さだめのように川は流れる』
168		撮影機材紹介
170		個展ポスター等
172		ポストカード
174		下瀬信雄前史一父・下瀬吉雄と叔父・下瀬武雄
178		下瀬信雄と『カメラ毎日』 矢追愛弓
184		下瀬信雄 年譜
188		展覧会開催歴
191		下瀬信雄 自筆文章再録
195		参考文献
198		出品作品一覧
205		Message
206		About the catalogue
* A4 変形判 (285 × 222mm)208 ページ		

(4) 出品目録

no.	作品名	制作年	技法
I 結界 春夏秋冬			
I-01	フキノトウとヒメオドリコソウ	2008年	キャンバス・インクジェットプリント
I-02	初夏の光	2014年	キャンバス・インクジェットプリント
I-03	雨の日のヒガンバナ	2015年	キャンバス・インクジェットプリント
I-04	雪の野	2015年	キャンバス・インクジェットプリント
I-05	スマレ	2008年	画材用紙・インクジェットプリント
I-06	オオイヌノフグリとヒメオドリコソウ	2008年	画材用紙・インクジェットプリント
I-07	ウラジロの山	2008年	画材用紙・インクジェットプリント
I-08	ホテイアオイ	2008年	画材用紙・インクジェットプリント
I-09	オニユリ	2017年	画材用紙・インクジェットプリント
I-10	オオケタデ	2006年	画材用紙・インクジェットプリント
I-11	ヒシ	2008年	画材用紙・インクジェットプリント
I-12	小さな泉	2008年	画材用紙・インクジェットプリント
I-13	晩秋のぬけがらとヒメツルソバ	2015年	キャンバス・インクジェットプリント
I-14	池に散ったモミジ	2009年	画材用紙・インクジェットプリント
I-15	冬の山	2015年	キャンバス・インクジェットプリント
I-16	モミジ	2019年	キャンバス・インクジェットプリント
I-17	早春のハナニラ	1997年	キャンバス・インクジェットプリント
I-18	夏草の谷	1997年	キャンバス・インクジェットプリント
I-19	秋の光	1997年	キャンバス・インクジェットプリント
I-20	冬の朝	2015年	キャンバス・インクジェットプリント
II ふるさと 山口の風景			
II-01	周南コンビナート	2019年	キャンバス・インクジェットプリント
II-02	庭船と百合 - 下関市豊北町 土井ヶ浜 -	2006年	画材用紙・インクジェットプリント
II-03	夏の花 - 長門市 青海島 -	2013年	画材用紙・インクジェットプリント
II-04	しだれ桜 - 美祿市 美東町 長登 -	2014年	画材用紙・インクジェットプリント
II-05	日本海 - 萩市 須佐 海苔石 -	2014年	画材用紙・インクジェットプリント
II-06	軒菜 - 萩市 大照院 -	2014年	画材用紙・インクジェットプリント
II-07	雪の燈籠 - 萩市 平安古町 -	2014年	画材用紙・インクジェットプリント
II-08	萩市 三角州	2017年	インクジェットプリント
II-09	春を告げる山焼 - 美祿市 秋吉台 -	2009年	画材用紙・インクジェットプリント
II-10	ホルンフェルス - 萩市 須佐 -	2019年	画材用紙・インクジェットプリント
II-11	桜の風景 - 萩市 川上 -	2018年	画材用紙・インクジェットプリント
II-12	浜辺の子どもたち - 萩市 菊ヶ浜 -	2011年	画材用紙・インクジェットプリント

II-13	関門橋 - 下関市 -	2000年	画材用紙・インクジェットプリント
II-14	月見茶会 - 萩市 常盤島 -	2010年	画材用紙・インクジェットプリント
II-15	万灯会 - 萩市 大照院 -	2019年	画材用紙・インクジェットプリント
II-16	先帝祭 - 下関市阿弥陀寺町 赤間神社 -	2017年	画材用紙・インクジェットプリント
II-17	角島大橋 - 下関市豊北町 -	2019年	画材用紙・インクジェットプリント
II-18	薪能 - 山口市天花 野田神社 -	2010年	画材用紙・インクジェットプリント
II-19	雪の日の農家 - 萩市川上 阿武川歴史民俗資料館 -	2019年	画材用紙・インクジェットプリント
II-20	王子山から - 長門市仙崎 -	2009年	画材用紙・インクジェットプリント ※エントランスに展示
III 日本点景			
III-01	恐竜の生まれた日	2010年	画材用紙・インクジェットプリント
III-02	南の島	2010年	画材用紙・インクジェットプリント
III-03	サンタモニカの風	2019年	画材用紙・インクジェットプリント
III-04	鷲山	2010年	画材用紙・インクジェットプリント
III-05	彼岸の観覧車	2010年	キャンバス・インクジェットプリント
III-06	住宅展示場	2010年	キャンバス・インクジェットプリント
III-07	よくわからない道具	2010年	キャンバス・インクジェットプリント
III-08	銀座二丁目	2010年	画材用紙・インクジェットプリント
III-09	ビール倉庫跡	2008年	画材用紙・インクジェットプリント
III-10	UFOの編隊	2010年	画材用紙・インクジェットプリント
III-11	地面から生えた操舵室	2010年	画材用紙・インクジェットプリント
III-12	恐竜のいる風景	2019年	画材用紙・インクジェットプリント
IV 下瀬信雄の歩み			
IV-01	学生時代習作		
	a カバマダラ	1966年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
	b 蝶のシルエット	1966年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
IV-02	レクイエム(2点)	1967年	Cタイプ
IV-03	旧家または望郷(2点)	1971年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
IV-04	アフロディテ(2点)	1971年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
IV-05	ポートレート(6点)		
	a 藤間小伊織さん・75年5月25日	1975年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
	b 山根孝司君の長男・75年7月6日	1975年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
	c 郡山敏幸さん・75年7月27日	1975年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
	d K・Hさん・75年5月12日	1975年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
	e 下瀬やよい(作者の妹)・76年1月1日	1976年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
	f 吉村みちよちゃんとお母さん・75年4月9日	1975年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
IV-06	一本の桜(4点)		
	a 1973年4月	1973年	Cタイプ
	b 1973年7月	1973年	Cタイプ
	c 1983年11月	1983年	Cタイプ
	d 1979年2月	1979年	Cタイプ
IV-07	虹を織る(7点)		
	a 水たまり。映っているのはわが家の乳母車	1980年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
	b 市民館の遊び場	1980年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
	c 橋本川上手の帰り道	1980年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
	d 校庭の西側には松の大木が並び木陰を作る	1980年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
	e 田んぼの中の一木道	1980年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
	f 菊ヶ浜のウミネコ	1980年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
	g 昨日の雨で散った花とクモの巣	1980年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
IV-08	午後(3点)		
	a 公園の池のアメンボウ	1984年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
	b 鳥をみつけた	1984年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
	c 福岡空港	1984年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
IV-09	ツワブキとヌード	2002年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
IV-10	ヘリオグラフィ(11点)		
	a 太陽の半年(夏至から冬至まで) 1983.6.22~12.22	1983年	バライタ紙・インクジェットプリント
	b 太陽の半年(冬至から夏至まで) 1983.12.23~1984.6.21	1984年	バライタ紙・インクジェットプリント
	c RGBの太陽の半年 1990.12.23~	1991年	バライタ紙・インクジェットプリント
	d 昇る月 1982.8.6	1982年	バライタ紙・インクジェットプリント
	e 皆既日食のコロナ -米国 ナッシュビル- 2017.8.21	2017年	バライタ紙・インクジェットプリント
	f 月と金星 2010.6.16	2010年	バライタ紙・インクジェットプリント
	g 金環食 -東京 世田谷- 2012.5.21	2012年	バライタ紙・インクジェットプリント
	h 全天の太陽の半年 1984.6.22~12.22	1984年	バライタ紙・インクジェットプリント
	i ベイラービーズ 2017.8.21	2017年	バライタ紙・インクジェットプリント
	j ナッシュビルの皆既日食・5分間隔の太陽 2017.8.21	2017年	バライタ紙・インクジェットプリント
	k 皆既日食・魚眼レンズと10分間隔の太陽 -タイ ナコンサワン- 1995.10.24	1995年	バライタ紙・インクジェットプリント

V 下瀬信雄が写した人々

V-01	十一代 三輪休雪(落首)	1990年	バライタ紙・インクジェットプリント
V-02	三輪龍氣生(十二代 三輪休雪)	1980年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
V-03	十三代 三輪休雪	2012年	バライタ紙・インクジェットプリント
V-04	古川薫	2011年	バライタ紙・インクジェットプリント
V-05	上川隆也	1997年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
V-06	平田オリザ	2005年	バライタ紙・インクジェットプリント
V-07	島田莊司	2016年	バライタ紙・インクジェットプリント
V-08	陽信孝	2014年	バライタ紙・インクジェットプリント
V-09	升毅	2016年	バライタ紙・インクジェットプリント
V-10	高橋洋子	2016年	バライタ紙・インクジェットプリント

VI 萩 HAGI

VI-01	玄圃 - 呉服町 久保田家 -	1972年	CBプリント
VI-02	旧児玉家長屋と少年 - 堀内 -	1977年	バライタ紙・インクジェットプリント
VI-03	口羽家長屋門と少女 - 堀内 -	1977年	バライタ紙・インクジェットプリント
VI-04	学校帰りのかくれんぼ - 阿武郡須佐町 -	1977年	バライタ紙・インクジェットプリント
VI-05	船屋さんの店先 - 北古萩 -	1977年	CBプリント
VI-06	多越天神 - 塩屋町 -	1977年	バライタ紙・インクジェットプリント
VI-07	猫のひなたぼっこ - 米屋町 -	1977年	CBプリント
VI-08	二の宮家長屋門と自転車 - 堀内 -	1977年	CBプリント
VI-09	夏みかん畑の夕暮 - 河添 -	1977年	バライタ紙・インクジェットプリント
VI-10	土間 湯川家 - 川島 -	1977年	CBプリント
VI-11	ミシン - 古魚店 -	1977年	バライタ紙・インクジェットプリント
VI-12	一本の木 - 熊谷町 -	1977年	CBプリント
VI-13	配膳棚 - 呉服町 久保田家 -	1972年	バライタ紙・インクジェットプリント
VI-14	蚊帳 - 呉服町 久保田家 -	1972年	CBプリント
VI-15	阿武川 - 目代 -	1977年	バライタ紙・インクジェットプリント
VI-16	花火 - 菊ヶ浜 -	1977年	バライタ紙・インクジェットプリント
VI-17	雲 - 阿武町宇田 -	1977年	バライタ紙・インクジェットプリント

VII 萩の日々

VII-01	空 - 菊ヶ浜 -	1993年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
VII-02	夕風の入り江 - 玉江 -	1998年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
VII-03	雪の上がった朝の旧道 - 旭村 -	1998年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
VII-04	森の中の子供たち - 指月山 -	1998年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
VII-05	桜の老木 - 河添 -	1998年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
VII-06	時化が続いて久しぶりに漁があった - 浜崎 -	1998年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
VII-07	羽を休めるチュウシャクシギ - 菊ヶ浜 -	1998年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
VII-08	無性に足を濡らしてみたくなる修学旅行 - 菊ヶ浜 -	1998年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
VII-09	百足競争の準備 - 明経中学校 -	1998年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
VII-10	鯨祭りの男たち - 青海島 通 -	1998年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
VII-11	コモチシダの葉に隠れる子供 - 川上村 -	1998年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
VII-12	そろそろ盛夏、空にムクゲとコガネグモ - 旭村 明木 -	1998年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
VII-13	夜のトンネル - 262号線・古泉城隧道 -	1998年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
VII-14	雪の朝中州で遊ぶ一羽のカラス - 中津江 -	1998年	ゼラチン・シルヴァー・プリント

VIII 風の中の日々

VIII-01	磯遊びの女学生たち - 倉江 -	2009年	バライタ紙・インクジェットプリント
VIII-02	雨の日の石畳・桜の花びらと子供 - 金谷神社 -	2009年	バライタ紙・インクジェットプリント
VIII-03	女子高生たち - 菊ヶ浜 -	2009年	バライタ紙・インクジェットプリント
VIII-04	明倫小学校・有徳館 - 江向 -	2009年	バライタ紙・インクジェットプリント
VIII-05	出航・見島航路 - 見島 -	2009年	バライタ紙・インクジェットプリント
VIII-06	ナツグミ - 奈古 -	2009年	バライタ紙・インクジェットプリント
VIII-07	スイカと頭 - 菊ヶ浜 -	2009年	バライタ紙・インクジェットプリント
VIII-08	ゴマダラカミキリの飛翔 - 萩市呉服町 -	2009年	バライタ紙・インクジェットプリント
VIII-09	イス取りゲーム - 萩市 光塩学院 -	2009年	バライタ紙・インクジェットプリント
VIII-10	錦川の畔 - 岩国市 錦帯橋 -	2008年	バライタ紙・インクジェットプリント
VIII-11	イシガケチョウ - 萩市 福栄 -	2009年	バライタ紙・インクジェットプリント
VIII-12	ビキニの女の子 - 菊ヶ浜 -	2009年	バライタ紙・インクジェットプリント

IX つきをゆびさす

IX-01	昇る月 - 萩市 田床山 -	2019年	バライタ紙・インクジェットプリント
IX-02	空中給油機KC130ハーキュリー - 岩国市川下 岩国基地 -	2016年	バライタ紙・インクジェットプリント
IX-03	トンネル - 島根県 -	2016年	バライタ紙・インクジェットプリント
IX-04	スクール水着の五人 - 萩市 菊ヶ浜 -	2013年	バライタ紙・インクジェットプリント
IX-05	披露宴会場のカメラマン - 萩市 格東 -	2013年	バライタ紙・インクジェットプリント
IX-06	ミサの日の神父 - 萩市 東田町 光塩学院 -	2016年	バライタ紙・インクジェットプリント
IX-07	法要の日の袈裟 - 萩市 恵美須町 端坊 -	2016年	バライタ紙・インクジェットプリント

IX-08	応接間 - 萩市 弘法寺 -	2016年	バライタ紙・インクジェットプリント
IX-09	犬の散歩中 - 下関市豊北町 土井ヶ浜 -	2013年	バライタ紙・インクジェットプリント
IX-10	海から上がったきた仲良しの四人 - 萩市 菊ヶ浜 -	2013年	バライタ紙・インクジェットプリント
写真をめぐる実験的試み			
1	スーパームーンの夜	2016年	インクジェットプリント
2	となりの彼女	2015年	インクジェットプリント・彩色
参考	信越ポリマープラントの夜		
参考	空き缶のビル		
参考	ポビー		
X 結界			
X-01	イノデの新芽 - 萩市大屋 -	2019年	キャンバス・インクジェットプリント
X-02	コシヤクの群落 - 萩市上野 -	2004年	キャンバス・インクジェットプリント
X-03	野火 迫りくる炎 - 北九州市小倉南区 平尾台 -	2014年	キャンバス・インクジェットプリント
X-04	ボタンヅル - 萩市明木 -	2008年	キャンバス・インクジェットプリント
X-05	モウソウチクの林 - 萩市三見 -	1996年	キャンバス・インクジェットプリント
X-06	ツルマンネングサ - 萩市三見 -	2016年	キャンバス・インクジェットプリント
X-07	ヤマイバラ - 萩市小野山 -	2015年	キャンバス・インクジェットプリント
X-08	ヌルデ - 周南市 -	2019年	キャンバス・インクジェットプリント
X-09	シャガ - 美祿市繪堂 -	2018年	キャンバス・インクジェットプリント
X-10	ヒメジョオン - 萩市川上椿瀬 -	2008年	キャンバス・インクジェットプリント
X-11	イワタイゲキ - 萩市 笠山 -	2008年	キャンバス・インクジェットプリント
X-12	雪の日のモウソウチク - 萩市明木 -	1996年	キャンバス・インクジェットプリント
X-13	雪のカルスト台 - 美祿市 秋吉台 -	2014年	キャンバス・インクジェットプリント
X-14	ソメイヨシノ - 萩市河添 -	2011年	キャンバス・インクジェットプリント
X-15	野火 近づいてくる炎 - 北九州市小倉南区 平尾台 -	2011年	バライタ紙・インクジェットプリント
X-16	野火のあと、霧雨に濡れた石灰岩 - 北九州市小倉南区 平尾台 -	2011年	バライタ紙・インクジェットプリント
X-17	雪の残る早春の谷川 - 萩市高津 佐々並川 -	2001年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-18	ウラジロ - 萩市椿東 田床山 -	2011年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-19	ヒメオドリコソウの群落 - 萩市川上野戸呂 -	2004年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-20	クサソテツ - 萩市黒川 -	2014年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-21	クリハラシ - 萩市椿東 笠山 -	1996年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-22	シャクの新芽 - 萩市椿東 東光寺 -	2011年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-23	クサイテゴ - 萩市椿東上野 -	2001年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-24	オカトラノオとホタルブクロ - 萩市川上笹尾 -	2001年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-25	カワラナデシコとツワブキ - 萩市椿東 笠山 -	1999年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-26	夕風の入江 - 萩市青長谷 -	1997年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-27	ムサシアブミ - 萩市堀内 指月山 -	1996年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-28	シシウド - 阿武町宇田 -	2014年	バライタ紙・インクジェットプリント
X-29	ジャケツイバラ - 萩市三見 -	1999年	バライタ紙・インクジェットプリント
X-30	ナルコユリ - 萩市椿東 笠山 -	2001年	バライタ紙・インクジェットプリント
X-31	ホシダとドクダミ - 萩市明木小野山 -	1999年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-32	イヌキクイモとヒメアブ - 北九州市小倉南区 平尾台 -	2001年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-33	羽化したオオミズアオ - 萩市川上 -	2003年	バライタ紙・インクジェットプリント
X-34	溪流の水面 - 庄原市東城町 帝釈峽 -	2014年	バライタ紙・インクジェットプリント
X-35	カラスウリとクサネム - 萩市椿東中畑中ノ台 -	2004年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-36	サツマイナモリとオオバイノモトソウ - 萩市川上 長門峽 -	2004年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-37	ナツズイセン - 萩市明木国木原 -	2014年	バライタ紙・インクジェットプリント
X-38	脱皮したヤマカガシ - 萩市山田 -	2011年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-39	羽根 - 萩市堀内 指月公園 -	2004年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-40	エノコログサ - 美祿市美東町 長登 -	2001年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-41	雪の積もった石灰岩の山 - 美祿市秋芳町 秋吉台 -	2015年	バライタ紙・インクジェットプリント
X-42	霜の降りた地面 - 美祿市秋芳町 秋吉台 -	2015年	バライタ紙・インクジェットプリント
X-43	雪の日の川 - 萩市川上 長門峽 -	2004年	ゼラチン・シルヴァー・プリント
X-44	雪の日のツバキ群生林 - 萩市椿東 笠山 -	1999年	ゼラチン・シルヴァー・プリント

資料類

写真集 下瀬信雄写真集『さだめのように川は流れる』(私家版：1972年)

機材関係 Deardorff デアドルフ8×10in Symmar-s f8.4/430mm
 Linhof リンホフマスターテヒニカ2000 4×5in スーパージンマー f5.6/150mm
 Hasselblad ハッセルブラッド500CM テレテッサーf5.6/350mm
 ニコンF3 モータードライブ付 マイクロニッコール55mm f2.8
 ニコンF フォトミックファインダー ニッコール50mm f1.4
 Leica ライカM3 M-ロッドニッコール 40mm f2
 アサヒペンタックスSP SMCタクマー 50mm f1.8
 ミノルタCLE M-ロッドニッコール 40mm f2

- キャノンダイヤル35 28mm f2.8
 ミノルタTC-1 ロッコール28mm f3.5
 ハッセルブラッド用レンズ ブラナーf2.8/80mm
 リコー GR1s GRレンズ28mm f2.8
- 掲載誌
 『カメラ毎日』1971年8月号
 『カメラ毎日』1972年6月号
 『カメラ毎日』1972年10月号
 『カメラ毎日』1973年4月号
 『カメラ毎日』1976年9月号
 『日本カメラ』1996年8月号
 『日本カメラ』2009年10月号
 『日本カメラ』2013年7月号
- ポスター等
 「下瀬信雄」写真展-天地結界(十年の歩み)- (2005年)
 下瀬信雄 写真展-天地結界・15年の歩み- (2008年)
 下瀬信雄 写真展 つきをゆびさす (2013年)
 中原中也記念館開館20周年記念 下瀬信雄写真展「さやかに風も」 (2015年)
 第34回土門拳賞受賞作品展 下瀬信雄「結界」 (2015年)
 山口県立美術館企画協力 やまぐち煌きアーティスト展 下瀬信雄写真展「天地結界」 (2015年)
 第34回土門拳賞受賞記念 下瀬信雄写真展「天地結界」の二十年 (2017年)
 山口県観光キャンペーン「ドラマチック山口」 (1989-90年)
 JR九州 車内吊りマナーアップ広告 (2点:2000年)
 株式会社NTTデータ 企業広告 (日本経済新聞(2002年7月1日)掲載)
 「八重子のハミング」 (2016年)
 萩山口信用金庫カレンダー (2017年版)
 萩・明治維新150年記念事業 (2018年)
 ポストカード(26枚)
- その他
 萩カメラクラブ記録集(3冊)
 『人間万歳 下瀬武雄写真集 昭和20年代(萩)』(私家版:1996年)

(5) 講演会等

■講演会

「萩の写真家・下瀬信雄の世界」

日時：6月15日(土) 14:00～15:30

会場：山口県立美術館講座室

講師：飯沢耕太郎(写真評論家)

定員：80名(聴講無料、当日先着順)

■作家本人によるギャラリートーク

日時：6月8日・29日 (いずれも土曜日)

14:00～(30分程度、申込不要)

※6月8日はゲストとして中原豊氏(中原中也記念館館長)が参加、中原中也の詩2編を朗読

※予定していた2回の盛況をふまえ、急遽7月6日(土)11:00～の回を追加して開催

■学芸員によるギャラリートーク

日時：6月1日・22日 (いずれも土曜日)

10:00～(30分程度)

■託児サービス：ちびっこルーム

日時：会期中毎週木曜日 10:00～13:00(定員制・要予約)

会場：山口県立美術館講座室

山口県立美術館開館40周年記念コレクション特別展 香月泰男のシベリア・シリーズ

会 期 令和元年(2019年)7月23日(火)～8月18日(日) ※月曜休館、ただし8月5日・12日は開館
主 催 ミュージアム・タウン・ヤマグチ実行委員会、NHK山口放送局、中国新聞社、山口新聞社
後 援 山口県教育委員会、山口市、山口市教育委員会、一般社団法人山口県観光連盟、山口商工会議所、
一般財団法人山口観光コンベンション協会、湯田温泉旅館協同組合
特別協力 香月泰男美術館、エフエム山口



ポスター



チラシ(A3二つ折り)表面



チラシ中面

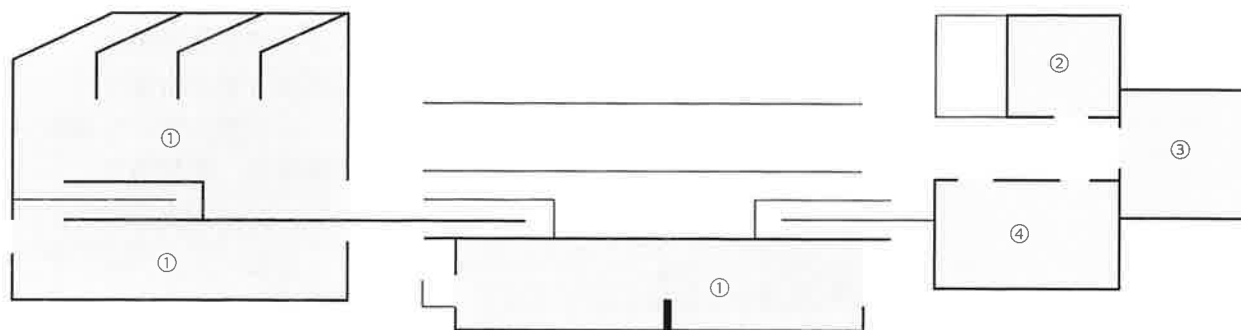
(1) 趣旨・概要

太平洋戦争とシベリア抑留の体験を絵画化した「シベリア・シリーズ」で、戦後洋画史に確たる地位を築いた画家、香月泰男(1911-74)。本展覧会では、2011年の画家の生誕100年記念展以来、8年ぶりにシベリア・シリーズ全57点を一堂に展示した。さらにシリーズ全点公開に加えて、1940-50年代の模索期の作品をはじめ、シベリア・シリーズの制作過程を示す習作や素描、晩年の軽やかな版画作品等、山口県立美術館の全展示室を使って、多彩な画家の創作活動を紹介。シベリア・シリーズを軸に、その生成過程を含む香月の創作活動を辿ることによって、「シベリアの画家」の重層的な造形の軌跡を堪能できる構成とした。

また本展に特別協力をいただいた香月泰男美術館との共通チラシを制作。二つの美術館を訪れることで、香月芸術についてより深い理解を得られることをアピールしつつ、県内交流人口の拡大を期す広報戦略を展開した。

(2) 会場構成

- ① 第一部 シベリア・シリーズ
- ② 第二部 “シベリア”を越えて—晩年の版画作品
- ③ 第三部 模索の時代—《埋葬》から《左官》へ
- ④ 第四部 シベリア・シリーズの原点



(3) カタログ

なし

(4) 出品目録

no.	作品名	制作年	材質	寸法(縦 × 横cm)	所蔵
第一部 シベリア・シリーズ					
1-1	雲	1968年	油彩/カンヴァス	117.0×72.7	山口県立美術館
1-2	別	1967年	油彩/カンヴァス	162.1×111.8	山口県立美術館
1-3	黒い太陽	1961年	油彩/カンヴァス	116.3×72.9	山口県立美術館
1-4	青の太陽	1969年	油彩/カンヴァス	162.1×111.6	山口県立美術館
1-5	ホロンバイル	1960年	油彩/カンヴァス	72.7×116.8	山口県立美術館
1-6	鷹	1958年	油彩/カンヴァス	64.9×99.9	山口県立美術館
1-7	雨(牛)	1947年	油彩/カンヴァス	72.9×116.1	山口県立美術館
1-8	雨	1968年	油彩/カンヴァス	117.0×72.6	山口県立美術館
1-9	朝陽	1965年	油彩/カンヴァス	91.0×60.6	山口県立美術館
1-10	道	1972年	油彩/カンヴァス	72.7×116.7	山口県立美術館
1-11	煙	1969年	油彩/カンヴァス	72.7×117.0	山口県立美術館
1-12	海拉爾	1973年	油彩/カンヴァス	72.8×116.7	山口県立美術館
1-13	朕	1970年	油彩/カンヴァス	162.1×116.1	山口県立美術館
1-14	護	1969年	油彩/カンヴァス	73.2×117.1	山口県立美術館
1-15	避難民	1960年	油彩/カンヴァス	73.0×117.3	山口県立美術館
1-16	奉天(右)	1970年	油彩/カンヴァス	72.9×116.1	山口県立美術館
1-17	奉天(左)	1970年	油彩/カンヴァス	72.9×116.1	山口県立美術館
1-18	1945	1959年	油彩/カンヴァス	72.8×116.7	山口県立美術館
1-19	雲火	1970年	油彩/カンヴァス	162.0×96.0	山口県立美術館
1-20	北へ西へ	1959年	油彩/カンヴァス	72.7×116.6	山口県立美術館
1-21	湿地	1961年	油彩/カンヴァス	72.9×49.9	山口県立美術館
1-22	凍土	1965年	油彩/カンヴァス	112.0×162.3	山口県立美術館
1-23	アムール	1962年	油彩・カンヴァス	162.1×112.0	山口県立美術館
1-24	運ぶ人	1960年	油彩/カンヴァス	72.3×116.9	山口県立美術館
1-25	乗客	1957年	油彩/カンヴァス	116.8×72.6	山口県立美術館
1-26	伐	1964年	油彩/カンヴァス	73.0×116.1	山口県立美術館
1-27	鋸	1964年	油彩/カンヴァス	73.8×116.3	山口県立美術館
1-28	神農	1964年	油彩/カンヴァス	91.2×60.4	山口県立美術館
1-29	雪山	1972年	油彩/カンヴァス	116.8×72.9	山口県立美術館
1-30	涅槃	1960年	油彩/カンヴァス	130.3×194.3	山口県立美術館
1-31	雪	1963年	油彩/カンヴァス	112.4×162.3	山口県立美術館
1-32	海(ペーチカ)冬	1966年	油彩・紙/カンヴァス	111.9×161.9	山口県立美術館
1-33	雪(窓)	1963年	油彩/カンヴァス	117.0×73.0	山口県立美術館
1-34	列	1961年	油彩/カンヴァス	116.7×72.8	山口県立美術館
1-35	荊	1965年	油彩/カンヴァス	72.8×116.8	山口県立美術館
1-36	星(有刺鉄線)夏	1966年	油彩/カンヴァス	162.0×91.4	山口県立美術館
1-37	-35°	1971年	油彩/カンヴァス	162.0×96.8	山口県立美術館
1-38	凍河(エニセイ)	1966年	油彩/カンヴァス	72.7×117.0	山口県立美術館
1-39	囚	1965年	油彩/カンヴァス	72.6×116.7	山口県立美術館
1-40	穴掘人	1960年	油彩/カンヴァス	72.7×116.8	山口県立美術館
1-41	餓	1964年	油彩/カンヴァス	162.2×112.2	山口県立美術館
1-42	グモイ	1959年	油彩/カンヴァス	72.9×116.8	山口県立美術館
1-43	バイカル	1971年	油彩、カンヴァス	162.0×112.5	山口県立美術館
1-44	渚(ナホトカ)	1974年	油彩/カンヴァス	96.5×162.0	山口県立美術館
1-45	ナホトカ	1961年	油彩/カンヴァス	116.1×72.6	山口県立美術館

1-46	絵具箱	1972年	油彩／カンヴァス	1120×162.3	山口県立美術館
1-47	日本海	1972年	油彩／カンヴァス	96.0×194.3	山口県立美術館
1-48	デモ	1973年	油彩／カンヴァス	97.0×193.0	山口県立美術館
1-49	点呼(左)	1971年	油彩／カンヴァス	72.7×116.8	山口県立美術館
1-50	点呼(右)	1971年	油彩／カンヴァス	72.7×116.8	山口県立美術館
1-51	復員(クラブ)	1967年	油彩／カンヴァス	162.1×111.6	山口県立美術館
1-52	私(マホルカ)	1966年	油彩／カンヴァス	72.8×117.0	山口県立美術館
1-53	日の出	1974年	油彩／カンヴァス	117.0×72.8	山口県立美術館
1-54	月の出	1974年	油彩／カンヴァス	117.0×72.8	山口県立美術館
1-55	〈私の〉地球	1968年	油彩／カンヴァス	111.6×162.1	山口県立美術館

第二部 “シベリア”を越えて-晩年の版画作品

2-1	摩周湖	1971年	石版	33.5×25.5	山口県立美術館
2-2	北見	1971年	石版	34.0×25.0	山口県立美術館
2-3	層雲峡	1971年	石版	33.0×24.5	山口県立美術館
2-4	知床小漁村	1971年	石版	34.0×25.0	山口県立美術館
2-5	大雪山連峰	1971年	石版	36.0×27.0	山口県立美術館
2-6	阿寒の山肌	1971年	石版	33.0×24.5	山口県立美術館
2-7	オホーツクの日の出	1971年	石版	36.0×27.0	山口県立美術館
2-8	バリの屋根 1	1971年	石版	31.7×39.8	山口県立美術館
2-9	バリの屋根 8	1971年	石版	31.7×39.8	山口県立美術館
2-10	バリの屋根 4	1971年	石版	39.8×31.7	山口県立美術館
2-11	バリの屋根 5	1971年	石版	39.8×31.7	山口県立美術館
2-12	バリの屋根 6	1971年	石版	39.8×31.7	山口県立美術館
2-13	エドラの風車	1972年	石版	40.6×28.3	山口県立美術館
2-14	クレタ村	1973年	石版	41.5×29.5	山口県立美術館
2-15	ロードス郊外	1974年	石版	41.5×30.0	山口県立美術館
2-16	リンドス	1975年	石版	40.0×30.0	山口県立美術館
2-17	アクロポリス展望	1976年	石版	42.5×29.5	山口県立美術館
2-18	連絡船	1977年	石版	41.0×27.8	山口県立美術館
2-19	ひなげし	1978年	石版	41.0×28.0	山口県立美術館
2-20	休むカヌー	1973年	木版	32.0×23.2	山口県立美術館
2-21	貝殻	1973年	木版	33.0×23.5	山口県立美術館
2-22	モーレア島	1973年	木版	32.0×23.0	山口県立美術館
2-23	宿の窓から	1973年	木版	31.8×23.3	山口県立美術館
2-24	日中の道	1973年	木版	32.2×23.5	山口県立美術館
2-25	フラダンス	1973年	木版	30.5×21.5	山口県立美術館
2-26	教会	1973年	木版	30.5×23.3	山口県立美術館
2-27	広場にて	1973年	木版	32.0×23.0	山口県立美術館
2-28	オレンジのある庭	1974年	木版	33.0×24.0	山口県立美術館
2-29	鳩のいる中庭	1974年	木版	33.0×24.0	山口県立美術館
2-30	海辺にて	1974年	木版	31.5×23.5	山口県立美術館
2-31	ルノワールの庭	1974年	木版	33.5×24.5	山口県立美術館
2-32	ニース	1974年	木版	33.5×24.0	山口県立美術館
2-33	サンポーロ	1974年	木版	33.0×23.5	山口県立美術館

第三部 模索の時代-《埋葬》から《左官》へ

3-1	波紋	1943年	油彩／カンヴァス	72.7×116.7	香月泰男美術館
3-2	埋葬	1948年	油彩／カンヴァス	72.5×117.0	山口県立美術館
3-3	自影	1949年	油彩／カンヴァス	40.5×60.2	
3-4	調理前	1950年	油彩／カンヴァス	40.9×60.6	香月泰男美術館
3-5	椅子の上の章魚	1951年	油彩／カンヴァス	65.5×45.5	香月泰男美術館
3-6	春	1951年	油彩／カンヴァス	72.7×116.7	香月泰男美術館
3-7	仕事場	1952年	油彩／カンヴァス	72.5×116.5	香月泰男美術館
3-8	馬鈴薯	1953年	油彩／カンヴァス	33.0×54.8	山口県立美術館
3-9	ハムとトマト	1953年	油彩／カンヴァス	45.5×65.0	香月泰男美術館
3-10	雉子	1954年	油彩／カンヴァス	33.3×53.0	香月泰男美術館
3-11	ペンキ職人	1953年	油彩／カンヴァス	72.6×116.3	香月泰男美術館
3-12	鳩と青年	1954年	油彩／カンヴァス	72.0×116.0	香月泰男美術館
3-13	新聞	1955年	油彩／カンヴァス	116.5×72.5	香月泰男美術館
3-14	左官	1956年	油彩／カンヴァス	117.0×72.6	山口県立美術館

第四部 シベリア・シリーズの原点

4-1	雨(牛)	1947年	油彩／カンヴァス	50.3×65.0	香月泰男美術館
4-2	朝陽	1964年	油彩／カンヴァス	65.0×45.7	香月泰男美術館
4-3	業火	1969年頃	油彩／カンヴァス	27.3×19.0	香月泰男美術館
4-4	運ぶ人	1959年頃	油彩／カンヴァス	32.0×21.0	香月泰男美術館

4-5	神農	1963年頃	油彩／カンヴァス	53.2×33.5	香月泰男美術館
4-6	デモ	1972年頃	油彩／カンヴァス	45.5×27.5	香月泰男美術館
4-7	絵具箱	1971年頃	油彩／カンヴァス	33.2×53.0	香月泰男美術館
4-8	《苔の太陽》関連素描	1968年頃	鉛筆・クレヨン／紙	27.3×19.8	山口県立美術館
4-9	《護》関連素描	1968年頃	クレヨン・油彩／紙	32.2×47.3	山口県立美術館
4-10	《ホロンバイル》関連素描	1959年頃	ペン・水彩／紙	18.9×26.8	山口県立美術館
4-11	《ホロンバイル》関連素描	1959年頃	ペン・水彩／紙	19.6×26.8	山口県立美術館
4-12	《ホロンバイル》関連素描	1959年頃	ペン・水彩／紙	19.7×27.1	山口県立美術館
4-13	《ホロンバイル》関連素描	1959年頃	鉛筆・水彩／紙	26.9×19.1	山口県立美術館
4-14	《1945》関連素描	1958年頃	ペン／紙	39.5×27.2	山口県立美術館
4-15	《穴掘人》関連素描	1959年頃	ペン／紙(煙草空箱)	13.9×7.0	山口県立美術館
4-16	《穴掘人》関連素描	1959年頃	ペン／紙(煙草空箱)	13.9×7.0	山口県立美術館
4-17	《埋葬》関連素描	1948年頃	鉛筆・水彩／紙	19.0×26.3	山口県立美術館
4-18	《埋葬》関連素描	1948年頃	ペン／紙	13.0×20.5	山口県立美術館

(5) 講演会等

■学芸員によるギャラリートーク

日時：7月27日、8月10日(いずれも土曜日)

10：00～(30分程度)

■託児サービス：ちびっこルーム

日時：会期中毎週木曜日 10：00～13：00(定員制・要予約)

会場：山口県立美術館講座室

珠玉の東京富士美術館コレクション ヨーロッパ絵画 美の400年

会期 令和元年(2019年)9月3日(火)～10月22日(火・祝) ※月曜休館、ただし9月9日・30日は開館
主催 山口県立美術館、読売新聞社、KRY山口放送
後援 山口県教育委員会、山口市、山口市教育委員会、一般社団法人山口県観光連盟、山口商工会議所、一般財団法人山口観光コンベンション協会、湯田温泉旅館協同組合、山口新聞社



ポスターA



ポスターB



チラシ(A3二つ折り)表面



チラシ中面

(1) 趣旨・概要

東京富士美術館のヨーロッパ絵画コレクションは、16世紀のイタリア・ルネサンス絵画から20世紀の現代絵画まで、400年にわたる西洋絵画史をほぼ一望できるきわめて充実したもの。本展では、日本はもとより国外にも広く知られたそのコレクションのなかから厳選した83点の作品を通じ、16世紀後半から20世紀までの西洋絵画の流れを紹介した。モネ、ルノワール、セザンヌ、ゴッホ、ゴーガン、シャガールなど近代の人気画家に加え、ティントレット、フランス・ハルス、アントニー・ヴァン・ダイクなど、日本ではあまり見る機会のない巨匠たちの作品も注目されたようである。ヨーロッパ絵画400年の流れを通覧する醍醐味を味わえる質の高い展覧会となった。



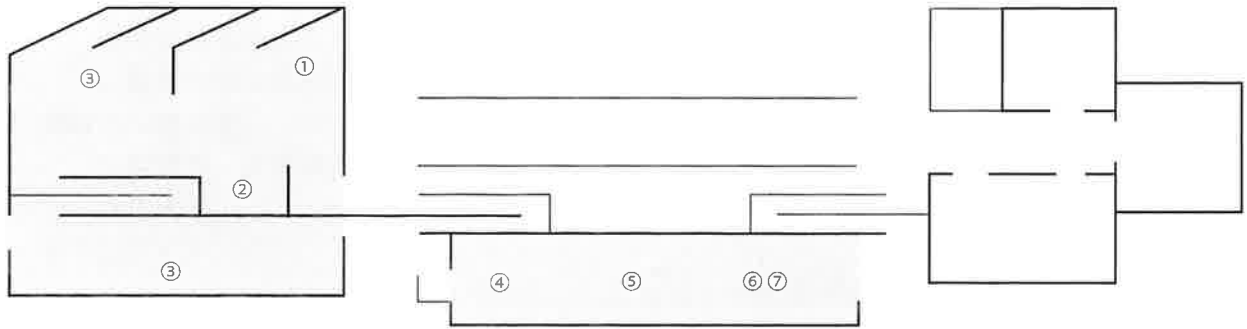
会場風景1



会場風景2

(2) 会場構成

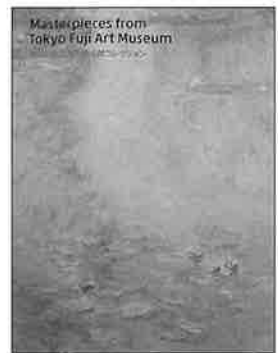
- ① 歴史画
- ② 肖像画
- ③ 風俗画
- ④ 静物画
- ⑤ 風景画
- ⑥ 物語／現実
- ⑦ 造形の革新



(3) カタログ

- 編集 澤渡麻里(茨城県近代美術館)、大橋弘明(東京富士美術館)
 発行 東京富士美術館
 内容 008 岡部昌幸 芸術に見える人間の心と知性—東京富士美術館コレクションでたどる西洋絵画史
 011 澤渡麻里 珠玉の東京富士美術館コレクション、あるいは西洋絵画はじめの一步
 013 I. 絵画の「ジャンル」と「ランク付け」
 017 -1 歴史画—神話、物語、歴史を描く～絵画の最高位～
 039 -2 肖像画—王侯貴族から市民階級へ～あるべき姿/あるがままの姿～
 069 -3 風景画—市井の生活へのまなざし
 087 -4 風景画—「背景」から純粋な風景へ～自然と都市～
 109 -5 静物画—動かぬ生命、死せる自然
 119 II. 激動の近現代—「決まり事」の無い世界
 123 -1 「物語」の変質
 124 -1. 物語／現実
 158 -2. 幻想の世界へ
 169 -2 造形の革新
 170 -1. 光と色彩の饗宴
 194 -2. フォルムと空間
 208 西洋美術の流れ 15-19世紀—第I部を中心に
 210 西洋美術の流れ 19-20世紀—第II部を中心に
 213 出品作品リスト

* B5変形判(251×191mm)217ページ



カタログ表紙

(4) 出品目録

no.	作家名	作品名	制作年	素材・技法
I-1. 歴史画—神話、物語、歴史を描く ～絵画の最高位～				
1	ベルナルド・ストロツィ	アブドロミノに奪われた王位を返還するアレクサンドロス大王	1615-17年頃	油彩/カンヴァス
2	ヘラルト・デ・ライッセ	天使たちを迎えるアブラハム	17世紀後半	油彩/カンヴァス
3	アールト・デ・ヘルダー	ダヴィデ王を諷めるナタン	1683年	油彩/カンヴァス
4	ノエル=ニコラ・コワベル	ヴィーナス誕生	1732年頃	油彩/カンヴァス
5	クラウディオ・フランチェスコ・ボーモン	ハンニバルの生涯—場面不詳(スペイン進軍前日に生け贄の準備をするハミカル?)	1731-47年	油彩/カンヴァス
6	クラウディオ・フランチェスコ・ボーモン	ハンニバルの生涯—ローマに対する永遠の憎しみを誓う少年ハンニバル	1731-47年	油彩/カンヴァス
7	クラウディオ・フランチェスコ・ボーモン	ハンニバルの生涯—サグントゥムの戦いを前に勝利品の報酬を約束し、兵士を鼓舞するハンニバル	1731-47年	油彩/カンヴァス
8	クラウディオ・フランチェスコ・ボーモン	ハンニバルの生涯—財宝を町に集めるサグントゥムの人々	1731-47年	油彩/カンヴァス
9	クラウディオ・フランチェスコ・ボーモン	ハンニバルの生涯—ハンニバルに財宝を差し出すサグントゥムの人々	1731-47年	油彩/カンヴァス
10	クラウディオ・フランチェスコ・ボーモン	ハンニバルの生涯—アルプスを越えるハンニバル	1731-47年	油彩/カンヴァス

11	フランソワ・ブーシェ	田園の演奏	1743年	油彩/カンヴァス
12	ジャック＝ルイ・ダヴィッドの工房	サン＝ベルナル峠を越えるボナバルト	1805年	油彩/カンヴァス
I-2.肖像画—王侯貴族から市民階級へ—あるべき姿/あるがままの姿—				
13	ティントレット(ヤコボ・ロブステイ)	蒐集家の肖像	1560-65年	油彩/カンヴァス
14	フランス・ハルス	男の肖像	1633年	油彩/カンヴァス
15	アントニー・ヴァン・ダイク	アマリア・ファン・ソルムス＝ブラウンフェルスの肖像	1629年	油彩/カンヴァス
16	アントニー・ヴァン・ダイク	ベッドフォード伯爵夫人アン・カーの肖像	1639年	油彩/カンヴァス
17	ジャン＝マルク・ナティエ	フェルテ＝アンボー侯爵夫人	1740年	油彩/カンヴァス
18	フランシスコ・デ・ゴヤ・イルシエンテス	ブルボン＝ブラガンサ家の王子、ドン・セバスティアン・マリー・ガブリエル	1815-20年頃	油彩/カンヴァス
19	ジャック＝ルイ・ダヴィッドの工房	戴冠式の皇帝ナポレオン	1808年頃	油彩/カンヴァス
20	エリザベート＝ルイズ・ヴィジェ＝ルブラン	ルイ16世の妹エリザベート王女	1782年	油彩/カンヴァス
I-3.風俗画—市井の生活へのまなざし				
21	ロベール・ルフェーブル	ナポレオン1世	19世紀	油彩/カンヴァス
22	ジャック＝ルイ・ダヴィッドの工房	ナント侯アントワヌ・フランセ伯爵の肖像	1811年頃	油彩/カンヴァス
23	ヘンリー・レイバーン	アダム・ファガーソンの肖像	18世紀後半	油彩/カンヴァス
24	ジャン＝フランソワ・ミレー	男の肖像	1840-41年頃	油彩/カンヴァス
25	ジョン・シンガー・サージェント	ハロルド・ウィルソン夫人	1897年	油彩/カンヴァス
26	パオロ・ヴェロネーゼと工房	少年と騎士見習	1570年代	油彩/板から移されたカンヴァス
27	ピエール・ベルゲ＝ニュー	田園の演奏	17世紀後半-18世紀初頭	油彩/カンヴァス
28	ジョシユア・レノルズ	少女と犬	1780年頃	油彩/カンヴァス
29	トマス・ゲインズバラ	田舎家の前の人々	1772-73年	油彩/カンヴァス
30	ウィリアム・アドルフ・ブーグロー	漁師の娘	1872年	油彩/カンヴァス
31	ミケール・ゴルディジャーニ	シルクのソファ	1879年	油彩/カンヴァス
32	ジュール・ジェーム・ルージュロン	鏡の前の装い	1877年	油彩/カンヴァス
I-4.風景画—「背景」から純粋な風景へ—自然と都市—				
33	アンドリエス・ファン・エールトフェルト	オランダ船対バーバリ海賊船の海戦	17世紀前半	油彩/カンヴァス
34	ヤン・ファン・ホイエン	釣り人のいる川の風景	1644年	油彩/カンヴァス
35	サロモン・ファン・ロイスダール	宿の前での休息	1645年	油彩/カンヴァス
36	ウィレム・デ・ハウス	木立のある風景	17世紀後半	油彩/カンヴァス
37	ヤン・ハッカールト	イタリア的な風景	17世紀	油彩/カンヴァス
38	カナレット(ジョヴァンニ・アントニオ・カナル)	ヴェネツィア、サン・マルコ広場	1732-33年頃	油彩/カンヴァス
39	カナレット(ジョヴァンニ・アントニオ・カナル)	ローマ、ナヴォーナ広場	1750-51年頃	油彩/カンヴァス
40	ウィリアム・ジェームズ	ヴェネツィア、スキアヴォーニ埠頭	18世紀後半	油彩/カンヴァス
41	フランチェスコ・グアルディ	小さな広場と建物のあるカプリッチョ	1759年	油彩/カンヴァス
I-5.静物画—動かぬ生命、死せる自然				
42	ジャン＝バティスト・モノワイエ	花	17世紀	油彩/カンヴァス
43	コルネリス・ファン・スベドック	花と果実のある静物	1804年	油彩/カンヴァス
44	アンリ・ファンクン＝ラトゥール	葡萄と桃のある静物	19世紀後半	油彩/カンヴァス
45	ジョセフ・ロデファー・デキャンブ	静物、バラ	1890年頃	油彩/カンヴァス
II-1.「物語」の変質—1.物語/現実				
46	ギヨーム・ギヨン・ルティエール	バリの人々にルイ・フィリップを紹介するラ・ファイエット	1831年頃	油彩/カンヴァス
47	ジャック＝フランソワ・スヴェバック	タボル山の戦い	1812年	油彩/カンヴァス
48	ジョセフ・マラード・ウィリアム・ターナー	ヘレヴツリユイスから出航するユトレヒトシティ64号	1832年	油彩/カンヴァス
49	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	もの思い	1865-74年頃	油彩/カンヴァス
50	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	ユディット	1872-74年頃	油彩/カンヴァス
51	ウジェーヌ・ドラクロワ	手綱を持つチェルケス人	1858年頃	油彩/カンヴァス
52	コンスタン・トロワイヨン	家畜の群れ	1850-60年代	油彩/カンヴァス
53	ジャン＝フランソワ・ミレー	鷺の番の少女	1866-67年	油彩/カンヴァス
54	シャルル＝フランソワ・ドービニー	ヴィレールヴィルの海岸	1870年	油彩/カンヴァス
55	ギユスターヴ・クールベ	水平線上のスコール	182-73年	油彩/カンヴァス
56	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	赤い服の女	1892年頃	油彩/カンヴァス
57	フィンセント・ファン・ゴッホ	鋤仕事をする農婦のいる家	1885年	油彩/カンヴァス
58	ピエール・ボナール	若い女	1905年頃	油彩/カンヴァス
59	エドゥアール・ヴェイヤール	婦人と子供	1904年	油彩/カンヴァス
60	マリー・ローランサン	二人の女	20世紀前半	油彩/カンヴァス
61	アメデオ・モディリアーニ	ポール・アレクサンドル博士	1909年	油彩/カンヴァス
II-1.「物語」の変質—2.幻想の世界へ				
62	マルク・シャガール	曲馬	1967年	油彩/カンヴァス
63	ジョルジオ・デ・キリコ	ヘクトルとアンドロマケ	1955年	油彩/カンヴァスに貼った紙
64	ルネ・マグリット	観念	1966年	油彩/カンヴァス
65	ルネ・マグリット	再開	1965年	油彩/カンヴァス
II-2.造形の革新—1.光と色彩の饗宴				
66	ウジェーヌ・ブーダン	ベルクの海岸	1878年	油彩/カンヴァス
67	カミーユ・ピサロ	秋、朝、祭り、エラニー	1900年	油彩/カンヴァス
68	アルフレッド・シスレー	牧草地の牛、ルーヴシエンス	1874年	油彩/カンヴァス

69	アルフレッド・シスレー	レディース・ローヴ、ラングランド湾、ウェールズ	1897年	油彩/カンヴァス
70	ポール・セザンヌ	オーヴェールの山ががり角	1873年頃	油彩/カンヴァス
71	ギュスターヴ・カイユボット	トルーヴィルの別荘	1882年	油彩/カンヴァス
72	ポール・ゴーガン	水辺の柳、ポン=タヴェン	1888年	油彩/カンヴァス
73	アンリ・マルタン	画家の家の庭	1902年	油彩/カンヴァス
74	アンリ・ル・シダネル	森の小憩、ジェルプロワ	1925年	油彩/カンヴァス
75	アンリ・ル・シダネル	黄昏の古路	1929年	油彩/カンヴァス
76	モーリス・ユトリロ	モンマルトル、ノルヴァン通り	1916年頃	油彩/カンヴァス
77	モイーズ・キスリング	花	1929年	油彩/カンヴァス
II-2. 造形の革新—2. フォルムと空間				
78	クロード・モネ	睡蓮	1908年	油彩/カンヴァス
79	エミール・ベルナール	城のあるスミュールの眺め	1905年頃	油彩/カンヴァス
80	アルベール・マルケ	トゥーロン湾の眺め	20世紀前半	油彩/カンヴァス
81	モーリス・ド・グラマンク	セーヌ河畔の家並み	1910年頃	油彩/カンヴァス
82	ジョルジオ・モランディ	静物	1948-49年	油彩/カンヴァス
83	ホアン・ミロ	改革	1916年	油彩/カンヴァス

(5) 講演会等

■入門講座

「西洋絵画の400年—ヨーロッパ人が描いてきたもの」

講師：斎藤郁夫(山口県立美術館 学芸参与)

日時：9月7日(土)14:00~15:00

会場：山口県立美術館講座室

定員：80名(聴講無料、当日先着順)

■学芸員によるギャラリートーク

日時：9月14日・21日・28日、10月5日(いずれも土曜日)

10:00~(30分程度)

■託児サービス「ちびっこルーム」

日時：会期中の毎週木曜日 10:00~13:00(定員制・要予約)

会場：山口県立美術館講座室

山口県立美術館開館40周年記念・tysテレビ山口開局50周年記念
 没後90年記念 岸田劉生展 孤高なる絵画への道
 Kishida Riusei : A Retrospective

会 期 令和元年(2019年)11月2日(土)~12月22日(日) ※月曜休館、ただし11月4日および12月2日は開館
 主 催 山口県立美術館、毎日新聞社、中国新聞社、tysテレビ山口
 協 賛 大日本印刷、トヨタ自動車
 特別協力 東京国立近代美術館
 後 援 山口県教育委員会、山口市、山口市教育委員会、周南市、周南市教育委員会、
 一般社団法人山口県観光連盟、山口商工会議所、一般財団法人山口観光コンベンション協会、
 湯田温泉旅館協同組合、周南文化協会、中国放送

山口会場 特別協力 エフエム山口
 山口会場 特別協力 株式会社保険ひろば



チラシ(A3二つ折り)表面



チラシ中面



ポスターA



ポスターB

(1) 趣旨・概要

明治から大正にかけて活躍し、愛娘・麗子の肖像で知られる画家・岸田劉生(1891 - 1929)は、明治の先覚者・岸田吟香の第9子として東京・銀座に生を受けた。画家を志した初期には、雑誌『白樺』に紹介されたゴッホなど後期印象派の作品に衝撃を受け、強烈な色彩と筆致による油彩画を制作。しかし次第に、フランス近代美術の流れの後を追うかのような当時の日本の美術界の流れを余所に、16世紀北方ルネサンスの画家・デューラーなどを規範とする、徹底した細密描写による画風を確立した。さらに、浮世絵や宋元院体画などの東洋美術に「卑近の美」を見出すと、自ら日本画にも取り組む。そして再び油彩画で新たな道を探求せんとしていた1929年、満州からの帰国の途上、山口県徳山(現・周南市)で客死した。

本展は、没後90年を契機に、この岸田劉生の他に類を見ない独創的な画業を、変転を繰り返した人生とともにたどるものであった。したがって展示は基本的に制作年代順とし、劉生の画業や作風の変遷について来場者がより理解を

深められるよう、折々の作風を特に示す代表作には、その特徴を表現したキーワードを添え、生前に執筆・発表された多くの画論等から、劉生の芸術思想を端的に示す一節を抜き出して会場内に掲示、出品作品リストにも掲載した。加えて、劉生の没地・徳山を有する山口での開催にあたり、周南市美術博物館の協力を得て、絶筆である銀屏風の借用が実現。劉生と徳山の関わりを解説パネルとともに紹介することができた。麗子像に焦点を当てたインパクトあるテレビCMの効果もあって(ぐろ〜かるCM大賞2019を受賞)、来場者数は20,031人。

※本展図録は2020年美連協大賞優秀カタログ賞〔自主展部門〕を受賞した。



会場風景1



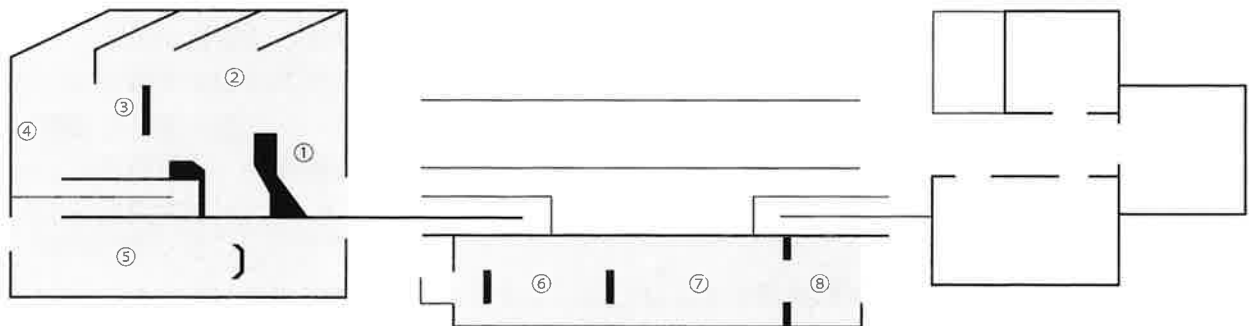
会場風景2



会場風景3

(2) 会場構成

- ① I 「第二の誕生」まで：1907-1913
- ② II 「近代的傾向…離れ」から「クラシックの感化」まで：1913-1915
- ③ III 「実在の神秘」を超えて：1915-1918
- ④ IV 「東洋の美」への目覚め：1919-1921
- ⑤ 麗子の部屋
- ⑥ V 「卑近美」と「写実の欠除」を巡って：1922-1926
- ⑦ VI 「新しい余の道」へ：1926-1929
- ⑧ 劉生と徳山



(3) カタログ

- 編集 名古屋市美術館、東京ステーションギャラリー、山口県立美術館、中日新聞社
 執筆 山田 諭(京都市美術館)
 井口智子(名古屋市美術館)
 田中晴子(東京ステーションギャラリー)
 矢追愛弓(山口県立美術館)
- 翻訳 マーサ・マクリントク
 デザイン 馬面俊之
 制作 コギト
 印刷 大日本印刷株式会社
 発行 中日新聞社
 内容 008 岸田劉生：孤独なるものの行く道 山田諭
 018 I 「第二の誕生」まで：1907-1913
 038 II 「近代的傾向…離れ」から「クラシックの感化」まで：1913-1915
 074 III 「実在の神秘」を超えて：1915-1918
 104 IV 「東洋の美」への目覚め：1919-1921



RIUSEI
 カタログ表紙(麗子微笑版)



RIUSEI
 カタログ表紙(切通之写生版)

134	V 「卑近美」と「写実の欠除」を巡って：1922-1926	
170	VI 「新しい余の道」へ：1926-1929	
194	岸田劉生の「趣味性」による作品について —1912年から1915年の新聞挿画、半切画を中心に	田中晴子
200	岸田劉生と名古屋—劉生の《舞妓図》と杉本健吉	井口智子
204	最期の地・徳山における岸田劉生	矢追愛弓
208	作品解説	
216	岸田劉生活動記録	山田諭 編
304	主要参考文献	山田諭 編
306	出品作品リスト	

* A4変形判(290×223mm)312ページ

(4) 出品目録

前期：11月2日～24日
後期：11月26日～12月22日

no.	作品名	制作年	技法・材質	所蔵	前期	後期
I 「第二の誕生」まで：1907-1913						
1	緑	1907年8月6日	水彩・紙	東京国立近代美術館	○	
2	子守り(想像画)	1907年8月16日	水彩、鉛筆・紙	東京国立近代美術館	○	
3	雨	1907年9月17日	水彩、鉛筆・紙	東京国立近代美術館		○
4	薄暮	1907年9月24日	水彩、鉛筆・紙	東京国立近代美術館	○	
5	社頭(臨画)	1907年10月25日	水彩、鉛筆・紙	東京国立近代美術館		○
6	大銀杏	1907年11月1日	水彩、鉛筆・紙	東京国立近代美術館		○
7	薄暮之海	1907年12月1日	水彩、鉛筆・紙	東京国立近代美術館	○	
8	雨の街路	1908年3月18日	水彩、鉛筆・紙	東京国立近代美術館	○	
9	自画像	1908年7月23日	鉛筆・紙	東京国立近代美術館		○
10	橋	1909年9月15日	油彩・麻布	ふくやま美術館	○	○
11	銀座数寄屋橋	1910年頃	油彩・板	郡山市立美術館	○	○
12	銀座と数寄屋橋畔	1910-11年頃	油彩・板	郡山市立美術館	○	○
13	日比谷の木立	1912年頃	油彩・板	下関市立美術館	○	○
14	自画像	1912年3月14日	油彩・麻布	東京都現代美術館	○	○
15	虎ノ門風景	1912年6月19日	油彩・麻布	東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館	○	○
16-1	築地風景	1912年	木板・紙	郡山市立美術館	○	
16-2	築地風景	1912年	木板・紙	和歌山県立近代美術館		○
17	築地居留地風景	1912年12月23日	油彩・麻布	個人蔵	○	○
18	築地居留地風景	1913年頃	油彩・麻布	個人蔵	○	○
II 「近代的傾向」・「離れ」から「クラシックの感化」まで：1913-1915						
19	真田久吉氏像	1913年4月5日	油彩・麻布	宮城県美術館	○	○
20	斎藤与里氏像	1913年4月30日	油彩・麻布	愛知県美術館	○	○
21	B.L.の肖像(バーナード・リーチ像)	1913年5月12日	油彩・麻布	東京国立近代美術館	○	○
22	M.S.の肖像(千家元麿之像)	1913年5月15日	油彩・麻布	個人蔵	○	○
23	Aの肖像	1913年7月8日	油彩・麻布	平塚市美術館	○	○
25	木村莊八像	1913年8月14日	油彩・板	横須賀美術館	○	○
26	Kの肖像(北太像)	1913年8月23日	油彩・麻布	刈谷市美術館	○	○
27	自画像	1913年10月10日	油彩・麻布	兵庫県立美術館	○	○
28	自画像	1913年11月5日	油彩・麻布	下関市立美術館	○	○
29	清宮氏肖像	1913年11月6日	油彩・麻布	豊橋市美術博物館	○	○
30	自画像	1913年11月21日	油彩・麻布	東京国立近代美術館	○	○
31	自画像	1913年頃	油彩・麻布	個人蔵	○	○
32	自画像	1913年12月25日	油彩・麻布	豊田市美術館	○	○
33	代々木附近	1914年2月1日	油彩・麻布	大阪中之島美術館	○	○
34	自画像	1914年2月13日	油彩・麻布	個人蔵	○	○
35	アダムの孤独	1914年	セピアインク・紙	個人蔵	○	
36	The Earth	1914年頃	インク・紙	東京国立近代美術館	○	
37-1	怒れるアダム	1914年(1975年の後刷り)	エッチング・紙	郡山市立美術館	○	
37-2	怒れるアダム	1914年(1975年の後刷り)	エッチング・紙	福島県立美術館		○
38-1	石を噛む人	1914年(1975年の後刷り)	エッチング・紙	郡山市立美術館	○	
38-2	石を噛む人	1914年(1975年の後刷り)	エッチング・紙	福島県立美術館		○
39-1	欲望	1914年(1975年の後刷り)	エッチング・紙	郡山市立美術館	○	
39-2	欲望	1914年(1975年の後刷り)	エッチング・紙	福島県立美術館		○
41	早存の如	1914年3月17日	油彩・麻布	岡山県立美術館	○	○
42	武者小路実篤像	1914年3月18日	油彩・麻布	東京都現代美術館	○	○
43	自画像(榕君に贈る自画像)	1914年5月8日	油彩・麻布	東京都現代美術館	○	○
44	自画像	1914年5月20日	油彩・麻布	岐阜県美術館	○	○

45	F氏像	1914年5月30日	油彩・麻布	平塚市美術館	○	○
46	黒き土の上に立てる女	1914年7月25日	油彩・麻布	似島美術館	○	○
47	画家の妻	1914年8月18日	油彩・麻布	個人蔵	○	○
48	自画像	1914年10月2日	油彩・麻布	福島県立美術館	○	○
49	道と電信柱	1914年10月15日	油彩・麻布	メナード美術館	○	○
50	Tの肖像	1914年12月12日	油彩・麻布	北九州市立美術館	○	○
51	画家の妻	1915年1月10日	油彩・麻布	大原美術館	○	○
52	高須光治君之肖像	1915年1月20日	油彩・麻布	愛知県美術館	○	○
53	椿君之肖像	1915年2月27日	油彩・麻布	横浜美術館	○	○
Ⅲ	「實在の神秘」を超えて：1915-1918					
54	赤土と草(赤土と草の道)	1915年6月18日	油彩・麻布	浜松市美術館	○	○
55	The Earth	1915年	木版・紙	郡山市立美術館	○	
56	代々木附近(代々木附近の赤土風景)	1915年10月15日	油彩・麻布	豊田市美術館	○	○
57	道路と土手と塀(切通之写生)＊重要文化財	1915年11月5日	油彩・麻布	東京国立近代美術館	○	○
58	男の像	1915年11月18日	木炭・紙	個人蔵	○	
59	高須光治君之肖像	1915年12月22日	油彩・板	豊橋市美術博物館	○	○
60	冬の岸上の道	1915年12月23日	油彩・麻布	個人蔵	○	○
62	草	1916年4月25日	鉛筆・紙	東京国立近代美術館		○
63	壺	1916年4月28日	油彩・板	下関市立美術館	○	○
64	門と草と道	1916年6月7日	油彩・麻布	京都国立近代美術館	○	○
65	古屋君の肖像(草持てる男の肖像)	1916年9月10日	油彩・麻布	東京国立近代美術館	○	○
66	古屋君の顔	1916年10月29日	鉛筆・紙	神奈川県立近代美術館	○	○
67	壺の上に林檎が載って在る	1916年11月3日	油彩・板	東京国立近代美術館	○	○
68	手	1916年11月10日	油彩・板	似島美術館	○	○
69	林檎三個	1917年2月	油彩・麻布	個人蔵	○	○
70	初夏の小路	1917年5月17日	油彩・麻布	下関市立美術館	○	○
71	静物(湯呑と茶碗と林檎三つ)	1917年8月31日	油彩・麻布	大阪中之島美術館	○	○
72	静物(青布と林檎四個)	1917年9月15日	油彩・麻布	個人蔵	○	○
73	静物(赤き林檎二個とビンと茶碗と湯呑)	1917年11月19日	油彩・麻布	ふくやま美術館	○	○
74	霽れたる冬之日	1917年12月13日	油彩・麻布	千葉県立美術館	○	○
75	川幡正光氏之肖像	1918年1月13日	油彩・麻布	東京国立近代美術館	○	○
76	画家自画像	1918年1月31日	木炭、コンテ、チョーク、水彩・紙	東京国立近代美術館		○
77	静物(白き花瓶と台皿と林檎四個)	1918年4月12日	油彩・麻布	福島県立美術館	○	○
78	静物(手を描き入れし静物)	1918年5月8日	油彩・麻布	個人蔵	○	○
79	五月の砂道	1918年5月16日	油彩・麻布	群馬県立近代美術館	○	○
82	長十郎像	1918年10月	コンテ、水彩・紙	個人蔵	○	
83	峯	1918年10月15日	木炭、チョーク・紙	愛知県美術館		○
Ⅳ	「東洋の美」への目覚め：1919-1921					
85	麗子六歳之像	1919年3月7日	水彩・紙	東京国立近代美術館		○
87	村娘之図	1919年3月26日	水彩・紙	福田美術館		○
88	村娘之図	1919年4月13日	水彩、コンテ・紙	下関市立美術館	○	
89	芝川照吉肖像	1919年7月10日	木炭、チョーク・紙	京都国立近代美術館		○
90	麗子坐像	1919年8月23日	油彩・麻布	ポーラ美術館	○	○
91	麗子像	1920年1月16日	水彩・紙	個人蔵		○
92	麗子微笑	1920年2月18日	木炭、水彩・紙	ポーラ美術館	○	
93	麗子立像	1920年2月25日	水彩・紙	長谷川町子美術館		○
94	麗子之像	1920年2月28日	水彩、木炭・紙	個人蔵	○	
95	麦二三寸	1920年3月16日	油彩・麻布	三重県立美術館	○	○
96	静物一赤りんご三個、茶碗、ブリキ罐、匙	1920年3月27日	油彩・麻布	大原美術館	○	○
97	六月風景	1920年6月1日	油彩・麻布	個人蔵	○	○
98	麗子肖像	1920年8月21日	コンテ、水彩・紙	個人蔵		○
99	村嬢於松立像	1921年1月7日	水彩、鉛筆・紙	東京国立近代美術館	○	
100	麗子微笑之立像	1921年4月3日	水彩・紙	メナード美術館	○	○
102	入澤達吉氏肖像	1921年6月30日	油彩・麻布	個人蔵	○	○
104	窓外夏景	1921年7月20日	油彩・麻布	茨城県近代美術館	○	○
105	麗子洋装之像	1921年8月31日	コンテ、水彩・紙	下関市立美術館	○	
106	麗子洋装之像	1921年9月2日	水彩・紙	長谷川町子美術館		○
108	麗子洋装之図(青葉持テル)	1921年9月30日	水彩・紙	豊田市美術館	○	
110	麗子像	1921年10月4日	コンテ、水彩・紙	個人蔵	○	○
111	麗子微笑 ＊重要文化財	1921年10月15日	油彩・麻布	東京国立博物館		11月2日 - 12月8日
Ⅴ	「専近美」と「写実の欠陥」を巡って：1922-1926					
114	麗子像	1922年3月30日	水彩・紙	ポーラ美術館		○
115	窓外早春	1922年3月30日	油彩・麻布	個人蔵	○	○
116	麗子微笑	1922年5月18日	コンテ・紙	個人蔵	○	
117	麗子	1922年5月18日	コンテ・紙	個人蔵	○	○

118	七童図	1922年9月13日	絹本着彩	個人蔵	○	○
119	五福祥集	1922年10月4日	紙本着彩	個人蔵	○	
120	鯉坊主	1922年11月17日	油彩・板	豊田市美術館	○	○
121-1	鶴沼小景 鶴沼兩房窓外雪景図	1922年12月	紙本墨画淡彩	愛知県美術館	○	
121-2	鶴沼小景 窓外春光	1923年1月	紙本墨画淡彩	愛知県美術館	○	
121-3	鶴沼小景 夏山急雨	1923年1月	紙本墨画淡彩	愛知県美術館		○
121-4	鶴沼小景 秋日閑々	1923年1月	紙本墨画淡彩	愛知県美術館		○
122	喜声和春光	1923年2月6日	紙本着彩	ポーラ美術館	○	
123	白狗図	1923年2月13日か15日	絹本着彩	福島県立美術館 河野保雄コレクション	○	
124	椿之図	1923年1月17日	絹本着彩	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社		○
125	竹籠含春	1923年4月9日	油彩・麻布	個人蔵	○	○
126	林六先生閑居図	1923年4月9日	紙本着彩	個人蔵(世田谷美術館寄託)	○	○
127	椿之図	1924年頃	絹本着彩	ポーラ美術館		○
128	晩夏午后	1923年8月31日	油彩・麻布	ポーラ美術館	○	○
130	籠椿	1924年5月17日	油彩・麻布	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社		○
131-1	四季の花果園 調脂丹粉(春)	1924年12月24日	紙本墨画淡彩	東京国立近代美術館	○	
131-2	四季の花果園 盛夏諸甘(夏)	1924年12月24日	紙本墨画淡彩	東京国立近代美術館		○
131-3	四季の花果園 橙柿園(秋)	1924年12月24日	紙本墨画淡彩	東京国立近代美術館	○	
131-4	四季の花果園 大根・慈姑・蜜柑(冬)	1924年12月24日	紙本墨画淡彩	東京国立近代美術館		○
132-1	菜果十色 苺	1925年1月	紙本着彩	下関市立美術館		○
132-2	菜果十色 柿	1925年1月	紙本着彩	下関市立美術館		○
132-3	菜果十色 葡萄	1925年1月	紙本着彩	下関市立美術館	○	
132-4	菜果十色 桃	1925年1月	紙本着彩	下関市立美術館	○	
133	松竹梅図(三友之図)	1925年1月24日	紙本着彩	個人蔵	○	
134	梅花図	1925年2月14日	紙本着彩	個人蔵		○
135	少年肖像(村上巖氏十七歳)	1925年2月27日	油彩・麻布	宇都宮美術館	○	○
136	近藤医学博士之像	1925年3月20日	油彩・麻布	神奈川県立近代美術館	○	○
137	菊園	1925年5月19日	紙本着彩	個人蔵	○	
138	瓜之絵	1925年7月	絹本着彩	個人蔵		○
140	四時百廿	1926年1月7日	紙本着彩	個人蔵	○	
141	童子煎茶	1926年1月	紙本着彩	個人蔵	○	
142	四時競甘	1926年	紙本着彩	愛知県美術館		○
143	人蔘園	1926年春	絹本着彩	東京国立近代美術館		○
VI	「新しい余の道」へ：1926-1929					
144	冬瓜園	1927年3月	油彩・麻布	個人蔵	○	○
145	冬瓜茄子園	1926年夏	絹本着彩	個人蔵	○	
146	永日小閑	1926年夏	紙本着彩	下関市立美術館	○	
147	調脂丹粉	1927年3月	紙本着彩	個人蔵		○
148	田村直臣七十歳記念之像	1927年7月27日	油彩・麻布	東京国立近代美術館	○	○
149	冬瓜葡萄園	1927年10月	油彩・麻布	岡山県立美術館	○	○
150	春日小閑	1928年頃	絹本着彩	ポーラ美術館		○
151	岡崎義郎氏之肖像	1928年5月11日	油彩・麻布	個人蔵	○	○
152	塘牙庵主人閑居之図	1928年頃	紙本着彩	下関市立美術館	○	
153-1	福使黑白 (【棋道】表紙原画)	1929年1月	紙本着彩	個人蔵	○	
153-2	梅窓黑白 (【棋道】表紙原画)	1929年	紙本着彩	個人蔵		○
153-3	花鳥黑白 (【棋道】表紙原画)	1929年3月	紙本着彩	個人蔵	○	
153-4	後庭存昼 (【棋道】表紙原画)	1929年4月	紙本着彩	個人蔵		○
153-5	五月対奕 (【棋道】表紙原画)	1929年5月	紙本着彩	個人蔵	○	
153-6	霖雨笠棋之図 (【棋道】表紙原画)	1929年	紙本着彩	個人蔵		○
153-7	夏扇黑白 (【棋道】表紙原画)	1929年7月	紙本着彩	個人蔵	○	
153-8	二童黑白 (【棋道】表紙原画)	1929年	紙本着彩	個人蔵		○
153-9	秋庭黑白 (【棋道】表紙原画)	1929年9月	紙本着彩	個人蔵	○	
153-10	昆虫黑白 (【棋道】表紙原画)	1929年10月	紙本着彩	個人蔵		○
153-11	楓窓対局 (【棋道】表紙原画)	1929年晩秋	紙本着彩	個人蔵	○	
153-12	冬至対奕 (【棋道】表紙原画)	1929年	紙本着彩	個人蔵		○
154	卓上花果	1929年1月3日	油彩・麻布	個人蔵	○	○
155	ギヤマンのある静物	1929年1月	油彩・麻布	岡山県立美術館	○	○
156	春園金鶏之図	1929年8月28日頃	油彩・麻布	個人蔵	○	○
157	大連風景(路傍秋晴)	1929年10月	油彩・板	個人蔵	○	○
158	路傍秋晴	1929年11月	油彩・麻布	吉野石晋株式会社	○	○
159	路傍秋晴(大連風景)	1929年11月	油彩・麻布	茨城県近代美術館	○	○
160	満鉄嵯峨邸の庭	1929年11月	油彩・麻布	ポーラ美術館	○	○
山口会場	特別出品					
	銀屏風(絶筆)	1929年12月14日	紙本墨画	個人蔵	○	○

写真 劉生(3歳)	1894年	東京国立近代美術館	○
岸田吟香の子女	1906 - 07年頃	東京国立近代美術館	○
葵(19歳)	1911年10月3日	東京国立近代美術館	○
第2回フェウザン会展の頃	1913年3月	東京国立近代美術館	○
麗子を抱く劉生	1914年4月	東京国立近代美術館	○
代々木の劉生一家	1916年4月12日	東京国立近代美術館	○
草土社第3回展にて	1916年11月	東京国立近代美術館	○
鶴沼の劉生一家	1917年11月	東京国立近代美術館	○
麗子(4歳)	1918年7月	東京国立近代美術館	○
白樺十周年記念集會にて(芝公園三楽亭)	1919年4月5日	東京国立近代美術館	○
バーナード・リーチ帰国記念	1920年6月21日	東京国立近代美術館	○
木村莊八婦朝記念(芝川照吉邸)	1920年11月8日	東京国立近代美術館	○
鶴沼海岸にて	1921年8月5日	東京国立近代美術館	○
流逸荘個展会場にて	1921年11月9日	東京国立近代美術館	○
春陽会発会式にて(本郷燕楽軒)	1922年1月14日	東京国立近代美術館	○
野島邸個展会場にて	1922年5月29日	東京国立近代美術館	○
関東大震災直後の劉生一家	1923年9月7日	東京国立近代美術館	○
京都・南禅寺の自邸書齋にて	1923年12月18日	東京国立近代美術館	○
京都・南禅寺の自邸書齋にて	1924年6月23日	東京国立近代美術館	○
京都・南禅寺の自邸書齋にて	1925年1月6日	東京国立近代美術館	○
京都・南禅寺の自邸書齋にて	1924 - 1925年	東京国立近代美術館	○
京都を離れる日の劉生一家	1926年3月11日	東京国立近代美術館	○
鎌倉の劉生一家	1927年6月23日	東京国立近代美術館	○
鎌倉の自邸庭にて	1928年1月1日	東京国立近代美術館	○
鎌倉の自邸書齋にて	1929年6月23日	東京国立近代美術館	○
奉天・北陵にて	1929年10月8日	東京国立近代美術館	○

(5) 講演会等

■講座

「最期の地・徳山における岸田劉生」

日時：11月9日(土) 14:00~15:00

会場：山口県立美術館講座室

講師：矢追愛弓(山口県立美術館 専門学芸員)

定員：80名(聴講無料、当日先着順)

■学芸員によるギャラリートーク

日時：11月16日、30日(いずれも土曜日)

10:00~(30分程度)

■託児サービス：ちびっこルーム

日時：会期中毎週木曜日 10:00~13:00(定員制・要予約)

会場：山口県立美術館講座室

山口県立美術館 開館40周年 特別展

雪舟の仏画 — 初公開の《騎獅文殊・黄初平・張果老図》を中心に —

会 期 令和元年(2019年)11月2日(土)～12月8日(日) ※月曜休館、ただし11月4日、12月2日は開館
 主 催 ミュージアム・タウン・ヤマグチ実行委員会
 特別協力 エフエム山口



ポスター



チラシ表



チラシ裏

(1) 趣旨・概要

本展覧会は、これまで広く紹介されることのなかった二点の雪舟作品を中心に構成する。一点は、《騎獅文殊・黄初平・張果老図》(個人蔵)で、これは雪舟が若い頃、まだ「雪舟」と名乗ってさえいなかった時に描いたと考えられるものである。三幅一対という、室町時代の掛幅としてもっとも格式の高い形式をとる意欲的な作品であり、雪舟の画業初期の作例の中でも、重要な位置を占めるものと言えるだろう。もう一点は、《羅漢図》(岡山県立美術館蔵)で、こちらは雪舟その人の手になるものではなく、ごく近い弟子の一人が描いたのではないかと推測される作品であるが、きわめて数が少ない雪舟晩年期の人物画を考えるうえでとても貴重な情報を提供する。本展はこれら二点の作品を中心に雪舟の仏画・人物画を集め、比較することによって、仏画・人物画の分野における雪舟の画風形成についてあらためて考えようとするものである。この展覧会をきっかけに、これまで山水画や花鳥画に比して研究の少なかった雪舟の人物画に、新たな光が当たることを期待して企画した。入館者数は7,349人。



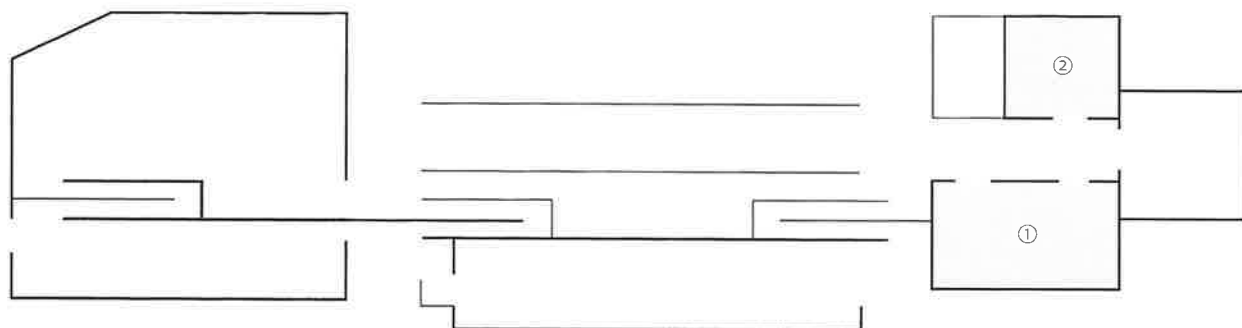
会場風景1



会場風景2

(2) 会場構成

- ① 騎獅文殊・黄初平・張果老図
- ② 羅漢図と三十三観音図



(3) カタログ

執筆・編集 荏開津通彦(山口県立美術館)
 デザイン・制作 栗原朗(クワハラデザイン)
 印刷・製本 瞬報社写真印刷株式会社
 発行 ミュージアム・タウン・ヤマグチ実行委員会

内容 5 図版

- 38 雪舟の仏画—《騎獅文殊・黄初平・張果老図》を中心に— 荏開津通彦
 47 雪舟の名前 荏開津通彦
 50 作品解説
 58 雪舟略年譜
 60 印章・付属品
 62 出品目録

* A4版(297×223mm)64ページ



カタログ表紙

(4) 出品目録

no.	作者	作品名	材質	形状・員数	制作年代	所蔵	指定
1	雪舟等揚	騎獅文殊・黄初平・張果老図	紙本墨画	掛幅装・三幅	室町時代	個人	
2	笹山養意 [原本雪舟]	黄初平図 模本	紙本墨画	掛幅装・一幅	江戸時代	東京国立博物館	
3	昇正英 [原本雪舟]	張果老図 模本	紙本墨画	未表装・一枚	江戸時代	東京国立博物館	
4	狩野信章・狩野董四郎 [原本梁楷]	李白・東方朔図 模本	紙本墨画	掛幅装・二幅	江戸時代	東京国立博物館	
5	狩野常信 [原本雪舟]	文殊菩薩図 模本	紙本墨画	掛幅装・一幅	江戸時代	東京国立博物館	
6	雪舟等揚 [款]	杜甫・潘閻騎驢図	紙本墨画	掛幅装・二幅	江戸～室町時代	岡山県立美術館	
7	雪舟等揚	杜子美贊鷹図	紙本墨画	掛幅装・一幅	室町時代	個人	
8	雪舟等揚 [款]	騎獅文殊図	紙本墨画淡彩	掛幅装・一幅	江戸～室町時代	個人	
9	雪舟等揚	達磨図	紙本墨画淡彩	掛幅装・一幅	江戸～室町時代	出光美術館	
10	如寄 [款]	達磨図	紙本墨画淡彩	掛幅装・一幅	江戸～室町時代	山口県立美術館	
11	雪舟等揚	出山釈迦図	紙本墨画	掛幅装・一幅	室町時代	岡山県立美術館	
12	雪舟等揚 [款]	出山釈迦図	紙本着色	掛幅装・一幅	江戸～室町時代	北九州・福聚寺	
13	雲溪永怡	釈迦三尊図	絹本墨画淡彩	掛幅装・三幅	室町時代	萩・東光寺	
14		釈迦三尊図	絹本墨画淡彩	掛幅装・三幅	江戸～室町時代	萩・法積寺	
15	雪舟工房	羅漢図	紙本着色	掛幅装・一幅	室町時代	岡山県立美術館	
16	蔡山	羅漢図	絹本着色	掛幅装・一幅	元時代	個人	
17		観世音菩薩普門品経典	紙本木版	画帖装・一冊	元時代	龍谷大学図書館	
18	雪舟等揚 [款]	観音三十三身像 如日虚空住身	紙本墨画淡彩	掛幅装・一幅	江戸～室町時代	山口県立美術館	
19	明兆	観音三十三身像 如日虚空住身	絹本着色	掛幅装・一幅	室町時代	京都・東福寺	◎
20		観音三十三身像 如日虚空住身	紙本着色	掛幅装・一幅	室町時代	藤田美術館	
21	狩野常信 [原本雪舟]	観音三十三身像 居士身 模本	紙本墨画淡彩	掛幅装・一幅	室町時代	個人	
22	明兆	観音三十三身像 居士身	絹本着色	掛幅装・一幅	室町時代	京都・東福寺	◎
23		観音三十三身像 居士身	紙本着色	掛幅装・一幅	室町時代	藤田美術館	

◎—重要文化財

(5) 講演会等

■シンポジウム

「雪舟研究会シンポジウム 室町水墨画における中国道釈画の受容」

パネリスト：荏開津通彦(山口県立美術館)

梅沢恵(神奈川県立金沢文庫)

西谷功(泉涌寺宝物館心照殿)

コメンテーター：塚本磨充(東京大学東洋文化研究所)

司会：畑靖紀(九州国立博物館)

日時：11月16日(土)13:00～16:15

会場：山口県立美術館講座室

定員：80名(当日先着順・聴講無料)

主催：ミュージアム・タウン・ヤマグチ実行委員会

科研費基盤研究(B)「公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究」

■学芸員によるギャラリートーク

日時：11月2日・11月30日(いずれも土曜日)14:00～(30分程度)

■託児サービス「ちびっこルーム」

日時：会期中毎週木曜日 10：00～13：00(定員制・要予約)

会場：山口県立美術館講座室

ハマスホイとデンマーク絵画

会 期 令和2年(2020年)4月7日(火)～6月7日(日) 月曜休館

※ただし5月4日、6月1日は開館

※GW期間中の5月2日～5日は20:00まで開館

※新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、4月7日～5月25日まで臨時休館(実際の開催期間:5月26日～6月7日)

主 催 山口県立美術館、読売新聞社、KRY山口放送

後 援 デンマーク王国大使館

協 力 ルフトハンザカーゴ AG

山口会場 山口県教育委員会、山口市、山口市教育委員会、一般社団法人山口県観光連盟、山口商工会議所、

後 援 一般財団法人山口観光コンベンション協会、湯田温泉旅館協同組合

山口会場 エルクホームズ株式会社

特別協賛



ポスター(B2変形判)



チラシ(A3変形判二つ折り)A表面



チラシB表面

(1) 趣旨・概要

身近な人物の肖像や風景、そして静まり返った室内を描き、“北欧のフェルメール”とも称されるデンマークの画家、ヴィルヘルム・ハマスホイ(1864-1916)。没後、一度は忘れ去られたハマスホイの静謐な芸術は、1990年代以降、パリのオルセー美術館やニューヨークのグッゲンハイム美術館などで次々と回顧展が開催され、再び注目を集めている。

本展は、ヴィルヘルム・ハマスホイを中心に、近代デンマーク美術の精華を包括的に紹介する日本初の試みである。2014年に最初の企画書を作成し、以降、デンマーク国立美術館をはじめとするレンダーとの交渉や関係各所との協議を重ねながら準備を進めた。「黄金期」と呼ばれる19世紀前半のデンマーク美術から、画家たちが“デンマーク的な”モチーフを探求した世紀半ば、そしてハマスホイを筆頭に優れた画家たちが、伝統を礎としながら新たな活動を展開した世紀末まで、全体で4章構成とし、計87点(東京会場では88点)の作品および資料を通じて、北欧の小さな国が育んだ豊かな芸術文化を紹介した。

2021年1月に東京都美術館で開催し、その後山口県立美術館に巡回。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、東京会場は2月28日で閉幕し、山口会場も2度の開幕延期を経て5月26日に開幕した(実際の会期は13日間)。開幕は厳格な感染症対策を徹底して行うことで可能となったが、職員の負担が余にも大きく、また来場者の自由度という観点からも、以降の展覧会に応用できる体



チラシ中面(共通)



会場風景1



会場風景2



会場風景3

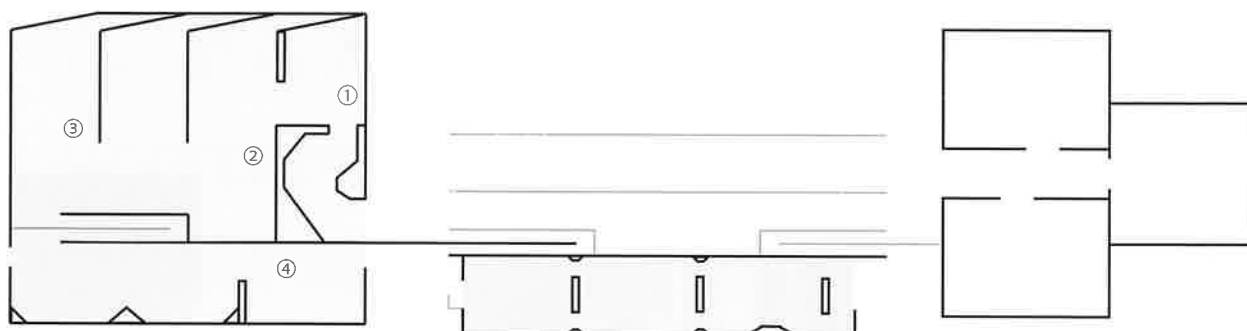


会場風景4

制とは言い難いものだった。それでも、コロナ禍における美術館のあるべき(ありうべき)姿を内外に示す、という意味において、一つのメッセージを発することができたのではないかと思う。実際に展示をご覧いただけた、限られた数の来場者の満足度はきわめて高く、そうした方々の声に励まされて会期を全うすることができた。

(2) 会場構成

- ① 1 日常礼賛—デンマーク絵画の黄金期
- ② 2 スケーイン派と北欧の光
- ③ 3 19世紀末のデンマーク絵画—国際化と室内画の隆盛
- ④ 4 ヴィルヘルム・ハマスホイ—首都の静寂の中で



(3) カタログ

編集 東京都美術館、山口県立美術館、読売新聞東京本社文化事業部

執筆 園府寺 司(大阪大学)

高城靖之(東京都美術館)

田辺 欧(大阪大学)

ピーダ・ナアゴー＝ラーソン(デンマーク国立美術館)

萬屋健司(山口県立美術館)

翻訳 レニ・ラウリトソン、マーサ・マクリントク、高城靖之

編集補助 住谷美都子

デザイン 森重智子(美術出版社 デザインセンター)

制作 美術出版社 デザインセンター

発行 読売新聞東京本社

内容 4 ごあいさつ

6 謝辞

8 19世紀デンマーク美術—自然の忠実な観察から詩情あふれる象徴主義へ
ピーダ・ナアゴー＝ラーソン

17 ヴィルヘルム・ハマスホイと19世紀末コペンハーゲンの室内画
萬屋健司

26 1 日常礼賛—デンマーク絵画の黄金期

54 デンマーク黄金期文学の遠景にあるもの
田辺 欧

56 2 スケーイン派と北欧の光

80 19世紀ヨーロッパの芸術家コロニー
高城靖之

82 3 19世紀末のデンマーク絵画—国際化と室内画の隆盛

88 デンマークとポスト印象主義画家—ファン・ゴッホ、モアイエ＝ピーダスン、ゴーガン
園府寺 司

116 ヴィルヘルム・ハマスホイ—首都の静寂の中で

182 母と子と—フレゼレゲのスクラップブック
萬屋健司

184 引用原文一覧

186 関連年表

192 関連地図



カタログ表紙

194 Danish 19th Century Art -From close observation of nature to evocative symbolism

Peter Nørgaard Larsen

201 Vilhelm Hammershøi and Interior Paintings in Fin-de-Siècle Copenhagen

Yorozuya Kenji

206 主要参考文献

209 出品作品リスト

* A4変形判 (228×288 mm) 216ページ

(4) 出品目録

no.	作家名	作品名	制作年	技法/素材	所蔵
1	日常礼賛—デンマーク絵画の黄金期				
1	クレステン・クプゲ	カステレス北門の眺め	1833-34年	油彩/紙	ヒアシュブロング・コレクション
2	クレステン・クプゲ	ランゲリニエと軍港を望むカステレスの風景	1832年頃	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
3	クレステン・クプゲ	パン屋の傍の川庭、カステレス	1832年頃	油彩/カンヴァス	ニュー・カールスベア彫刻美術館
4	クレステン・クプゲ	自画像	1833年頃	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
5	ダンクヴァット・ドライア	自画像	1838年	油彩/板	ブランツ美術館
6	クレスチャン・アルブレクト・イェンセン	マティ・アス・フリース・フォン・イアウンス=ベアウの肖像	1824年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
7	クレスチャン・アルブレクト・イェンセン	マティルデ・ティレーン・フォン・イアウンス=ベアウ (旧姓ホルスティーン) の肖像	1824年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
8	コンスタンティーン・ハンスン	果物籠を持つ少女	1827年頃	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
9	マーティ・ヌス・ラアビュー	外科医クレスチャン・フェンガとその家族	1829年	油彩/カンヴァス	リーベ美術館
10	ヴィルヘルム・マーストラン	フレゼレゲ・ラフェムベア (旧姓ヘーイロフ) の肖像	1846年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
11	クレスデン・クプゲ	海岸通りと入り江の風景、静かな夏の午後	1837年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
12	ダンクヴァット・ドライア	シュレースヴィヒを彼方に望むアセスの風景	1834-35年	油彩/カンヴァス	ブランツ美術館
13	クレスデン・クプゲ	フレズレクスボー城の榎—湖と町、森を望む風景	1834-35年	油彩/カンヴァス	デンマーク・デザイン博物館 (デンマーク国立美術館に寄託)
14	ダンクヴァット・ドライア	フランス—島のドルメン	1842-43年	油彩/カンヴァス	ブランツ美術館
15	ヨハン・トマス・ロンビュー	シェラン島、ロズスコウの小作地	1847年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
16	ピーダ・クレスチャン・スコウボー	ティスヴィレの森から望むフレズレクスヴェアクの風景	1839年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
2	スケーイン派と北歐の光				
17	フリッツ・タウロウ	スケーインの海岸	1879年	油彩/カンヴァス	スケーイン美術館
18	ヴィゴ・ヨハンスン	海辺の網干し場	1876年	油彩/カンヴァス	スケーイン美術館
19	ミケール・アング	ボートを漕ぎ出す漁師たち	1881年	油彩/カンヴァス	スケーイン美術館
20	アナ・アング	戸口で縫物をする少女	1879-84年	油彩/カンヴァス	スケーイン美術館
21	オスカル・ビュルク	遭難信号	1883年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館 (スケーイン美術館に寄託)
22	ピーザ・スィヴェリール・クロイア	漁網を繕うクリストファ	1886年	油彩/カンヴァス	スケーイン美術館
23	オスカル・ビュルク	スケーインの海に漕ぎ出すボート	1884年	油彩/カンヴァス	スケーイン美術館
24	ミケール・アング	9月のスケーイン南海岸	1893年	油彩/カンヴァス	スケーイン美術館
25	ヴィゴ・ヨハンスン	9月の夕暮れ、スケーイン	1889年	油彩/カンヴァス	スケーイン美術館
26	ヴィゴ・ヨハンスン	台所の片隅、花を生ける画家の妻	1884年	油彩/カンヴァス	スケーイン美術館
27	クリスティアン・クローグ	娘の髪を編む母親	1888年	油彩/カンヴァス	スケーイン美術館
28	ミケール・アング	スケーインの北の野原で花を摘む少女と子供たち	1887年	油彩/カンヴァス	スケーイン美術館
29	ピーザ・スィヴェリール・クロイア	朝食—画家とその妻マリーイ、作家のオト・ベンソン	1893年	油彩/板	ヒアシュブロング・コレクション
30	ピーザ・スィヴェリール・クロイア	詩人ホルガ・ドラクマンの肖像	1902年	油彩/板	ヒアシュブロング・コレクション
31	ピーザ・スィヴェリール・クロイア	スケーイン南海岸の夏の夕べ、アナ・アングとマリーイ・クロイア	1893年	油彩/カンヴァス	ヒアシュブロング・コレクション
3	19世紀末のデンマーク絵画—国際化と室内画の隆盛				
32	ティーオド・フリブスン	晩秋のデュエアヘーヴェン森林公園	1886年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
33	クレスチャン・モアイエ=ピーダスン	花咲く桃の木、アルル	1888年	油彩/カンヴァス	ヒアシュブロング・コレクション
34	ヴィゴ・ピーダスン	居間に射す陽光、画家の妻と子	1888年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
35	ヨハン・ローゼ	夜の波止場、ホールン	1893年	油彩/カンヴァス	ヒアシュブロング・コレクション
36	ユーリウス・ポウルスン	夕暮れ	1893年	油彩/カンヴァス	ラナス美術館
37	ヨハン・ローゼ	画家クレスチャン・サートマンの肖像	1896年	油彩/カンヴァス	スウェーデン国立美術館
38	ユーリウス・ポウルスン	カーアン=ブラムスの肖像	1900年	油彩/カンヴァス	ブランツ美術館
39	ヴィゴ・ヨハンスン	コーヒーを飲みながら	1884年	油彩/カンヴァス	リーベ美術館
40	ヴィゴ・ヨハンスン	きよしこの夜	1891年	油彩/カンヴァス	ヒアシュブロング・コレクション
41	ヴィゴ・ヨハンスン	春の草花を描く子供たち	1894年	油彩/カンヴァス	スケーイン美術館
42	ラウリツ・アナスン・レング	遅めの朝食、新聞を読む画家の妻	1898年	油彩/カンヴァス	スウェーデン国立美術館
43	ピーダ・イルステズ	アンズダケの下着えをする若い女性	1892年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
44	カール・ホルスウ	読書する女性のいる室内	1913年以前	油彩/カンヴァス	アロス・オーファース美術館
45	ピーダ・イルステズ	ピアノに向かう少女	1897年	油彩/カンヴァス	アロス・オーファース美術館
46	ピーダ・イルステズ	縫物をする少女	1898-1902年	油彩/カンヴァス	リーベ美術館
47	カール・ホルスウ	読書する少女のいる室内	1903年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
48	カール・ホルスウ	室内	不詳	油彩/カンヴァス	アロス・オーファース美術館
49	ギーオウ・エーゲン	藍色のライティング・ビューロー	1901年	油彩/繊維板	ブランツ美術館
4	ヴィルヘルム・ハマスホイ—首都の静寂の中で				
50	ヴィルヘルム・ハマスホイ	アキレウスに懇願するプリアモス (トローアリスによるレリーフの模写)	1880-84年	油彩/カンヴァス	マルム—美術館
51	ヴィルヘルム・ハマスホイ	裸婦	1884年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
52	ヴィルヘルム・ハマスホイ	夏の夜、ティスヴィレ	1885年	油彩/カンヴァス	マルム—美術館
53	ヴィルヘルム・ハマスホイ	ゲントフテの風景	1892年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
54	ヴィルヘルム・ハマスホイ	古いストープのある室内	1888年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
55	ヴィルヘルム・ハマスホイ	画家の母のいる室内	1889年	油彩/カンヴァス	スウェーデン国立美術館
56	ヴィルヘルム・ハマスホイ	自画像	1890年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
57	ヴィルヘルム・ハマスホイ	画家クレスチャン・サートマンの肖像	1889年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
58	ヴィルヘルム・ハマスホイ	夜の室内、画家の母と妻	1891年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
59	ヴィルヘルム・ハマスホイ	画家と妻の肖像、パリ	1892年	油彩/カンヴァス	デューヴィズ・コレクション
60	ヴィルヘルム・ハマスホイ	画家の妻、イーダ・ハマスホイ (旧姓イルステズ)	1894年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
61	ヴィルヘルム・ハマスホイ	ルーヴル美術館の古代ギリシャのレリーフ	1891年	油彩/カンヴァス	ニュー・カールスベア彫刻美術館

62	ヴィルヘルム・ハマスホイ	チェロ奏者、ヘンリユ・ブラムスの肖像	1893- 94年	油彩/カンヴァス	ブランツ美術館
63	ヴィルヘルム・ハマスホイ	三人の若い女性	1895年	油彩/カンヴァス	リーベ美術館
64	ヴィルヘルム・ハマスホイ	室内、ラーベクス・アリ	1893年	油彩/カンヴァス	ユートボリ美術館
65	ヴィルヘルム・ハマスホイ	寝室	1896年	油彩/カンヴァス	ユートボリ美術館
66	ヴィルヘルム・ハマスホイ	農場の家屋、レスネス	1900年	油彩/カンヴァス	デーヴィズ・コレクション
67	ヴィルヘルム・ハマスホイ	ローマ、サント・ステファノ・ロンド聖堂の内部	1902- 03年	油彩/カンヴァス	ブランツ美術館
68	ヴィルヘルム・ハマスホイ	ライラの風景	1905年	油彩/カンヴァス	スウェーデン国立美術館
69	ヴィルヘルム・ハマスホイ	若いブナの森、フレスレクスヴェアク	1904年	油彩/カンヴァス	デーヴィズ・コレクション
70	ヴィルヘルム・ハマスホイ	室内	1898年	油彩/カンヴァス	スウェーデン国立美術館
71	ヴィルヘルム・ハマスホイ	画家の妻のいる室内、ストラランゲゼ30番地	1902年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
72	ヴィルヘルム・ハマスホイ	廊下に面した室内、ストラランゲゼ30番地	1903年	油彩/カンヴァス	デーヴィズ・コレクション
73	ヴィルヘルム・ハマスホイ	背を向けた若い女性のいる室内	1903- 04年	油彩/カンヴァス	ラナス美術館
74	ヴィルヘルム・ハマスホイ	三隻の船、クレスチャンスハウン運河の眺め	1905年	油彩/カンヴァス	デーヴィズ・コレクション
75	ヴィルヘルム・ハマスホイ	ロンドン、モンタギュー・ストリート	1906年	油彩/カンヴァス	ニュー・カールスベア彫刻美術館
76	ヴィルヘルム・ハマスホイ	イーダ・ハマスホイの肖像	1907年	油彩/カンヴァス	アロス・オーフス美術館
77	ヴィルヘルム・ハマスホイ	聖ペテロ聖堂	1906年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
78	ヴィルヘルム・ハマスホイ	スネガステインの並木道	1906年	油彩/カンヴァス	デーヴィズ・コレクション
79	ヴィルヘルム・ハマスホイ	風景、ゲントアテ	1906年	油彩/カンヴァス	ラナス美術館
80	ヴィルヘルム・ハマスホイ	室内— 開いた扉、ストラランゲゼ30番地	1905年	油彩/カンヴァス	デーヴィズ・コレクション
81	ヴィルヘルム・ハマスホイ	室内— 陽光習作、ストラランゲゼ30番地	1906年	油彩/カンヴァス	デーヴィズ・コレクション
82	ヴィルヘルム・ハマスホイ	室内、蠟燭の明かり	1909年	油彩/カンヴァス	デンマーク国立美術館
83	ヴィルヘルム・ハマスホイ	クレスチャンスボ—宮廷礼拝堂	1910年	油彩/カンヴァス	スウェーデン国立美術館
84	ヴィルヘルム・ハマスホイ	裸婦習作	1909-10年	油彩/カンヴァス	マルム—美術館
85	ヴィルヘルム・ハマスホイ	ピアノを弾く妻イーダのいる室内	1910年	油彩/カンヴァス	国立西洋美術館
86	ヴィルヘルム・ハマスホイ	カード・テーブルと鉢植えのある室内、ブレスゲゼ25番地	1910 -11年	油彩/カンヴァス	マルム—美術館

資料

no.	名称	製作者	製作年	素材	所蔵
1	パンチボウル	ロイヤル コペンハーゲン	18-19 世紀	磁器	個人蔵
2	トレイ	不詳	不詳	錫	個人蔵

(5) 講演会等 ※新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休館のため、すべて中止

■入門講座

「ヴィルヘルム・ハマスホイ—静寂の詩人」
 講師：萬屋健司(山口県立美術館 学芸課主任)
 日時：4月25日(土)14:00~15:00
 場所：山口県立美術館講座室
 定員：80名(聴講無料、当日先着順)

■夜間開館ギャラリートーク

日時：5月2日(土)~5日(火)18:00~(1時間程度)

■学芸員によるスライドトーク

日時：4月11日・18日、5月16日・23日(いずれも土曜日)14:00~(30分程度)

■託児サービス：ちびっこルーム

日時：会期中毎週木曜日 10:00~13:00 (定員制・要予約)
 会場：山口県立美術館講座室

奇才 —江戸絵画の冒険者たち—

会 期 令和2年(2020年)7月7日(火)～8月30日(日) ※月曜休館、ただし8月10日は開館
 主 催 山口県立美術館、読売新聞社、KRY山口放送
 後 援 山口県教育委員会、山口市、山口市教育委員会、
 一般社団法人山口県観光連盟、山口商工会議所、
 一般財団法人山口観光コンベンション協会、湯田温泉旅館協同組合
 特別協賛 西京銀行



ポスター



チラシ(A3二つ折り)表面



チラシ中面

(1) 趣旨・概要

近年、江戸時代の絵画に対する注目度が飛躍的に高まっており、「江戸絵画ブーム」は社会現象ともなっている。本展は、そのような現状を踏まえ、安村敏信氏(萬美術屋、北斎館館長)の企画監修のもと、思いもよらない“奇”なる発想で斬新な表現に挑んだ絵師を「奇才」と捉え、全国から35人の奇才の絵画を一堂に集める試みとなった。近年とみに人気の高い伊藤若冲など「奇想」の絵師のみならず、狩野派や円山応挙など江戸絵画の“主流”絵師、さらに無名の絵師に至るまで、前例にとらわれない表現に着目し、“奇”の追求こそが江戸絵画の主流であったことを提示する内容で、山口県域からも神田等謙という江戸時代後期の雲谷派絵師を紹介できた。

本展は、東京(江戸東京博物館)、山口(当館)、大阪(あべのハルカス美術館)の全国3会場を巡回。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、東京会場では一部作品の出品が叶わない事態となったが、当会場では感染が落ち着いた時期の開催となったため、関係諸機関のご協力のもと、予定を上回る出品点数を展示できたのは幸いであった。

また本展では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、観覧チケットのオンライン予約システムを採用し、従来型の館内販売をも併用したが、通常の特別展では一定数を見込める高齢者層の入場者数は激減した。その反面、“奇”をイメージした蛍光ピンク色のロゴを用いた印刷物や、個性的なテレビおよびウェブCMが功を奏したのか、普段の古美術展に比べると学生など若年層の入場者数が増え、土日祝日には20・30代の親子連れの姿も多く見られた。会期中に休館の措置を取ることにはなかったものの、コロナ禍による影響は大きく、入場者数は当初目標に遠く及ばない16,489人で終幕した。



会場風景1



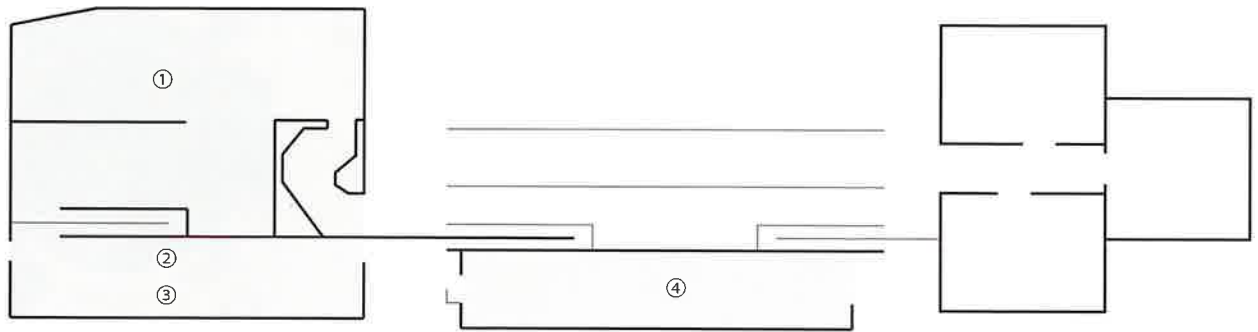
会場風景2



会場風景3

(2) 会場構成

- ① 京都
- ② 大坂
- ③ 江戸
- ④ 諸国



(3) カタログ

- 編集 東京都江戸東京博物館、山口県立美術館、あべのハルカス美術館、我妻直美(美術史家)、読売新聞社
 発行 読売新聞社
 内容 008 諸国から湧き出づる奇才たち 安村敏信
 019 京都 俵屋宗達・尾形光琳・狩野山雪・伊藤若冲・円山応挙・長澤蘆雪・曾我蕭白・池 大雅・与謝蕪村・祇園井持・狩野永岳
 149 大坂 中村芳中・耳鳥斎・林 閨苑・墨江武禪
 187 江戸 葛飾北斎・加藤信清・谷 文晁・鈴木其一・狩野(逸見)一信・歌川国芳
 257 諸国 松前：蠣崎波響・仙台：菅井梅関・水戸：林 十江・古河：河鍋暁斎・飯田：佐竹蓬平・小布施：高井鴻山・駿河：白隠・尾張：田中訥言・福井：岩佐又兵衛・岡山：浦上玉堂・高知：絵金・福岡：仙厓・鳥取・長崎：片山楊谷・山口：神田等謙
 374 作品リスト
 394 List of Works
 401 Painter Biographies
 * A4変形判(300×226mm)404ページ



カタログ表紙

(4) 出品目録

※ 作品no. は図録掲載の作品番号。本出品目録に番号が記載されている作品のみを展示。

no.	指定	作品名	筆者	頁数	材質・技法	所蔵
1	京都	伊勢物語国色紙 芥川	俵屋宗達	1幅	紙本着色	奈良・大和文華館
5		流水図広蓋	尾形光琳	1枚	木製・絹本着色	奈良・大和文華館
6		菊園香包	尾形光琳	1幅	絹本金地着色	個人蔵
7		竹虎図	尾形光琳	1幅	紙本墨画	京都国立博物館
8		龍虎図屏風	狩野山雪	6曲1双	紙本着色	個人蔵
9		楼閣山水図屏風	狩野山雪	6曲1双	紙本墨画着色	個人蔵
11		蝦蟇・鉄拐図	狩野山雪	2幅	絹本墨画着色	京都・泉涌寺
12		明皇貴妃図屏風	狩野山雪	6曲1隻	紙本金地着色	京都国立博物館
13		武家相撲絵巻	狩野山雪	1巻	紙本淡彩	東京・(財)日本相撲協会 相撲博物館
14		維摩居士図	狩野山雪	1幅	紙本墨画淡彩	福井・善尊寺
15	重要文化財	菜蟲譜	伊藤若冲	1巻	絹本着色	栃木・佐野市立吉澤記念美術館
16		乗輿舟	伊藤若冲	1巻	紙本拓版	東京・大倉集古館
17		鶏園押絵貼屏風	伊藤若冲	6曲1双	紙本墨画	個人蔵
23		四季の月図	円山応挙	4幅	紙本墨画淡彩	兵庫・白鶴美術館
25		行水美人図	円山応挙	1幅	紙本墨画	東京黎明アートルーム
27		布袋図	円山応挙	1幅	紙本淡彩	東京黎明アートルーム
33	重要文化財	群鶴図襖	長澤蘆雪	6面	紙本墨画	和歌山・無量寺 串本応挙芦雪館
36		鯉図	長澤蘆雪	1幅	紙本墨画	和歌山・無量寺 串本応挙芦雪館
37		牛図	長澤蘆雪	1幅	紙本着色	個人蔵

39		群童遊戯園屏風	曾我蕭白	6曲1双	紙本銀地着色	福岡・九州国立博物館
40	重要文化財	樓閣山水園屏風	曾我蕭白	6曲1双	紙本着色	滋賀・近江神宮
41	重要文化財	唐獅子図	曾我蕭白	2幅	紙本墨画	三重・朝日寺
42	重要文化財	陸奥奇跡園巻	池大雅	1巻	紙本墨画淡彩	福岡・九州国立博物館
44		富士十二景図(3・5・6・8・9月)	池大雅	12幅のうち5幅	絹本着色	東京藝術大学
45		富士十二景図(4・7・10月)	池大雅	12幅のうち3幅	絹本着色	兵庫・滝翠美術館
46	重要文化財	五百羅漢図	池大雅	8幅のうち2幅	紙本墨画淡彩	京都・萬福寺
47		閻夜漁舟図	与謝蕪村	1幅	絹本墨画淡彩	大阪・阪急文化財団逸翁美術館
49		「ちいもは、も」両幀図	与謝蕪村・円山応挙	1幅	紙本墨画淡彩	広島・海の見える杜美術館
50		花見又平図	与謝蕪村	1幅	紙本着色	大阪・阪急文化財団逸翁美術館
51	重要文化財	弁慶図	与謝蕪村	1幅	紙本淡彩	文化庁
52		天橋立図	与謝蕪村	1幅	紙本墨画	個人蔵
53		山水花鳥人物図	与謝蕪村	10幅	紙本墨画淡彩	個人蔵
56		本居宣長七十二歳像	祇園井持	1幅	絹本着色	三重・本居宣長記念館
58		公卿と官女園屏風	祇園井持	2曲1隻	絹本着色	千葉市美術館
59		花魁道中園屏風	祇園井持	2曲1隻	絹本着色	京都府(京都府京都文化博物館管理)
60		二美人図	祇園井持	1幅	紙本着色	京都府(京都府京都文化博物館管理)
61		美人図	祇園井持	1幅	紙本着色	京都府(京都府京都文化博物館管理)
62		手あぶり美人図	祇園井持	1幅	絹本着色	京都府(京都府京都文化博物館管理)
64		熊鷹園屏風	狩野永岳	6曲1双	紙本着色	京都・泉涌寺
65		富士雲龍・大饗園扇面	狩野永岳	1柄	紙本金地着色	京都・隣華院
66		林和靖愛鶴・流水撫子園扇面	狩野永岳	1柄	紙本金地着色	京都・隣華院
67		梅花園扇面	狩野永岳	1面	紙本金地着色	京都・隣華院
大坂						
68		老松図	中村芳中	1幅	紙本淡彩	個人蔵
69		菊園	中村芳中	1幅	紙本淡彩	個人蔵
70		公卿観楓園	中村芳中	1幅	紙本着色	個人蔵
71		登城図	中村芳中	1幅	紙本淡彩	個人蔵
72		落下鶴図	中村芳中	1幅	紙本淡彩	個人蔵
74		別世界巻	耳島斎	1巻	紙本墨画淡彩	大阪・関西大学図書館
75		戯画巻	耳島斎	1巻	紙本墨画淡彩	福岡市博物館
76		大石氏祇園一力康楽之図	耳島斎	1幅	紙本墨画淡彩	大阪・関西大学図書館
77		見立西行園	耳島斎	1幅	紙本墨画	福岡市博物館
78		天狗寺老鼻頭くらべ	耳島斎	1幅	紙本墨画	京都府(京都府京都文化博物館管理)
79		十二か月園	耳島斎	2幅	紙本墨画淡彩	大阪・関西大学図書館
80		月見昇々園	耳島斎	1幅	紙本墨画淡彩	福岡市博物館
81		福祿寿	耳島斎	1幅	紙本墨画淡彩	大阪・関西大学図書館
82		青緑山水園	林閻苑	1幅	絹本着色	個人蔵
84		紫雲蘭園	林閻苑	1幅	絹本着色	個人蔵
85		寒蘭園	林閻苑	1幅	絹本着色	個人蔵
86		鹿園	林閻苑	1幅	紙本墨画	大阪歴史博物館
89		雛園	墨江武輝	1幅	絹本着色	個人蔵
90		夏季美人園	墨江武輝	1幅	絹本着色	個人蔵
91		月下山水園	墨江武輝	1幅	絹本墨画	東京・府中市美術館
93		寒林山水園	墨江武輝	1幅	絹本着色	個人蔵
94		明州園	墨江武輝	1幅	絹本着色	大阪歴史博物館
95		花鳥園	墨江武輝	1幅	絹本着色	個人蔵
江戸						
96		弘法大師修法図	葛飾北斎	1幅	紙本着色	東京・西新井大師總持寺
97		富士越龍園	葛飾北斎	1幅	絹本着色	長野・北斎館
99		上町祭屋台天井絵 女浪	葛飾北斎	1面	桐板着色	長野・小布施町上町自治会(北斎館寄託)
101		東町祭屋台天井絵 鳳凰園	葛飾北斎	1面	桐板着色	長野・小布施町東町自治会(北斎館寄託)
102		桜に鶯園	葛飾北斎	1幅	絹本着色	神奈川・氏家浮世絵コレクション(鎌倉国宝館内)
104		鶴鶴園屏風	葛飾北斎	2曲1隻	絹本着色	神奈川・氏家浮世絵コレクション(鎌倉国宝館内)
106		桔梗園	葛飾北斎	1面	紙本着色	長野・北斎館
107		阿弥陀三尊園	加藤信清	1幅	絹本着色	東京・高幡不動尊金剛寺
108	港区指定文化財	山山秋迦園	加藤信清	1幅	紙本着色	東京・天真寺
109		五百羅漢園	加藤信清	50幅のうち1幅	紙本着色	個人蔵
110		五百羅漢園	加藤信清	50幅のうち1幅	紙本着色	個人蔵
111	重要文化財	木村兼茂堂像	谷文晁	1幅	絹本着色	大阪府教育委員会
112		繪巻鳴鶴園	谷文晁	1幅	絹本着色	大阪・阪急文化財団逸翁美術館
113		泉声松韻園	谷文晁	1幅	絹本着色	秋田市立千秋美術館
114		松深訪友園	谷文晁	1幅	絹本着色	秋田市立千秋美術館
115		李白観瀑園	谷文晁	1幅	紙本墨画	愛知・山原市博物館
116		藤花園	鈴木其一	1幅	絹本着色	京都・細見美術館
118		組葉狩園風	鈴木其一	1枚	紙本着色	個人蔵(兵庫・滝翠美術館寄託)
119		遠磨園風	鈴木其一	1枚	紙本着色	個人蔵(兵庫・滝翠美術館寄託)
126		五百羅漢園第27幅 六道 鬼趣	狩野(逸見)一信	100幅のうち1幅	絹本着色	東京・増上寺
127		五百羅漢園第28幅 六道 鬼趣	狩野(逸見)一信	100幅のうち1幅	絹本着色	東京・増上寺
128		五百羅漢園第29幅 六道 畜生	狩野(逸見)一信	100幅のうち1幅	絹本着色	東京・増上寺
129		五百羅漢園第30幅 六道 畜生	狩野(逸見)一信	100幅のうち1幅	絹本着色	東京・増上寺

130	五百羅漢圖第43幅 常乞食	十二頭陀	狩野(逸見)一信	100幅のうち1幅	絹本着色	東京・増上寺
131	五百羅漢圖第44幅 次第乞食	十二頭陀	狩野(逸見)一信	100幅のうち1幅	絹本着色	東京・増上寺
138	東海道中膝栗毛三島宿図		歌川国芳	2曲1隻	絹本着色	個人蔵
139	万歳図		歌川国芳	1幅	絹本墨画淡彩	個人蔵
140	三人上戸図		歌川国芳	1幅	紙本墨画淡彩	個人蔵
141	白拍子静図		歌川国芳	1幅	絹本着色	個人蔵
142	夏衣美人図		歌川国芳	1幅	絹本着色	個人蔵
143	浴衣を抱える美人		歌川国芳	1幅	絹本着色	個人蔵
144	遊女図		歌川国芳	1幅	絹本着色	個人蔵
145	七代目岩井半四郎の三浦屋の揚巻		歌川国芳	1幅	紙本着色	個人蔵
146	煙草を吸う女・反物を持つ女		歌川国芳	1幅	紙本着色	個人蔵
147	水を呑む大蛇		歌川国芳	1幅	絹本墨画淡彩	個人蔵
148	合戦図		歌川国芳	1幅	絹本墨画淡彩	個人蔵
諸国						
149	夷酋列像図		原画：蠣崎波響・ 詞書：松平定信	2巻	紙本着色	大阪・国立民族学博物館
150	御味方蝦夷之図 イコトイ・ションコ		蠣崎波響	2幅	絹本着色	北海道・函館市中央図書館
152	臥龍梅図		菅井梅園	1幅	紙本墨画	宮城・仙台市博物館
153	古城朝鮮梅図		菅井梅園	1幅	紙本墨画淡彩	宮城・仙台市博物館
154	雪中紅梅図		菅井梅園	1幅	絹本着色	個人蔵
156	鶯鳥図		菅井梅園	1幅	紙本墨画淡彩	宮城・仙台市博物館
157	江の島図		菅井梅園	1幅	絹本着色	兵庫・神戸市立博物館
159	昇龍図		菅井梅園	1幅	絹本墨画淡彩	宮城・仙台市博物館
160	昇龍図		林十江	1幅	紙本墨画	個人蔵
163	鳥天狗図		林十江	1幅	紙本墨画	個人蔵
166	猩々狂斎画帖(一)		河鍋曉斎	1冊(全26図)	紙本着色	埼玉・河鍋曉斎記念美術館
167	猩々狂斎画帖(二)		河鍋曉斎	1冊(全22図)	紙本着色	埼玉・河鍋曉斎記念美術館
168	狂斎興画帳		河鍋曉斎	1冊(全138図)	紙本着色	埼玉・河鍋曉斎記念美術館
171	古木竹石図		佐竹達平	1幅	絹本着色	長野・飯田市美術館
175	山水図		佐竹達平	2幅	絹本着色	長野・飯田市美術館
176	山水図		佐竹達平	1幅	絹本着色	長野・飯田市美術館
177	山水図		佐竹達平	1幅	絹本着色	長野・飯田市美術館
178	山水図		佐竹達平	1幅	絹本着色	長野・飯田市美術館
179	妖怪図		高井鴻山	1幅	絹本着色	個人蔵
180	火焔妖怪図		高井鴻山	1幅	絹本着色	個人蔵
181	妖怪書画会図		高井鴻山	1幅	紙本墨画	個人蔵
182	妖怪山水図		高井鴻山	1幅	紙本墨画淡彩	個人蔵
183	妖怪山水図		高井鴻山	1幅	紙本墨画	個人蔵
184	煙吐く妖怪図		高井鴻山	1幅	絹本墨画淡彩	個人蔵
185	柳と小鳥図		高井鴻山	1幅	絹本着色	個人蔵
186	もくれんと小鳥図		高井鴻山	1幅	絹本着色	個人蔵
187	菊図		高井鴻山	1幅	絹本着色	長野・高井鴻山記念館
190	十界図		白隠	1幅	絹本淡彩	東京・永青文庫
191	蛤蜊親善図		白隠	1幅	絹本着色	東京・早稲田大学會津八一記念博物館
192	すたすた坊主図		白隠	1幅	紙本墨画	東京・早稲田大学會津八一記念博物館
195	摺鉢図		白隠	1幅	紙本墨画	東京・早稲田大学會津八一記念博物館
196	の、袋図		白隠	1幅	紙本墨画	東京・早稲田大学會津八一記念博物館
197	打牛図		白隠	1幅	絹本淡彩	東京・永青文庫
199	若竹鶴鶴園屏風		田中訥言	2曲1隻	紙本銀地着色	愛知・名古屋博物館
200	太奏祭図		田中訥言	1幅	紙本墨画淡彩	愛知・名古屋博物館
201	たわむれ雛図		田中訥言	1幅	絹本着色	愛知・名古屋博物館(森川コレクション)
203	重要文化財 伊勢物語 梓弓図		岩佐又兵衛	1幅	紙本着色	文化庁
204	三十六歌仙図		岩佐又兵衛	22面のうち7面	紙本着色	福井県立美術館
205	和漢故事説話図		岩佐又兵衛	12幅のうち3幅	紙本着色	福井県立美術館
206	山潤説易図		浦上玉堂	1幅	紙本墨画淡彩	岡山県立美術館
208	重要文化財 煙役帖		浦上玉堂	1帖(全12図)	紙本墨画淡彩	東京・梅澤記念館
209	伊達競阿国戯場 累		絵金	2曲1隻	紙本着色	高知・香南市赤岡町本町二区
210	花衣いろは縁起 鶯の段		絵金	2曲1隻	紙本着色	高知・香南市赤岡町本町二区
211	東山桜花子 佐倉宗吾子別れ		絵金	2曲1隻	紙本着色	高知・香南市赤岡町本町二区
212	播州血屋敷 鉄山下屋敷		絵金	2曲1隻	紙本着色	高知・香南市赤岡町横町二区
213	寒山拾得・豊干禪師園屏風		仙厓	6曲1双	紙本墨画	福岡・幻住庵
215	親子和尚図		仙厓	1幅	紙本墨画	東京・早稲田大学會津八一記念博物館
217	盲者渡橋図		仙厓	1幅	紙本墨画	東京・早稲田大学會津八一記念博物館
219	南泉斬猫図		仙厓	1幅	紙本墨画	東京・早稲田大学會津八一記念博物館
220	竹林七賢図		仙厓	1幅	紙本墨画	東京・永青文庫
222	龍虎園屏風		片山楊谷	6曲1双	紙本銀地墨画	個人蔵
223	竹虎園屏風		片山楊谷	6曲1双	紙本着色	鳥取・雲龍寺
224	鶯図		片山楊谷	1幅	紙本墨画	鳥取・渡辺美術館
226	花王猷王図		片山楊谷	1幅	絹本着色	鳥取県立博物館

227	滝虎図	片山揚谷	1幅	絹本着色	鳥取県立博物館
228	蟹気楼図	片山揚谷	1幅	紙本着色淡彩	鳥取・流辺美術館
229	西湖・金山寺図屏風	神田等謙	6曲1双	紙本着画	山口・顕学院

(5) 講演会等

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本展企画監修者の安村敏信氏による記念講演会や入門講座、ギャラリートーク等すべてのイベント、および託児サービス「ちびっこルーム」を中止することとなった。ただし、美術館ボランティアによる展覧会関連企画については、パネル掲示による内容であったため、展覧会期にあわせて実施することができた(75頁参照)。

館藏品による特別企画

Distance — ディスタンス あるいはふたつを結ぶ「と」の距離感

会 期 令和2年(2020年)9月15日(火)～10月18日(日)、10月31日(土)～12月21日(日)

※月曜休館、ただし10月5日、11月2日、12月7日は開館

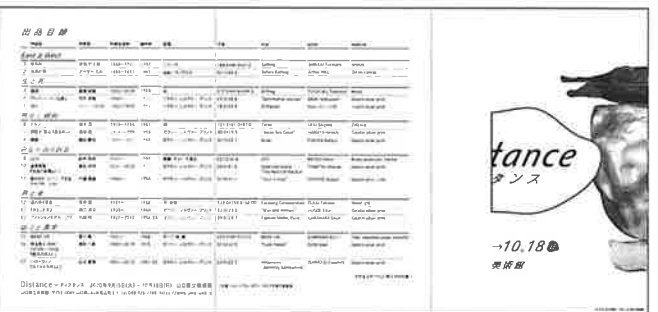
主 催 ミュージアム・タウン・ヤマグチ実行委員会



案内はがき(表)



案内はがき(裏)



パンフレット(表)



パンフレット(裏)

(1) 趣旨・概要

○館藏品による特別企画について

「Distance — ディスタンス」展について詳述する前に、令和2年度(2020年度)の下半期の状況を示しておく。当初の予定では、9月12月にかけては、2つの大規模特別展、《雪舟と狩野派》、《小村雪岱スタイル》の開催を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、多くの観客の来館が予想されるこの2つの展覧会については開催を次年度以降に延期することとし、代わって、「館藏品による特別企画」(「Distance — ディスタンス」、「香月泰一「私の」シベリアI・II」、「雪舟600年展」「雪舟600年展Vol.2—雲谷派の花鳥図・雲谷派の山水図」)を開催することとした。

○「Distance — ディスタンス」展について

あらためて企画されたこの館藏品特別企画展覧会を代表するものが、「Distance — ディスタンス」展である。そのテーマは、まさしく「ディスタンス(距離)」。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための方策の一つとしてにわかに使われるようになった「ソーシャル・ディスタンス」という言葉によって、人と人との自然な距離感を見失わざるを得なくなった私たちに、もう一度、「ディスタンス」について冷静に考えることを促そうという企画である。

そのために、「East & West」、「生と死」、「明治と昭和」、「みるとみられる」、「男と女」、「偽りと真実」という6つの小テーマを設定。それぞれに立体作品一つと、平面作品を1, 2点展示するとともに、「と」で結びつけられた2つのモノゴトの距離についての考察をまじえながら作品解説を付け加えることで、作品と観客の距離を縮めるこ

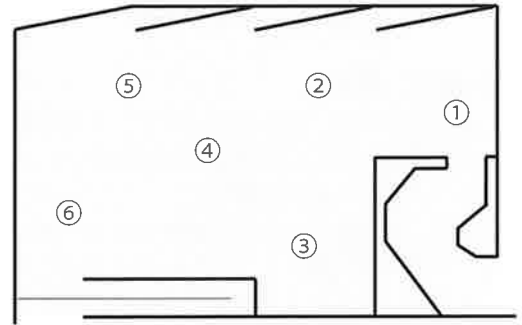
とを試みた。

*参照：I 展覧会事業（4）新型コロナ感染症対策（61頁）

(2) 会場構成

当館で一番広く、天井も高い展示室Fの特徴を生かすため、全ての可動壁を取り払い、展示室全体を大きな空間として使用。その大空間をゆるやかに6つのゾーンに分け、それぞれに立体作品1点と、平面作品1、2点を展示した。

- ①「East & West」
- ②「生と死」
- ③「明治と昭和」
- ④「みるとみられる」
- ⑤「男と女」
- ⑥「偽りと真実」



(3) カタログ

なし

(4) 出品目録

no.	作品名	作家名	制作年	材質	寸法
East & West					
1	沐浴の前	アーサー・ヒル(1858～1893)	1881年	油彩/カンヴァス	92.1×46.3
2	ゆあみ	新海竹太郎(1868～1927)	1907年	ブロンズ	188.6×46.0×37.2
生と死					
3	滄流	豊福知徳(1925～2019)	1958年	木	217.5×69.6×289.3
4	『センチメンタルな旅』	荒木経惟(1940～)	1971年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	23.3×34.6
5	流本	ウィン・バロック(1902～1975)	1951年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	18.2×23.9
明治と昭和					
6	トルソ	植木茂(1913～1984)	1981年	樺	151.3×61.0×37.0
7	裸婦	福田勝治(1899～1991)	1951年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	32.7×25.1
8	田植女 富山「裏日本」より	濱谷浩(1915～1999)	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	30.0×19.9
みるとみられる					
9	UFO	松井素朗(1960～)	1986年	真鍮・アルミ・大理石	227.2×216
10	波照間島「太陽の鉛筆」より	東松照明(1930～2012)	1971年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	28.0×41.2
11	萩の日々：ホバリングするクマバチー大井ー	下瀬信雄(1944～)	1994年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	32.8×48.6
男と女					
12	逃れゆく思念	深井隆(1951～)	1986年	木・金箔	123.0×154.0×66.00
13	ファッションモデル パリ	川原舜(1927～2015)	1954-55年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	39.8×28.7
14	「おとこと女」	細江英公(1933～)	1960年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	22.7×23.0
偽りと真実					
15	MASK-UN	澄川亨一(1931～)	1968年	チーク・柱・樟	255.0×49.0×73.0
16	埼玉秩父 夜祭り 1975年12月3日「風姿花伝」より	須田一政(1940～2019)	1975年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	23.9×23.7
17	ハローウィン「ある日ある所」より	石元泰博(1921～2012)	1951-52年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	23.9×23.7

(5) 講演会等

なし

(6) 解説動画

各テーマごとに学芸員による解説動画を作成。入場者に手のひらサイズのタブレットを貸し出して、展示室内設置のQRコードを読み取ると、その動画解説が視聴できるようにした。



展示室全景



タブレットでQRコードを読み込む



読み込んだ動画を見る

館蔵品による特別企画

香月泰男—“私の”シベリア I・II

会 期 I：令和2年(2020年)9月15日(火)～10月18日(日) ※月曜休館、ただし10月5日は開館
II：令和2年(2020年)10月31日(土)～12月21日(日) ※月曜休館、ただし11月2日、12月7日は開館
主 催 山口県立美術館

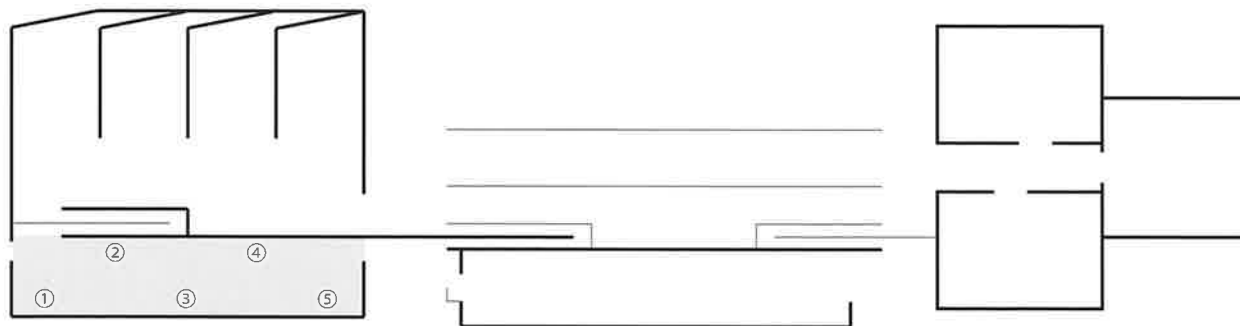
(1) 趣旨・概要

山口県長門市三隅出身の洋画家、香月泰男(1911-74)は、東京を中心とする戦後の美術の“喧騒”を避けるように、生まれ育った山陰の自然豊かな小さな町で、自身の内面と向き合いながら黙々と制作に取り組んだ。画家としてのキャリアや芸術的な展開において、そして一人の日本人として、その生涯に決定的な影響を与えたのが、太平洋戦争への従軍と、敗戦後のシベリア抑留である。およそ4年半の戦争と抑留の体験を、帰国後、香月はその4倍の歳月をかけて57点の油彩画に描いた。それらはいっしょに「シベリア・シリーズ」と呼ばれるようになる。

本展は、「シベリアを描きながら、私はもう一度シベリアを体験している」と語った香月が、シベリア・シリーズに込めた想いを5つのテーマで辿るものである。シベリア・シリーズは57点で一つのまとまりとして見られることが多く、そのため、個別の作品を取り上げて多角的かつ重層的に紹介する機会はいまだに稀であったといえる。そうしたことから、本展ではテーマ毎に1点ないし2点の作品を取り上げ、各作品に画家のこぼれを含んだ動画解説をつけて、観覧者がタブレットで解説を視聴しながらじっくりと鑑賞できる構成にした。展示室Eに5点もしくは6点の油彩画のみを展示することにより、ゆったりとした空間になったが、それはまた、新型コロナウイルス感染症対策として、観覧者相互の距離を保つという観点からも時宜にかなった構成であったといえる。

(2) 会場構成

- ① 応召—画家と戦争 1943.1-1945.8
- ② 敗戦、シベリアへ 1945.8-1945.11
- ③ シベリアのラゲリ 1945.11-1947.4
- ④ ダモイ 1947.4-1947.5
- ⑤ “私の”地球 1947.5-1947.3



(3) カタログ

なし

(4) 出品目録

no.	作品名	作家名	制作年	材質	寸法
I					
1	別	香月泰男(1911-74)	1967年	油彩/カンヴァス	162.1×111.8
2	北へ西へ	香月泰男(1911-74)	1959年	油彩/カンヴァス	72.7×116.6
3	混雑	香月泰男(1911-74)	1960年	油彩/カンヴァス	130.3×194.3
4	ダモイ	香月泰男(1911-74)	1959年	油彩/カンヴァス	72.9×116.8
5	〈私の〉地球	香月泰男(1911-74)	1968年	油彩/カンヴァス	111.6×162.1
II					
1	吉の太陽	香月泰男(1911-74)	1969年	油彩/カンヴァス	162.1×111.6
2	遊離民	香月泰男(1911-74)	1960年	油彩/カンヴァス	73.0×117.3
3	雪	香月泰男(1911-74)	1963年	油彩/カンヴァス	112.4×162.3
4	復員(タラップ)	香月泰男(1911-74)	1967年	油彩/カンヴァス	162.1×111.6
5	月の出	香月泰男(1911-74)	1974年	油彩/カンヴァス	117.0×72.8
6	月の出	香月泰男(1911-74)	1974年	油彩/カンヴァス	117.0×72.8

(5) 講演会等

なし

(6) 解説動画

新型コロナウイルス感染症対策として、ギャラリートークの代わりに各章につき1本の解説動画を制作。入場者にタブレットを貸し出して、展示室内設置のQRコードを読み取ると、学芸員による解説が視聴できるシステムを試験的に導入した。

館蔵品による特別企画 雪舟600年展

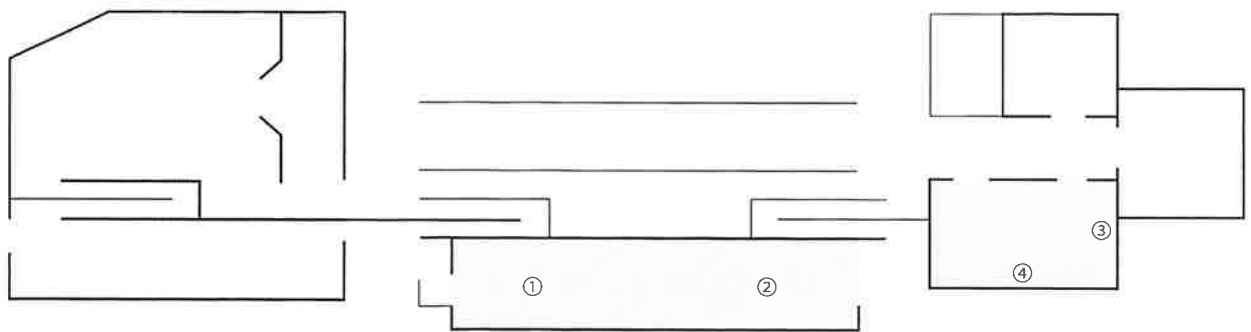
会 期 令和2年(2020年)10月31日(土)～12月21日(日) ※月曜休館、ただし11月2日、12月7日は開館
主 催 山口県立美術館

(1) 趣旨・概要

2020年は、日本絵画史を代表する水墨画家である雪舟等楊(1420～1506?)の生誕600年に当たる記念の年であり、当館では江戸時代以来の「画聖雪舟」イメージの形成について検証する展覧会「雪舟と狩野派」展の開催を予定していた。しかし、年初から徐々に拡大した新型コロナウイルス感染症の流行により、大規模な企画展の開催が困難な状況となったため、急遽予定を変更し、「雪舟と狩野派」展の開催を2022年に延期し、その代わりに、館蔵品を中心とする特別展示「雪舟600年」を開催した。その内容は、2017年～2019年の3年間において当館で開催された雪舟関係の展示をまとめたもので、① 山水長巻と雪舟流 ② 山水図巻の謎 ③ 三幅対の世界 ④ 雪舟の手鑑(团扇形倣古図)という4部からなるオムニバス方式の展示であった。

(2) 会場構成

展示室D ① 山水長巻と雪舟流 ② 山水図巻の謎
展示室C ③ 三幅対の世界 ④ 雪舟の手鑑(团扇形倣古図)



(3) カタログ

なし



会場風景1 屏風露出展示



会場風景2

(4) 出品目録

no.	作者	作品名	材質・技法	形状・貝数	所蔵
①	山水長巻と雪舟流				
1	山岡千太郎	山水長巻模本	紙本墨画淡彩	卷子装・一巻	山口県立美術館蔵
2	伝雪舟	山水図屏風	紙本墨画淡彩	六曲屏風・一雙	山口県立美術館蔵
3	雲谷等顔	山水図屏風	紙本墨画淡彩	六曲屏風・一雙	山口県立美術館蔵
4	雲谷等益	瀟湘八景図屏風	紙本墨画淡彩	六曲屏風・一雙	山口県立美術館蔵
②	山水図巻の謎				
5	雪舟等楊	山水図巻	紙本墨画	卷子装・一巻	山口県立美術館蔵
6	原本雪舟	細川家山水図(復元複製)	インクジェット・プリント/紙	掛幅装・一幅	山口県立美術館蔵
7	原本雪舟	木下家山水図(復元複製)	インクジェット・プリント/紙	掛幅装・一幅	山口県立美術館蔵
8	雲谷等瑠	山水図巻	紙本墨画・紙本墨画淡彩	卷子装・一巻	個人蔵(山口県立美術館寄託)
9	雲谷等益	重山図屏風	紙本墨画淡彩	六曲屏風・一雙	山口県立美術館蔵
③	三幅対の世界				
10	雪舟等楊	騎獅文殊・黄初平・張果老図	紙本墨画	掛幅装・三幅	個人蔵(山口県立美術館寄託)
11	雲淡水怡	釈迦三尊図	紙本墨画淡彩	掛幅装・三幅	東光寺蔵(山口県立美術館寄託)
④	雪舟の手鑑-团扇形倣古図				
12	雪舟等楊	倣李唐牧牛図(渡河)	紙本墨画淡彩	掛幅装・一幅	山口県立美術館蔵
13	雪舟等楊	倣李唐牧牛図(牧童)	紙本墨画淡彩	掛幅装・一幅	山口県立美術館蔵

(5) 講演会等

なし

(6) 解説動画

5本の解説動画を作成し、入場者に手のひらサイズのタブレットを貸し出して、展示室内設置のQRコードを読み取ると、学芸員による動画とスライドを用いた解説が視聴できる鑑賞補助機能を導入した。

館蔵品による特別企画

雪舟600年展 vol.2 雲谷派の花鳥図・雲谷派の山水図

会 期 雲谷派の花鳥図：令和3年(2021年)1月9日(土)～2月21日(日) ※月曜休館、ただし2月1日は開館
雲谷派の山水図：令和3年(2021年)2月23日(火)～3月28日(日) ※月曜休館、ただし3月1日は開館
主 催 山口県立美術館

(1) 趣旨・概要

2021年1月～3月のコレクション展示室Cでは、当初は「雲谷派の花鳥図」(2021年1月9日～2月21日)、「森寛齋と森派の絵画」(同年2月23日～3月28日)の展示を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大による特別展の延期に伴い、館蔵品による特別企画〈雪舟600年〉展(2020年10月31日～12月21日)の続編に企画変更することとなった。そこで、前半は当初予定と同じタイトルで「雲谷派の花鳥図」、後半を「雲谷派の山水図」とし、雪舟の後継者・雲谷派が画壇のトップシーンで活躍を見せていた17世紀を中心に、その活動を紹介した。

展示点数は少ないものの、通常のコレクション展とは異なり、特別展と同じくデザイナーを起用し、会場サインや解説パネル、作品キャプション、作品解説目録、Web用バナーなどをトータルデザインすることで、コロナ禍のなかでも足を運んでくれるお客様に対して、展示鑑賞の満足度を高める工夫を試みた。

展示室では、三密防止かつギャラリートークの代替策として、学芸員による解説動画をタブレットで視聴できる取り組みを行った。また作品解説付きの出品目録を配布して、雲谷派の魅力について鑑賞者により理解を深めてもらえるようにした。観客の反応はおおむね上々で、展示室Cの畳の上で寛ぎながら鑑賞する人も多く見られた。



雲谷派の花鳥図 会場風景1



雲谷派の花鳥図 会場風景2

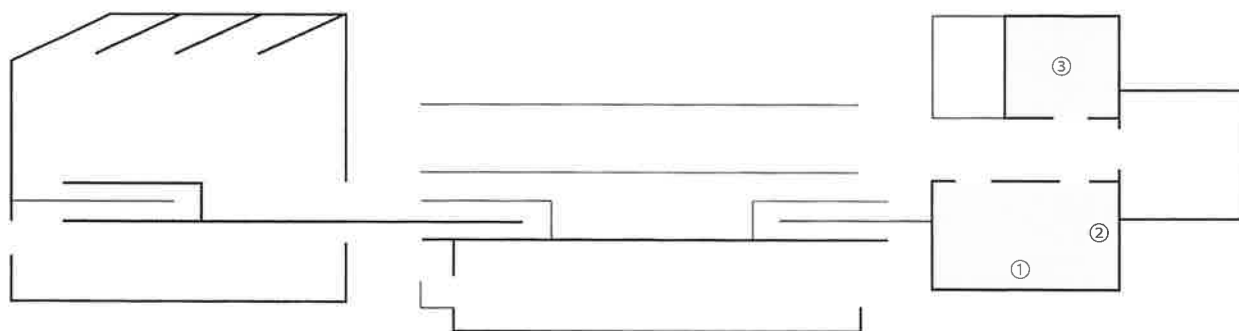


雲谷派の山水図 会場風景

(2) 会場構成

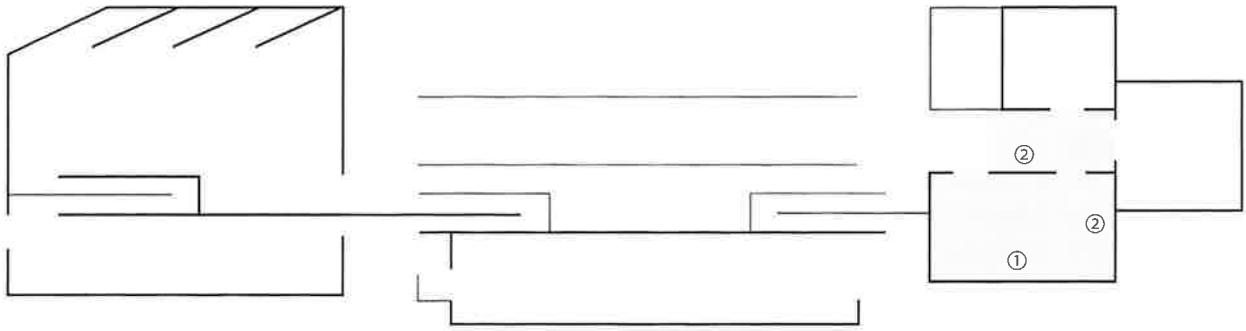
雲谷派の花鳥図

- ① 雪舟を継ぐ—雲谷派の鶴図
- ② 雪舟を描く—雪舟流正系として
- ③ 雲谷派の縮図・花鳥画小品



雲谷派の山水図

- ① 雪舟を継ぐ―「山水長巻」と雲谷派
- ② 雪舟を継ぐ―澆墨山水画



(3) カタログ

なし

(4) 出品目録

no.	指定	作品名	作者・賛者名	員数	材質・技法	制作年	所蔵
雲谷派の花鳥図							
1		芦鶴図屏風	雲谷等益	六曲一双	紙本金地着色	寛永18年(1641)	個人蔵(山口県立美術館寄託)
2		群鶴図屏風	雲谷等興	六曲一双	紙本金地着色	17世紀	山口県立美術館蔵
3		雪舟像	雲谷等興・天祐紹果賛	一幅	絹本墨画淡彩	寛永16年(1639)	個人蔵(山口県立美術館寄託)
4	山口県指定文化財	雪舟像	雲谷等益・玉舟宗瑞賛	一幅	絹本墨画淡彩	寛永16~21年(1639~44)	山口市・常楽寺蔵
5		四季花鳥図襖縮図(旧大徳寺碧玉庵)	雲谷派	一紙	紙本墨画	18-19世紀	山口県立美術館蔵
6		雪舟筆花鳥図屏風縮図	雲谷派	一紙	紙本墨画	18-19世紀	山口県立美術館蔵
7		五位鷺図	雲谷等顔・松韵賛	一幅	紙本墨画	17世紀	山口県立美術館蔵
8		梅雀図	雲谷等益・江月宗玩賛	一幅	紙本墨画	17世紀	山口県立美術館蔵
9		鷓鴣図	雲谷等興	一幅	絹本着色	17世紀	山口県立美術館蔵
10		叭々鳥図	雲谷等爾	一幅	紙本墨画	17世紀	山口県立美術館蔵
11		花鳥図	雲谷等哲	二幅対	絹本着色	17世紀	山口県立美術館蔵
雲谷派の山水図							
1		山水図屏風	雲谷等益	六曲一双	紙本墨画淡彩金泥	17世紀	個人蔵(山口県立美術館寄託)
2		山水図屏風	雲谷等瑞	六曲一双	紙本墨画	17-18世紀	山口県立美術館蔵
3		山水図	雲谷等顔・評庵宗彭賛	一幅	紙本墨画	17世紀	山口県立美術館蔵
4		山水図	雲谷等益	二幅対	紙本墨画	17世紀	山口県立美術館蔵
5		雪景山水図	雲谷等爾	一幅	紙本墨画	17世紀	山口県立美術館蔵
6		山水図	雲谷等哲	一幅	紙本墨画	17世紀	山口県立美術館蔵
7		瀟湘八景図	雲谷等瑞	一幅	紙本墨画	17-18世紀	個人蔵(山口県立美術館寄託)

(5) 講演会等

なし

(6) 解説動画

「雲谷派の花鳥図」では、「雲谷派の群鶴図」、「雲谷派-雪舟を継ぐ者-」、「縮図が語る雲谷派の活躍」の3本、「雲谷派の山水図」では「山水長巻と雲谷派」、「玉潤様の山水図」の2本の解説動画を作成。入場者に手のひらサイズのタブレットを貸し出し、展示室内設置のQRコードを読み取ると、学芸員による動画とスライドを用いた解説が視聴できる鑑賞補助機能を導入した。

(2) 山口県美術展覧会

第73回山口県美術展覧会

会期：令和2年(2020年)2月13日(木)～3月1日(日) ※2月17日(月)休館

主催：山口県

運営委員(50音順)

石崎泰之(山口県立萩美術館・浦上記念館副館長)

岡本正康(下関市立美術館館長補佐)

倉田研治(山口県立大学国際文化学部准教授)

中野良寿(美術家、山口大学教育学部教授、N3アートラボ代表)

原井輝明(画家、宇部フロンティア大学短期大学部准教授)

松村 靖(観光スポーツ文化部文化振興課長)

山本綾香(防府市地域交流センター アспиラート事業係)

若林英樹(山口県民文化ホールいわくにシンフォニア岩国館長)

(1) 審査員(50音順)

岩崎 貴宏(美術作家)

椿 昇(現代美術作家、京都造形芸術大学教授)

鷲田めるろ(キュレーター)

(2) 審査結果

出品点数	入選点数	入賞点数	入選・入賞合計点数	展示率(%)
364点	58点	32点	90点	24.7%

(3) 受賞者

〈大賞〉

Loop Town

津川 奈菜

広島県



大賞作品 Loop Town 津川 奈菜

〈優秀賞〉

錦帯橋連景

Gallery

葛

self-portrait

そこのみ、光輝く

岩国絵画クラブ

小松原 裕輔

竹内 久美子

平田 詩織

吉見 健太郎

岩国市

広島県

宇部市

周防大島町

山口市

〈佳作〉

time limit 2030

どこまでも青く

今日も明日のゴミ作ろう

いつかそこに行けるなら

岡村邦彦さん、あなたは画家になれたのですか？

紙光庵

乳色の闇

雑歌

この激昂が、私のすべてを支配する

火鉢と白い花

八十歳の記憶(雨)

ネコは知っている・・・・・・ニャンにもかも!!

てふてふ舞う

凜

百代めぐり歌

Colossoma

鱒袖掛分け大鉢

「の」の字の「の」の字

初詣で(下関市亀山八幡宮)

ももくり(美術館用)

昨日と今

『ドゥローイングによる行為とその現象

C・H・I・K・U・R・I・N 山口県立美術館 2Fバージョン』

その先について・・・・

ひふみちゃん(習作)

頭の中のホワイトアウト

旅

上本 ひとし

大下 和利

大村 洋二郎

岡 寿子

岡村 邦彦

川根 翔太

河村 定生

佐々木 範子

白藤 さえ子

竹重 弘子

田中 穰

谷本 篤

土谷 寛子

西林 美奈子

沼田 愛実

翡翠

藤井 輝昭

藤井 宗男

前野 法広

松田 淳

松本 晃弘

ミヨシイチロウ

Motoco Tanabe

安永 福美

山根 憲之

吉崎 紀子

下松市

宇部市

広島県

下関市

山口市

周南市

下松市

山口市

神奈川県

福岡県

光市

周南市

山口市

山口市

萩市

下関市

周南市

周南市

下関市

島根県

山陽小野田市

岩国市

山口市

岩国市

宇部市

防府市

〈特別展示〉

Pendulum (振り子)

ビビリ ロベルト

山口市

(4) ワークショップ

① 「自作を語る」

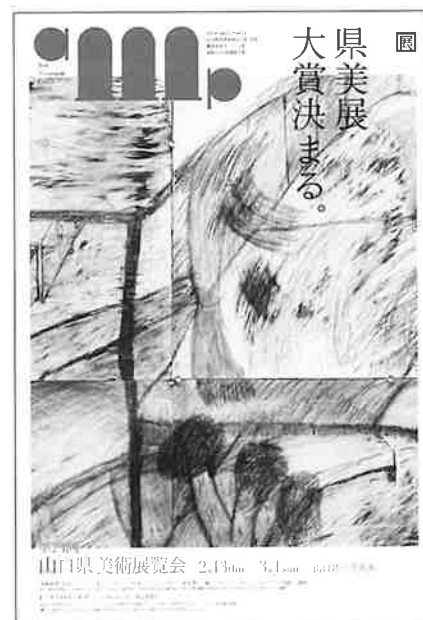
県美展入賞者・入選者によるギャラリー・トークを会期中9回実施。

(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月22日(土)以降に実施予定であった3回は中止した。)

県美展入賞者・入選者による自作解説文を41点掲示。

② 「私のイチオシ！」

美術館ボランティアスタッフによる企画。来館者による入賞作品へのコメントを掲示。コメントは展覧会終了後に出品者へフィードバックした。



タブロイド表紙

第74回山口県美術展覧会

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休館のため、第74回山口県美術展覧会は次年度(令和3年度)に開催延期となった。当初予定の会期、運営委員、審査員については以下のとおりである。

会期：令和3年(2021)2月18日(木)～3月7日(日)
主催：山口県

運営委員(50音順)

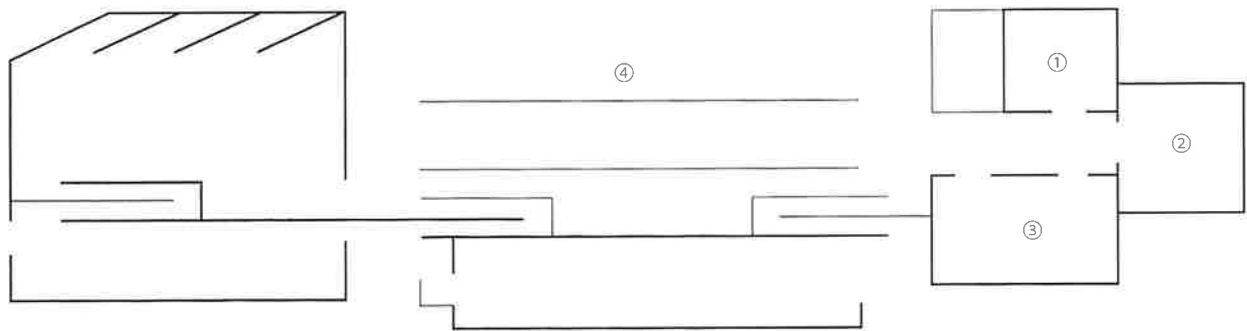
石崎泰之(山口県立萩美術館・浦上記念館副館長)
岡本正康(下関市立美術館副館長)
河村佳彦(観光スポーツ文化部文化振興課長)
倉田研治(山口県立大学国際文化学部准教授)
中野良寿(美術家、山口大学教育学部教授、N3アートラボ代表)
原井輝明(画家、宇部フロンティア大学短期大学部准教授)
山本綾香(防府市地域交流センター アспиラート事業係)
若林英樹(山口県民文化ホールいわくにシンフォニア岩国館長)

審査員(50音順)

岩崎 貴宏(美術作家)
松井 紫朗(彫刻家、京都市芸術大学教授)
鷺田めるろ(十和田市現代美術館館長)

(3) コレクション展

館蔵品(寄託品、借用作品を含む場合もあり)の常時公開の場としてコレクション展示室を設け、テーマを設定して館蔵品を公開。近年は、同時に開催されている特別展と関連付けたテーマでコレクション展を企画したうえで、特別展とコレクション展がセットとなったお得チケットを販売。特別展への来館者がより多くコレクション展に入場するよう努めている。



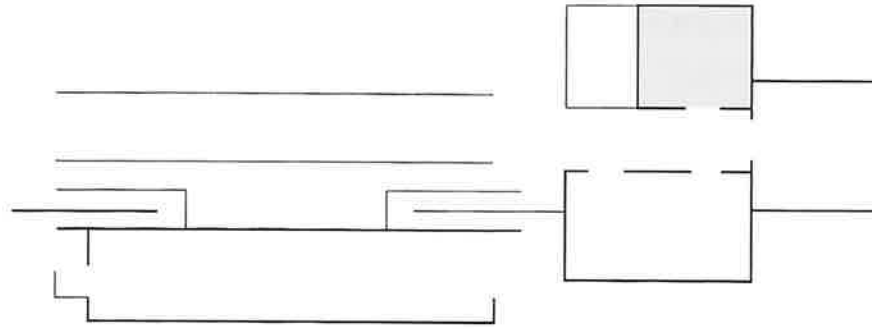
展示室A・B・C(①、②、③)
野外展示場(④)

462.309㎡
1,370.000㎡

* 凡例

- ・以下のコレクション展は、平成31年度(2019年度)、令和2年度(2020年度)のそれぞれについて、展示室ごとに整理し、原則として、名称、会期、趣旨概要、出品作品リストの順に記した。
- ・「出品作品リスト」中のIDの項には、原則として山口県立美術館における作品整理番号を記す。Zに始まる整理番号は寄託作品に付される。その他は『山口県立美術館蔵品目録1979』にほぼ準拠する。

平成31年度
展示室A



※4月9日(火)～5月6日(月)の会期には、昨年度(平成30年度)に引き続き、「ヌードの魅力」を開催した(内容は、『山口県立美術館年報 29～30年度』に掲載)。

牛腸茂雄展 5月23日(木)～7月7日(日)

牛腸茂雄(1946-83)の代表作として知られる写真集『SELF AND OTHERS』(1977)。友人、家族、日々暮らす中で出会った人々、そして自分自身。60点のポートレートによって、「自己とはなにか?」、「他者とは?」と問いかけたこのシリーズを、当館が所蔵する作品全60点で紹介。

no.	作品名	作家名	制作年	材質	ID
01～60	SELF AND OTHERS	牛腸茂雄	1976-77年頃	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0069～0128

吉村芳生展 9月3日(火)～10月20日(日)

写真と見間違えるほどに克明に描かれた細密描写で知られる吉村芳生(1950-2013、防府市出身)。鉛筆で一日の新聞を丸ごと写し取った初期作品や後期の色鉛筆による花の作品など、その画業を当館のコレクションによって紹介。

no.	作品名	作家名	制作年	材質	ID
01	FISH-84-8	吉村芳生	1985年	鉛筆/紙	D-0023
02	タンポポ	吉村芳生	2003年	色鉛筆/紙	D-0027
03	A STREET SCENE NO.8	吉村芳生	1978年	コンテ/紙	D-0019
04	A STREET SCENE NO.21	吉村芳生	1978年	コンテ/紙	D-0020
05	彼の地	吉村芳生	1986年	鉛筆/紙	D-0044
06	KANOCHI 下絵(数字)	吉村芳生	1987年	鉛筆/紙	D-0045
07	KANOCHI	吉村芳生	1987年	オフセット	P-0207
08	ドローイング 毎日新聞	吉村芳生	1976-78年	鉛筆/紙	D-0025
09	365日の自画像	吉村芳生	1981-90年	鉛筆/紙	D-0024
10	コスモス	吉村芳生	2003年	コンテ/紙	D-0026

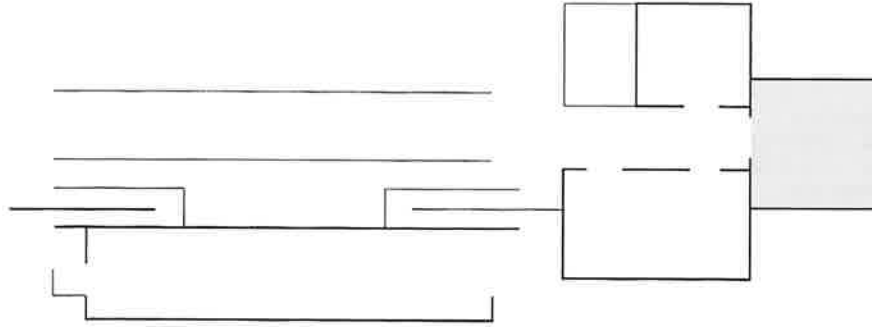
木村伊兵衛と福田勝治 12月10日(火)～令和2年3月1日(日) ※12月23日(月)～令和2年2月12日(水)は休館

昭和を代表する写真家、木村伊兵衛(1901-74)と、日本のモダニズム写真を語る上で欠かすことのできない写真家、福田勝治(1899-1991)。同時代に生きながらも、全く違う美学を展開した二人の写真家を比較しながら紹介。

no.	作品名	作家名	制作年	材質	ID
01	列車内 『秋田』より	木村伊兵衛	1953年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0332
02	三人の修道尼 (イタリヤ紀行)	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0811
03	大曲市 内小友 『秋田』より	木村伊兵衛	1958年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0348
04	イタリヤ紀行 (イタリヤ紀行)	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0714
05	大曲 『秋田』より	木村伊兵衛	1953年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0344
06	佐藤美子 (女)	福田勝治	1952年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0629
07	ソフィア・ローレン (イタリヤ紀行)	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0834
08	横手 『秋田』より	木村伊兵衛	1963年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0335
09	イタリヤ紀行 (イタリヤ紀行)	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0806
10	秋田市 追分 『秋田』より	木村伊兵衛	1953年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0336
11	イタリヤ紀行 (イタリヤ紀行)	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0797
12	秋田 『秋田』より	木村伊兵衛	1953年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0331
13	犬と静物(影のエチュード)	福田勝治	1954年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0595
14	大曲 『秋田』より	木村伊兵衛	1953年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0334
15	ボンベイにて (イタリヤ紀行)	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0744
16	横手梵天 『秋田』より	木村伊兵衛	1953年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0333
17	三十三間堂 (京都)	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-1803
18	大曲市 内小貫 『秋田』より	木村伊兵衛	1954年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0341
19	羽根のない天使 (イタリヤ紀行)	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0787
20	六郷町盆踊り 『秋田』より	木村伊兵衛	1959年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0346
21	大いなる饗宴ぞ (京都)	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-1781

22	仙北部中仙町さらら踊り 『秋田』より	木村伊兵衛	1965年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0345
23	白川女が通る 〈京都〉	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-1940
24	大曲市 内小友 『秋田』より	木村伊兵衛	1959年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0342
25	カステル・マダムにて 〈イタリア紀行〉	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0713
26	秋田市泉 『秋田』より	木村伊兵衛	1952年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0347
27	祇園の朝 〈京都〉	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-1757
28	秋田『秋田』より	木村伊兵衛	1953年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0339
29	京都の印象 〈京都〉	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-1765
30	秋田市 仁井田 『秋田』より	木村伊兵衛	1952年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0337
31	銀座 〈銀座〉	福田勝治	制作年不詳	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-1325
32	大曲市 内小友 『秋田』より	木村伊兵衛	1954年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0336
33	ローマ：唄に生きる 〈イタリア紀行〉	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0757
34	ローマ：唄に生きる 〈イタリア紀行〉	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0760
35	大曲市 内小友 『秋田』より	木村伊兵衛	1957年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0340
36	オステリア草原 〈イタリア紀行〉	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0706
37	大曲市 内小友 湯治場 『秋田』より	木村伊兵衛	1953年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0343
38	シエナにて 〈イタリア紀行〉	福田勝治	1955年	ゼラチン・シルヴァー・プリント	Ph-0720

平成31年度
展示室B



※4月9日(火)～5月6日(月)の会期には、昨年度(平成30年度)に引き続き、「シベリア・シリーズⅢ」を開催した(内容は、『山口県立美術館年報 29～30年度』に掲載)。

山口の洋画 5月23日(木)～7月7日(日)

山口県立美術館では、平成30年度、堀研(1948-)、堀晃(1952-2019)という山口県出身の二人の画家の油彩画を収蔵。兄弟でもあるこの二人は、ともに、具象洋画の新人登竜門であった安井賞展(1957-1997)をきっかけに飛躍した画家。本展では、その新収蔵作品を展示するとともに、山口県出身作家による具象洋画の優品を紹介。

no.	作品名	作家名	制作年	材質	ID
01	海の話	堀 晃	1998年	油彩/カンヴァス	O-0265
02	外国風景	桑重儀一	制作年不詳	油彩/カンヴァス	O-0201
03	エクス風景	小林和作	1929年	油彩/カンヴァス	O-0061
04	風景	香月泰男	1936年	油彩/カンヴァス	O-0127
05	海	小林和作	1964年	油彩/カンヴァス	O-0062
06	月夜	松田正平	1956年	油彩/カンヴァス	O-0087
07	ニンニクとピーマン	松田正平	1962年	油彩/カンヴァス	O-0230
08	洋梨	松田正平	1970年	油彩/カンヴァス	O-0231
09	バラ	小林和作	制作年不詳	油彩/カンヴァス	O-0211
10	休憩	香月泰男	1947年	油彩/カンヴァス	O-0255
11	毘	中本達也	1960年	油彩/カンヴァス	O-0131
12	海の扉	中本達也	1961年	油彩/カンヴァス	O-0120
13	オヒョウ(大きな魚)	松田正平	1984年	油彩/カンヴァス	O-0143
14	嘆かぬ	堀 晃	2018年	アクリル/カンヴァス	O-0266
15	洪水	中本達也	1956年	油彩/カンヴァス	O-0116
16	生きる	堀 研	1985年	油彩/カンヴァス	O-0264
17	大地の鼓動	堀 研	2016年	油彩/カンヴァス	O-0263

松田正平 SHO TIME! 9月3日(火)～10月20日(日)

遊び心にあふれたフォルムと、淡く美しい色彩が魅力の松田正平(1913-2004)。日本一を誇る山口県立美術館の松田正平コレクションから、選りすぐりの作品を展示し、詩情豊かな松田正平の絵画世界を紹介。

no.	作品名	作家名	制作年	材質	ID
01	自画像	松田正平	1937年	油彩/カンヴァス	O-0241
02	画家の父	松田正平	1942年	油彩/カンヴァス	O-0153
03	光海岸	松田正平	1950年頃	油彩/カンヴァス	O-0244
04	綾取り	松田正平	1958年	油彩/板	O-0240
05	かみきり虫	松田正平	1959年	油彩/カンヴァス	Z-0069
06	裸婦	松田正平	1959年	油彩/板	O-0147
07	バラ	松田正平	1958年	油彩/カンヴァス	O-0212
08	M夫人の肖像	松田正平	1953年	油彩/カンヴァス	O-0236
09	顔を覆う女	松田正平	1953年	油彩/カンヴァス	O-0170
10	裸婦	松田正平	1977年	油彩/カンヴァス	O-0091
11	周防灘	松田正平	1974年	油彩/カンヴァス	O-0227
12	四国犬	松田正平	1979年	油彩/カンヴァス	O-0234
13	大威徳明王	松田正平	1975年	油彩/カンヴァス	O-0090
14	周防灘風景	松田正平	1979年	油彩/カンヴァス	Z-0273
15	周防灘	松田正平	1980年	油彩/カンヴァス	O-0139
16	四国犬	松田正平	1990年	油彩/カンヴァス	O-0261
17	西洋人形	松田正平	1975年	油彩/カンヴァス	O-0224

拡大映像で見る山水長巻—雪舟筆 国宝《四季山水図》(毛利博物館所蔵)拡大映像展示 11月2日(土)~12月22日(日)

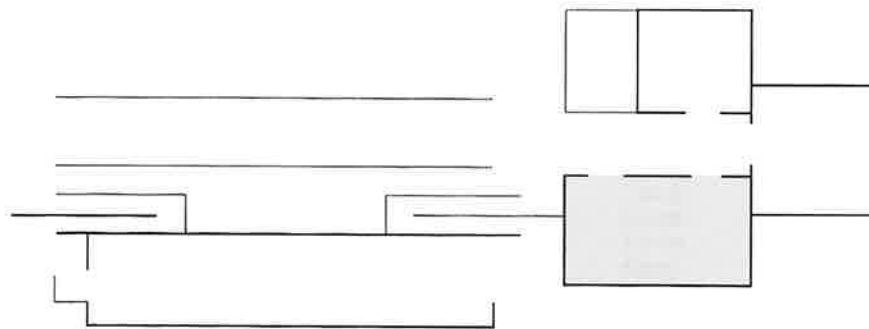
雪舟等楊《四季山水図(通称:山水長巻)》(国宝・毛利博物館蔵)のパノラマ映像展示を行った。(P.69参照)

風景を描く 令和2年2月13日(木)~3月1日(日)

雄大な自然風景、異国の風景、何気ない街角の風景、ときには非現実的な空想的風景まで—画家たちが作品に表したとき、風景は新鮮な感動と驚きを与えてくれる。山口県立美術館のコレクションから、様々な風景を紹介。

no.	作品名	作家名	制作年	材質	ID
01	作品2	石田順治	1939年	油彩/カンヴァス	O-0151
02	風景	永地秀太	1922年	油彩/カンヴァス	O-0164
03	リュクサンブール公園	桑重儀一	1913年	油彩/カンヴァス	O-0213
04	光海岸	松田正平	1950年頃	油彩/カンヴァス	O-0244
05	高萩風景	松田正平	1959年	油彩/カンヴァス	O-0089
06	カプリ島	小林和作	1928年	油彩/カンヴァス	O-0141
07	室戸岬	小林和作	制作年不詳	油彩/カンヴァス	O-0197
08	秋晴	小林和作	1957年	油彩/カンヴァス	O-0068
09	玄仙嶽	小林和作	制作年不詳	油彩/カンヴァス	O-0188
10	山湖	小林和作	1955年	油彩/カンヴァス	O-0136
11	ランドスケープ	宮崎 進	1976年	油彩/カンヴァス	O-0099
12	A STREET SCENE NO.21	吉村芳生	1978年	コンテ/紙	D-0021
13	薄雪	尾崎正章	1977年	油彩/カンヴァス	O-0005
14	帰り道	桂 ゆき	1934年頃	油彩/カンヴァス	O-0259

平成31年度
展示室C



松林桂月と防長の南画 4月1日(月)～5月6日(月)

萩出身の松林桂月(1876-1963)は明治・大正・昭和の三代にわたって活躍し、その卓越した水墨技術によって文化勲章を受賞した日本画の巨匠。精妙で詩情豊かな桂月の水墨画の世界を紹介。

no.	作品名	作家名	制作年	材質	ID
01	愛吾壺	松林桂月	昭和11年(1936)	絹本着色	J-0063
02	桃花双鸛	松林桂月	明治28年(1895)	絹本着色	Z-0085
03	怒涛健鷗	松林桂月	明治30年(1897)	絹本着色	Z-0086
04	秋塘真趣	松林桂月	明治40年(1907)	絹本着色	Z-0087
05	仙峽聴泉	松林桂月	昭和4年(1929)	紙本墨画	J-0062
06	雨後	松林桂月	昭和30年(1955)	絹本墨画	Z-0089
07	竹林幽趣	松林桂月	昭和31年(1956)	紙本墨画	Z-0090
08	竹林夜雨	松林桂月	昭和37年(1962)	紙本墨画	Z-0092
09	夏景山水図(絶筆)	松林桂月	昭和38年(1963)	絹本墨画淡彩	J-0317
10	長春花	松林雪貞	昭和28年(1953)	絹本着色	J-0318
11	丹楓落日図	松林桂月	大正4年(1915)	絹本墨画淡彩	J-0314
12	雪景山水図	松林桂月	大正3年(1914)	絹本墨画	J-0315
13	碧山過雨図	松林桂月	大正3年(1914)	絹本墨画	J-0316
14	浅絳山水図	矢野管山	文政12年(1829)	紙本墨画	J-0320
15	山水図	石川瓊州・林百非	19世紀	紙本墨画	J-0321

萩の山岳画家・高島北海 5月23日(木)～7月7日(日)

萩に生まれた高島北海(1850-1931)は、地質学・植物学の専門的学識を活かした特異な山岳画、花卉画によって知られる日本画家。本展では、明治新政府の技官から画家へと華々しい転身を遂げた異才の画業を振り返った。

no.	作品名	作家名	制作年	材質	ID
01	日本亚伯山雪溪踏破図	高島北海	大正5年(1916)	絹本着色	J-0029
02	高嶺深谷図	高島北海	大正5年(1916)	紙本墨画淡彩	J-0030
03	秋景山水図	高島北海	大正6年(1917)	紙本着色金砂子	J-0031
04	雪景山水図	高島北海	大正5年(1916)	紙本墨画淡彩	J-0028
05	青海島鳥見門図	高島北海	昭和4年(1929)	紙本墨画	J-0214
06	花卉図	高島北海	昭和1年(1926)	絹本着色	J-0032
07	花卉図	高島北海	昭和1年(1926)	紙本墨画淡彩	J-0309
08	花卉図屏風	高島北海	大正6年(1917)	鉛筆・顔料/紙	Z-0278
09	春秋山水図屏風	高島北海	昭和3年(1928)	絹本着色	J-0033

花鳥の楽園 9月3日(火)～10月20日(日)

今年生誕500年を迎える狩野松栄の美麗な四季花鳥図屏風を中心に、その弟子と伝わる雲谷等顔(1547-1618)の幻の孔雀牡丹図屏風をはじめ、桃山・江戸時代の華やかな花鳥画の世界を紹介。

no.	作品名	作家名	制作年	材質	ID
01	四季花鳥図屏風	狩野松栄	16世紀	紙本着色	J-0074
02	孔雀牡丹図屏風	雲谷等顔	17世紀初頭	紙本着色	Z-0282
03	牡丹蝶図	雲谷等顔	17-18世紀	紙本着色	Z-0255
04	牡丹小禽図屏風	森寛斎	天保14年(1843)	紙本着色	J-0324
05	孔雀図	朝倉南陵	文政11年(1828)	紙本墨画着色	J-0079
06	花鳥図	朝倉南陵	19世紀	紙本着色金泥	J-0191

日本画の作られ方 模本・縮図・下絵 12月10日(火)～12月22日(日)

本展では、古典的作品の原寸大模写である「模本」や縮小模写である「縮図」、そして実際の制作に際して作られる「下絵」といった、美術館でもあまり展示されることのない、日本画における「完成作以外」の絵を紹介。

no.	作品名	作家名	制作年	材質	ID
01	応挙寿老人図写し	森 寛斎	19世紀	紙本墨画淡彩	R-0009-003-006
02	応挙寿老人図写し	森 寛斎	19世紀	紙本墨画淡彩	R-0009-003-008
03	応挙神農図写し	森 寛斎	19世紀	紙本墨画	R-0009-003-013
04	応挙驚写し	森 寛斎	19世紀	紙本墨画淡彩	R-0009-003-018
05	双鹿図	森 寛斎	19世紀	紙本墨画淡彩	R-0009-003-005
06	和合神図	森 寛斎	19世紀	紙本墨画淡彩	R-0009-003-007
07	田安家菅原道真写し	森 寛斎	19世紀	紙本墨画	R-0009-003-011
08	道明寺天神御影	森 寛斎	19世紀	紙本墨画	R-0009-003-012
09	唐人物図	森 寛斎	19世紀	紙本墨画淡彩	R-0009-003-009
10	魚貝類写生図巻	松林桂月	昭和初期	紙本墨画淡彩	R-0010
11	鳥羽伏見戦図下絵	松林桂月	昭和初期	紙本墨画淡彩	R-0099
12	雲谷派粉本縮図(大徳寺養徳院襖縮図)	雲谷派	江戸後期	紙本墨画	R-0088-009-002
13	雲谷派粉本縮図(大徳寺清泉寺 竹林七賢図屏風縮図)	雲谷派	江戸後期	紙本墨画	R-0088-007

雲谷派名品選 令和2年2月13日(木)～3月1日(日)

山口県立美術館の日本画部門の核である雪舟とその後継者たち《雲谷派》。開館から40年の歴史のなかで、少しずつ着実に収集され続けてきた雲谷派コレクションから、山水・花鳥・人物を描いた選りすぐりの屏風を紹介。

no.	作品名	作家名	制作年	材質	ID
01	山水図屏風	雲谷等益	17世紀	紙本墨画淡彩	Z-0112
02	花鳥図屏風	雲谷等鶴	17-18世紀	紙本金地着色	J-0109
03	琴棋書画図屏風	雲谷等益	17世紀	紙本着色	J-0168

令和2年度

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年3月2日(月)～10月30日(金)は展示室A・B・Cすべて休室となった。10月31日(土)～令和3年3月28日(日)は、展示室A・B・Cを特別展会場として使用し、当館のコレクションを紹介する展示を行った(P.44～47、P.69参照)。

(4) 新型コロナウイルス感染症対策

1: 「ハマスホイとデンマーク絵画」展

令和2年(2020年)4月7日、安倍総理大臣が7都府県に緊急事態宣言を行った。「ハマスホイとデンマーク絵画」展が開幕する筈だった日である。「筈だった」というのは、前日の昼過ぎ、県庁幹部も交えた数度にわたる協議をふまえ、美術館休館が既にして決定されていたからである。

そもそも、3月後半における県の方針は強気の〈開館〉一辺倒であった。「国から示された〈感染対策の在り方の例〉をしっかりと実行し、感染が広がらないような対策を万全に講じた上で、文化施設を開館する」というのである。いたずらに閉館することでコロナ禍の不安を煽るのではなく、〈万全の対策〉をとりさえすれば、安心して、〈通常通り〉活動できるというメッセージを、県立の文化施設の「開館」を通して発信せよということであった(山口県内における感染症発生率は低く、感染経路もすべて捕捉でき、県外からの流入およびその濃厚接触者のみという状況であった)。

どうしても開館しなかった我々にとって、この方針はとてつもないありがたかった。「ハマスホイとデンマーク絵画」は、7年にわたって、県庁担当課と美術館が一丸となって準備を進め、東京都美術館、読売新聞社のほか、多くの方々のご協力を得てようやく実現にこぎつけた展覧会だったからである(東京と山口の2会場で開催)。

ただし、この方針は、我々にとってかなりハードルが高いものであったことも事実である。件のウイルスが如何なるものか判然としないがゆえに、協議を重ねる毎に恐怖心が煽られ、「万全」が暴走するのである。おまけに、万全の対策を講じる予算が用意されているわけではないにもかかわらず、絶対にクラスターを発生させてはいけないのだ。

もちろん、通常の展覧会が原因で、感染症がまん延する確率はかなり低い。とはいえ、この展覧会はかなりの混雑が想定されていた。地方におけるヨーロッパ絵画展の開催が、その経費の高騰によって容易ならざるものになっている昨今、この展覧会が実現したのは、相当な集客が確実に見込まれるからこそであった。

また、先行開催された東京会場が会期半ばにして中止となったことから、「東京で見られなかったので必ず行く。絶対に開催してほしい。」という県外からの問い合わせが、3月末から徐々に増えてきた。このご時世に県外からの来館はほとんどいないであろうという目算が外れ、「万全」のハードルは日増しに高くなっていく。

さらに、4月に入って以降、緊急事態宣言が視野に入ってくると、今度は反対に、「まさか、この状況で展覧会を開催するつもりではなかろうな!」という類のお叱り電話、メールが、美術館のみならず、県庁の担当課においても度重なるようになってきた。

美術館への〈県外からの流入〉が、県民の意識に浮上するほどの問題になってきた。美術館が〈県外からの流入〉を誘発しているのではないか。こうした声が〈万全の対策〉の存在をかき消すほどにヒートアップした時点で、休館という決定が県としてなされたわけである。

さて、私たちが練り上げていた「万全」のはずの対策はどうなったかといえば、開催延期となったことで時間的余裕ができ、しつこくブラッシュアップ。来館者の検温、消毒、連絡先記入、館内の消毒、換気を徹底することは勿論の事、それにくわえて〈山口県立美術館スペシャル〉とでもいうべきスタイルを構築していた。それが、あらたに開幕となった5月26日からの2週間、「ハマスホイとデンマーク絵画」展開催のための「錦の御旗」として機能することになる。

その要点は、「館内に同時に滞在する人数を徹底して制限する」ことである。

まず、ソーシャルディスタンス2mを確保するために、展示室内に滞在できる観客の上限を120人(展示壁の総延長を2mで割って人数を算出)、展示室内の滞在時間の上限を80分(県庁職員30人によるシミュレーションを2回繰り返し算出)に決定。

また、観客の偏在をある程度抑制するために、展覧会全体をA、B、Cの3つのゾーンに分け、それぞれの滞在時間を30分、20分、30分に設定。その間は必ずそのゾーンにいてもらうことにした。

そして、こうしたシステムを実現するために、入館者を10分毎(最大15人)のチームに分け、それぞれチームごとに色付きの入館証を装着していただき、全員の動きを管理。団体旅行のツアーのようなものである。

例えば、9:30にAゾーンに入室した15人は、緑の入館証を胸につけ、10:00までの30分でこのゾーンの41点を見なければいけない。この時、Aゾーンには先客2チームも含めて45人。9:40になると、9:10に入室していた15人がBゾーンに移ると同時に、入口から次の15人が入ってくる。9:50にも同じことが起こり、Aゾーンの人数は常に45人に保たれるという具合。ゾーン内ではどこにいても自由だが、早く見終わったからと言って、次のゾーンに入ることは、その人数が増えるので禁止。そして、10:00近くになると、スタッフが、緑のサインボードを頭上に掲げて、「緑のチームの方、次のゾーンへどうぞ」と案内する。

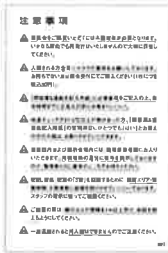
相当にお仕着せがましいスタイルと言わざるを得ない。おまけに入場者数が限定されているので、美術館の敷地に入ってから展示室にたどり着くまでに40分。さらにいうと、敷地に入る前に、美術館前にて整理券を入手しなければいけないのだが、入手後に敷地に入るまでに2時間以上待たなければいけない事態もしばしば起こった。「こんなことで気持ちよく作品を見ることができないわけじゃないか」。苦情も随分いただいた。そもそも、自由自在に時間を操ることができる展覧会という形式を台無しにしているシステムなのだ。その一方で、意外なことに、多くの人から「慣れてしまえばこれもいいね」というお言葉もいただいた。いったん入室してしまえば、展示室内の人数が増えることがないため、他の客に邪魔されることもなく、集中してみることもできたというのである。もちろん、「慣れてしまえば」で

ある。

総括するに、この「山口県立美術館スペシャル」は、2020年4月の段階において、〈感染症拡大防止〉と〈自由な美術鑑賞〉という、相反する課題を突き付けられた中で、最大限の努力をし、最善手を実現できたのではないかと思う。ただし、この方法を実現するために、膨大な人的コスト、尋常ならざる労働コストがかかったことを踏まえれば、他に転用することができない、非常手段であったということも指摘できるであろう。



入館整理券(連絡先記入所前で配布)



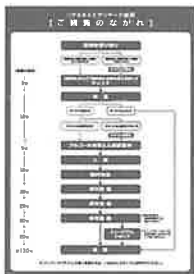
問診票+連絡先記入票



連絡先記入所



美術館敷地に入る直前の人々



入館の流れを説明したサイン(美術館敷地前)



検温を待つ人々



検温



検温後に入館を待つ人々



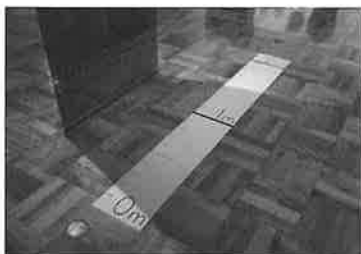
入退場時間を明記した入館証



入館チェック消毒



入室前配布シート(展示室内でのルール説明)



フロアマーカ(2mの表示)



フロアマーカ(2m間隔の例示)



展示室入室直前



観客誘導パネル(3分前の移動予告)



観客誘導パネル(移動のお願いを掲示)

2: 「Distance — ディスタンス あるいはふたつを結ぶ「と」の距離感」

令和2年度（2020年度）の下半期の当初予定では、《雪舟と狩野派》、《小村雪岱スタイル》という2つの大規模特別展を開催する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、この2つの特別展を次年度以降に延期し、代わって、「館蔵品による特別企画」展（「Distance — ディスタンス あるいはふたつを結ぶ「と」の距離感」、「香月泰男—“私の”シベリア I・II」、「雪舟600年展」「雪舟600年展Vol.2—雲谷派の花鳥図・雲谷派の山水図」）を連続して開催することとした。

新たな展覧会の立ち上げに際して、まず、「コロナ禍における展覧会はどうあるべきなのか」について検討した。いまだに状況が変わっているというわけではないが、当時の私たちは、それまでに経験したことがないほどに他人とのディスタンス（距離）を気にしながら暮らしていた。そして、こうした窮屈な生活が長引くにつれ、人とのなにげない接触こそが私たちの安心な暮らしを支えているのだということを、ひしひしと感じるようになっていた。「だからこそ、美術館としてやるべきことがある筈である」。そう考えた私たちが、ひとまず導き出した結論は、「安心して鑑賞に集中できる、ゆったりとした空間を提供し、感動を共有することを通して、ディスタンスを克服できる時間をつくりだす」ことであった。

まず、さほど意識をしなくとも観客同士の距離を保てるよう、作品の数を極端に減らすことで間隔をしっかり確保。そして、観客が文字情報（作品情報や作品解説）を読むために密集しないよう、作品キャプションを極端に大きく（約50cm四方）するとともに、作品解説については印刷物を作成し各自に渡した。それに加えて、学芸員による解説動画を制作し、観客一人一人がタブレット端末で見ることができるようにした。一方、解説の内容については、作品それぞれに〈生と死〉、〈偽りと真実〉、〈男と女〉等、ふだんの暮らしの中に横たわっている「ディスタンス（隔絶、距離）」を副題として添え、それを題材に一つ一つの作品を考察するような構成とした。

観客の反応は概ね良好であった。これまでになく充実した、ややしつこいともいえる解説を通して、作品と〈密〉な関係を築いていただけたようである。

*参照：I（1）特別展「Distance — ディスタンス あるいはふたつを結ぶ「と」の距離感」（40～41頁）

事業

II. 教育普及事業

(1) ミュージアム・タウン・ヤマグチ

平成19年(2007年)、美術館が中心となってイベントを実施し、文化芸術を軸とした街づくりを推進するため、山口県立美術館、山口市商店街連合会、山口商工会議所、山口市、山口県総合芸術文化祭実行委員会を実施主体として、「HEART実行委員会」が設立された。

そして10年後の平成29年(2017年)、HEARTの理念を継承しつつさらに拡大するため、県観光スポーツ文化振興課と県教委委員会社会教育・文化財課が中心となって、「ミュージアム・タウン・ヤマグチ実行委員会」を設立。美術館や隣接する県立文化施設を、従来の社会教育文化施設という役割にくわえて、観光施設としての機能(地域の文化や歴史を知りたいという観光ニーズを充足させる機能)を併せ持つ施設群へと再創造し、県庁前パークロードから山口市中心商店街にかけての、文教・商店街エリアを、〈山口〉を発信する観光・文化・教育拠点へと再編することを目的とした。

実施主体は、文化振興課、社会教育・文化財課、山口県立美術館、山口県立山口博物館、山口県立山口図書館、山口県文書館、山口県埋蔵文化センター、山口市、公益財団法人山口きらめき財団、山口商工会議所、山口市商店街連合会、spsサントリーパブリシティサービスグループ(美術館指定管理者)。

事業全体は3部構成となっており、第一部会は芸術と街をつなぐことを目的とする「HEART」部会、第二部会は雪舟を軸とした事業展開をする「雪舟タウン山口」部会、第三部会は山口の歴史・文化資源に焦点をあてる「お宝タウン山口」部会である。平成31年度(2019年度)および令和2年度(2020年度)もまた、それぞれの部会において、様々な事業を展開した。

①「HEART」部会

平成31年度(2019年度)および令和2年度(2020年度)とも、従来通り、山口県立美術館から山口市商店街にかけて事業を展開。詳細は別途(65～68頁)。

②「雪舟タウン山口」部会

○平成31年度(2019年度)

- 山口県立美術館展示室A・Cにおいて、「雪舟の仏画—初公開の《騎師文殊・黄初平・張果老図》を中心に—」展(11月2日(土)～12月8日(日))を開催。詳細は別途(28～30頁)。
- 山口県立美術館展示室Bにおいて、「拡大映像で見る山水長巻—雪舟筆 国宝《四季山水図》(毛利博物館所蔵)拡大映像展示」を実施。詳細は別途(69頁)。
- 講座室において、「雪舟研究会シンポジウム 室町水墨画における中国道釈画の受容」を開催(11月16日(日) 13:00～16:15)
* 科研費基盤研究(B)「公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策から見る室町時代の宗教絵画の包括的研究」との共同開催。

○令和2年度(2020年度)

- 山口県立美術館展示室Fにおいて、「Distance」展を開催(9月15日(火)～10月18日(日)、10月31日(土)～12月21日(日))。詳細は別途(40～41頁)。
- 山口県立美術館展示室C・Dにおいて、「雪舟600年展」を開催(10月31日(土)～12月21日(日))。詳細は別途(44～45頁)。
- 山口県立美術館コレクション展示室A・Cにおいて、「雪舟600年展Vol.2—雲谷派の花鳥図・雲谷派の山水図」を開催(令和3年1月9日(土)～3月28日(日))。詳細は別途(46～47頁)。
- 山口県立美術館コレクション展示室Bにおいて、「パノラマ山水長巻—拡大映像で見る雪舟筆 国宝《四季山水図》」を実施。詳細は別途(69頁)。

③「お宝タウン山口」部会

○平成31年度(2019年度)

- 山口県立美術館展示室A・B・C・D・E・Fにおいて、「香月泰男のシベリア・シリーズ」を開催(7月23日(火)～8月18日(日))。詳細は別途(14～17頁)。
* 関連事業：香月泰男美術館主催事業「香月動物園」(6月6日(木)～9月23日(日))との共通チラシを制作し、両館で一体となった広報活動を行った。

○令和2年度(2020年度)

- 山口県立美術館展示室Eにおいて、「香月泰男—私のシベリア I」展を開催(9月15日(火)～10月18日(日))。詳細は別途(42～43頁)。
- 山口県立美術館展示室Eにおいて、「香月泰男—私のシベリア II」展を開催(10月31日(土)～12月21日(日))。詳細は別途(42～43頁)。

(2) HEART

「ものづくりとコミュニケーション」をキーコンセプトとし、美術館が地域の芸術家や人々と一緒になって街の歴史や日常の営みと関わりながら街づくりを行うことを目的に実施。山口県美術展覧会を軸として、アートマーケットやワークショップなど美術館(芸術)とまち(日常生活)をつなぐさまざまなアートプロジェクトを展開する。

山口県総合芸術文化祭 HEART2019

主催：ミュージアム・タウン・ヤマグチ実行委員会HEART2019

(山口県/山口県立美術館/山口市/山口商工会議所/山口市商店街連合会/
山口県立美術館指定管理者SPSグループ/公益財団法人山口きらめき財団)

会期：令和2年(2020年)2月13日(木)～3月1日(日) 17日間

会場：山口県立美術館・一の坂川エリア



ポスター



チラシ表



チラシ裏

1：第73回山口県美術展覧会（主催：山口県）

会期：令和2年(2020年)2月13日(木)～3月1日(日)17日間

総入場者数：3,678名

※詳細については、P48、49参照

2：アート・マート

山口県美術展覧会出身作家を紹介するミニ・ギャラリーとして、作家有志による小作品の展示・販売を実施。美術館をアートづくりのマーケット(市場)に変身させる部門。

■アート・マート・ギャラリー

会期：令和2年(2020年)2月13日(木)～3月1日(日)17日間

会場：山口県立美術館ミュージアムショップ（入場無料）

内容：第50～73回山口県美術展覧会において優秀賞以上を受賞した作家のうち、希望者の作品を紹介、販売するほか、ミュージアム・グッズ、美術図書を販売。山口市中心商店街でも、関連イベントを開催。

■HEART関連企画

ギャラリーナカノ HEART2019関連企画 県美界限展 「花」、Y氏とともに

会期：令和2年(2020年)2月13日(木)～3月1日(日) 11:00～18:00

会場：ギャラリーナカノ

内容：長年にわたって県美展を見続けてきたギャラリーナカノ・中野聡氏による関連企画。山口県美術展覧会ゆかりの作家を中心に紹介。

出品作家：山根秀信、ピビロ ロベルト、末永史尚、金子司をはじめ総勢45名

3: アート・ルートの坂

山口県立美術館を核として、ものづくりのワクワク感を味わえるワークショップほか、かんたんな工作を体験できる工作コーナーを設置。子どもから大人まで、アートをより身近に感じてもらえるような企画を実施。

■アーティスト交流企画 浜井弘治ワークショップ

山口県生まれのファッションデザイナー 浜井弘治氏によるワークショップを開催

ミシンをつかわないあたらしい洋裁

「残反で！ たたんで作るお弁当バッグ」 (1) トートバッグ型 (2) ショルダー型

日時：(1) 令和2年(2020年)2月22日(土) (2) 2月23日(日) 両日とも13:30~15:30

会場：cafe&bar ショクバ 2F (山口市米屋町3-21)

対象：高校生以上

参加者：25名(定員24名)(要申込、先着順)

参加費：1,000円(コーヒーまたは紅茶付き)

■「みんなで街をつくろう！」～小さなお家から始まるストーリー～

大人も子供も「楽しいと心から感じられる事」を大切に活動に注目が集まっている現代美術アーティスト オーギカナエさんによる親子向けワークショップを開催。

① ワークショップ

日時：令和2年(2020年)2月15日(土)・16日(日) 両日とも13:30~15:30

会場：山口県立美術館講座室

対象：両日参加できる方、未就学児から小学6年生まで。

参加者：130名 ※同伴の保護者等含む(定員30名 要申込・先着順)

参加費：無料

② 展示

会期：令和2年(2020年)2月18日(水)~3月1日(日)

会場：山口県立美術館エントランス

■かんたん工作コーナー

HEARTロゴ入りのオリジナル缶バッジづくり、折り紙バッグづくりコーナーなど、ものづくりの楽しさを親子で楽しめる工作コーナーを美術館ロビーに設置。

日時：令和2年(2020年)2月13日(木)~3月1日(日)10:00~16:00

※新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のため2月26日(水)以降中止。

会場：山口県立美術館エントランス

対象：主に小学生以下

参加者：267名

参加費：無料

■絵本交換会

自宅で読まなくなった絵本を美術館に持参し、次に手に取る人に向けた思い出やメッセージを書き添えて、想いと一緒に読みつなぐイベントを開催。

日時：令和2年(2020年)2月13日(木)~3月1日(日)10:00~16:00

※新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のため2月26日(水)以降中止。

会場：山口県立美術館エントランス

参加者：61名

参加費：無料

4: アート・フォレスト県美の森

亀山公園山頂から美術館中庭にかけて広がる斜面に、四季を彩る植樹を行い13年目。地元の人たちと一緒に育んできた《県美の森》にて、今年も県美の森づくりを実施した。

■県美の森づくり

日時：令和元年(2019年)9月29日(日) 8:00~9:30

会場：山口県立美術館中庭《県美の森》

主催：美術館に彩り豊かな森をつくる実行委員会

参加者：52名
参加費：無料

山口県総合芸術文化祭 HEART2020

主催：ミュージアム・タウン・ヤマグチ実行委員会HEART2020
(山口県/山口県立美術館/山口市/山口商工会議所/山口市商店街連合会/
山口県立美術館指定管理者SPSグループ/公益財団法人山口きらめき財団)

会期：令和3年(2021年)2月18日(木)～28日(日) 8日間

会場：山口県立美術館・一の坂川エリア



HEART 2020 中止のお知らせ

チラシ表



チラシ裏

1：第74回山口県美術展覧会 (主催：山口県)

【延期】新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のため。

会期：令和3年(2021年)2月18日(木)～3月7日(日)17日間

作品搬入から審査、展示、搬出までの間の出品者及び関係者の健康と安全を最優先に考え、本年度内での開催を見送り、開催延期とした。(1月21日(木)15時 発表)

延期後の会期：令和3年(2021年)12月3日(金)～19日(日)

2：アート・マーケット

山口県美術展覧会出身作家を紹介するミニ・ギャラリーとして、作家有志による小作品の展示・販売を実施。美術館をアートづくりのマーケット(市場)に変身させる部門。

■アート・マーケット・ギャラリー

【中止】新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のため。

会期：令和3年(2021年)2月18日(木)～3月7日(日)17日間

会場：山口県立美術館ミュージアムショップ(入場無料)

内容：第50～74回山口県美術展覧会において優秀賞以上を受賞した作家のうち、希望者の作品を紹介、販売するほか、ミュージアム・グッズ、美術図書を販売。山口市中心商店街でも、関連イベントを開催。

■HEART関連企画

ギャラリーナカノ HEART2020関連企画 県美界隈展 「春祭」

会期：令和3年(2021年)2月18日(木)～28日(日) 11：00～17：00

会場：ギャラリーナカノ

内容：長年にわたって県美展を見続けてきたギャラリーナカノ・中野聡氏による関連企画。山口県美術展覧会ゆかりの作家を中心に紹介。

出品作家：稲田絵美、白杵万理実、土谷寛子、はやしいくみ、平井慎、吉田朱里

3：アート・ルートの坂

山口県立美術館を核として、ものづくりのワクワク感を味わえるワークショップほか、かんたんな工作を体験できる工作コーナーを設置。子どもから大人まで、アートをより身近に感じてもらえるような企画を実施。

■「お菓子の国へようこそ！」

事前に郵送された工作キットを使って、まるで本物のスイーツのような可愛くておいしそうなチャームをデコレーションして作る。山口県立美術館が講師のいる会場と参加者の自宅をZoom(Web会議ツール)で繋ぎ、当館初のオンライン工作ワークショップを開催。

講師：渡辺おさむ(現代美術作家)

日時：令和3年(2021年)2月21日(日) 10:00~12:00

会場：講師 サントリーパブリシティサービス(株)東京本社

参加者 各自の自宅(Zoomを使用したオンライン参加)

対象：未就学児から小学6年生までのZoomで参加できる方。

※すべての参加者に保護者の方の同伴、補助を依頼。

参加者：40名(要申込・先着順)

参加費：無料

4：アート・フォレスト県美の森

亀山公園山頂から美術館中庭にかけて広がる斜面に、四季を彩る植樹を行い14年目。地元の人たちと一緒に育んできた《県美の森》にて、今年も県美の森づくりを実施した。

■県美の森づくり

日時：令和2年(2020年)9月27日(日) 8:00~9:30

会場：山口県立美術館中庭《県美の森》

主催：美術館に彩り豊かな森をつくる実行委員会

参加者：64名

参加費：無料

(3) デジタル技術を活用した事業

■拡大映像で見る山水長巻—雪舟筆 国宝《四季山水図》（毛利博物館所蔵）拡大映像展示

開催期間：令和元年(2019年)11月2日(土)～12月22日(日)

会場：山口県立美術館展示室B

趣旨内容：日本美術を代表する名品として知られている雪舟の国宝《四季山水図（山水長巻）》。しかし、その全容を実際に見ることができるのは、基本的には11月の一か月間だけである。また、洋画のように明るい照明で見ることができない。古美術品は格段に光に弱く、傷みやすいという理由により、展示期間も展示照明の明るさも厳格に制限されているからである。そのため、洋画と比較した場合、水墨画の名品を見る機会を得てその素晴らしさを体験し、魅力を伝えることのできる人は、圧倒的に少ないと言わざるを得ない。

山口県立美術館では、ここ数年にわたって、山口で受け継がれてきた大事なお宝である《山水長巻》の魅力をより多くの人に伝えるために、デジタル技術を使って様々な映像展示を試みてきた。

このたびは、昨年に引き続き、全長16mにおよぶ名品を9シーンに分けて、15分の高精細映像として再構成。実際の作品を7.5倍に拡大して、展示室を取り囲むように各々10m程度の壁3面に投影。くわえて、タブレット端末を映像に向け、画面に映像の一部を写すと、画面の中に写された部分の解説が画面上にあらわれるという、AR技術を使った作品解説も試みた。

展示映像：《パノラマ山水長巻》 2019年

アートディレクター：向井知子、テクニカルディレクター：山元史郎

作品解説：岡本麻美(山口県立美術館 学芸課専門学芸員)、制作統括：河野通孝(山口県立美術館 副館長兼学芸課長)
雪舟等楊筆 四季山水図(山水長巻) 毛利博物館蔵 文明18年(1486) 紙本墨画淡彩 40.8×1602.3cm



展示風景



ARによる作品解説

■パノラマ山水長巻—拡大映像で見る雪舟筆 国宝《四季山水図》

開催期間：令和2年(2020年)10月31日(土)～12月21日(日)

令和3年(2021年)1月9日(土)～2月21日(日)、2月23日(火)～3月28日(日)

会場：山口県立美術館展示室B

趣旨内容：2019年度に引き続き、《パノラマ山水長巻》(2019年)を映像展示。

全長16mにおよぶ名品を9シーンに分けて、15分の高精細映像として再構成。実際の作品を7.5倍に拡大して、展示室を取り囲むように各々10m程度の壁3面に投影。

展示映像：《パノラマ山水長巻》 2019年

アートディレクター：向井知子、テクニカルディレクター：山元史郎

作品解説：岡本麻美、制作統括：河野通孝

雪舟等楊筆 四季山水図(山水長巻) 毛利博物館蔵 文明18年(1486) 紙本墨画淡彩 40.8×1602.3cm



展示風景

■5GVRで探る山水長巻

開催期間：令和3年(2021年)2月23日(火)～3月28日(日)

会場：山口県立美術館展示室C

趣旨内容：古美術品は、油彩等に比して作品が傷みやすいため、展示期間、展示照明が制限されることが多い。したがって、作品本来の魅力を理解し体感できる機会が多いとは言えないのが実情である。また、作品鑑賞機会のみならず、地域の歴史を語る文化資源としての活用も制限されざるを得ず、その魅力を多くの人に伝えることは容易ではない。こうした実情を踏まえ、山口県立美術館では、ここ数年にわたって、山口で受け継がれてきた大事な文化資源である《山水長巻》の魅力により多くの人に伝えるために、デジタル技術を使った様々な映像展示を試みてきた。

本年は、雪舟の代表作である「山水長巻」の理解促進と体感的鑑賞を目的に、これまでの拡大映像展示に加えて、VR技術を駆使したコンテンツを制作した。

全体は【解説パート】と【体験パート】の2パートで構成。冒頭の【解説パート】では、雪舟に関する簡単な解説のあと、VR空間内で画卷がスクロールし、作中の四季の流れや、鑑賞のポイントとなる特徴的な箇所をピックアップして紹介する。また後半の【体験パート】では、画卷冒頭（春の場面）を360度のVRフルCGで制作。水墨画の世界に入り込む感覚で、「山水長巻」の世界感や構図の特徴を体感的に味わうことができることをコンセプトとして、現実世界では体験することができない、新しい水墨画の鑑賞体験を提供した。

なお各パートの切り替えや、【体験パート】中には、手をかざしたり、映像に触れる動きなどのインタラクティブ要素も組み込み、より「VRらしさ」に没入できるよう工夫をした。

なお、本コンテンツは、「先進映像協会 ルミエール・ジャパン・アワード2021」において、特別賞を受賞した。

VR鑑賞端末にはOculusQuest2、またモニタ等に投影して鑑賞する場合にはiPhoneを設定。NTTドコモと県との協定により館内に設置された5Gの「高速大容量」「低遅延通信」「多数同時接続」という特徴を生かし、クラウド上から大容量データを端末に都度ダウンロードし、映像をリアルタイム再生するシステムとし、4台以上の端末を同時稼働することが可能となっている。

企画制作：山口県、株式会社NTTドコモ

VR制作：株式会社360Channel

学術協力：山口県立美術館

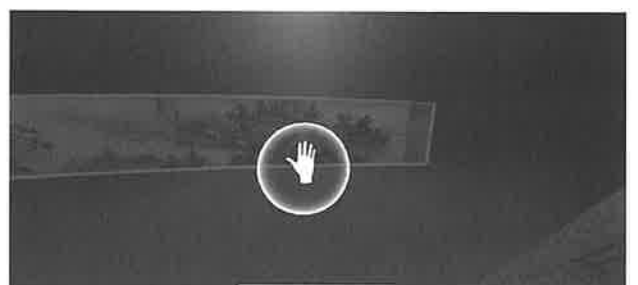
特別協力：公益財団法人毛利報公会 毛利博物館



VR映像【解説パート】



VR映像【体験パート】



VR映像 空間にタッチする演出

■5Gアートスクール

日時：令和2年(2020年)12月18日(金) 11:00~12:10

会場：山口県立美術館／宇部市立二俣瀬小学校／周防大島町立沖浦小学校

参加者：二俣瀬小学校3~6年生(22名)、沖浦小学校3~6年生(14名)、山口県知事

その他参観：各市町長・教育長、教育委員会、保護者など

講師：岡本麻美(山口県立美術館 学芸課主任)

主催：山口県観光スポーツ文化部、株式会社NTTドコモ

趣旨内容：本事業は2019年に提唱された「GIGAスクール構想」を受け、県とNTTドコモが結んだ「5G等を活用した地域活性化に向けた連携と協働に関する協定」に基づく実証実験として、NTTドコモの次世代移动通信システム「5G」と、空間共有ソリューション(Smooth Space)を活用し、古美術を題材とした新たな鑑賞授業体験を目指して企画したものである。山口県立美術館(山口市)と二俣瀬小学校(宇部市)、沖浦小学校(周防大島町)をつなぎ、雪舟の作品を題材とした本授業は、5G環境下で3地点を結んでの遠隔授業として、全国で初めての試みとなった。

授業では、本編前の相互交流として、各学校間でSmooth Spaceを介して学校・地域紹介を行い、本編では高精細拡大カメラ・高精細大型モニターを用いた「牧牛図(牧童)」(山口県立美術館所蔵)の対話型鑑賞を中心に、雪舟および同時代についてのスライドショーによる解説、美術館における高精細デジタル拡大展示による「山水長巻」の紹介を通しての鑑賞を行った。

「画面越しだけど、絵を拡大して詳細に見られて驚いた」「遠くの人とすぐそばで話しているみたいで楽しかった」といった感想に加え、3地点での相互性を意識したプログラムによって、はじめて交流する他校の生徒の気づきを契機に、新たな発言が生まれるようも見え、デジタル環境であるがゆえの鑑賞の可能性を感じることができた。今後、技術面ないしは環境整備、および使用設備・経費の軽量化という課題があるものの、オンラインによる鑑賞プログラム、また美術館と学校教育とを結ぶ新たなかたちを検証していくうえで、有益な試みとなった。



沖浦小学校



二俣瀬小学校



美術館

■山口情報芸術センター[YCAM]連携ワークショップ

「見ないほうがよくみえる」 Invent your way to watching

<p>本物をみるってなんだろう?</p>	<p>オンライン+オフライン鑑賞イベント</p> <p>見ないほうが Invent your way to watching よくみえる</p> <p>2020 11/20/金/18:00, 11/21/土/18:00 参加無料</p>	<p>山口情報芸術センター[YCAM]連携企画</p>
----------------------	--	-----------------------------

日時：令和2年(2020年)11月27日(金)18:00~20:00

令和2年(2020年)11月28日(土)18:00~20:00

※新型コロナウイルスの影響により、当初の予定より延期して開催

会場：オンライン会場 および 山口県立美術館展示室C

参加者：27日 オンライン23名、美術館6名

28日 オンライン23名、美術館5名 (対象：18歳以上)

参加費：無料(要申込制)

講師：原 泉(山口情報芸術センター[YCAM])、岡本麻美(山口県立美術館 学芸課主任)

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団、山口県立美術館

助成：令和2年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

共同開発：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター[YCAM]

趣旨内容：

〈雪舟600年〉展に関連する企画として、山口情報芸術センター（YCAM）と連携し、インターネット上の参加者と、美術館に実際にいる参加者とで同時進行する、オンライン／オフラインハイブリッド型の鑑賞ワークショップを行った。

当館所蔵の雪舟作品を題材に、「ブラインドトーク」の手法で作品を鑑賞。《作品が見えている》オンライン参加者が画像を見ながら、《作品が見えていない》状態のオフライン参加者にその特徴や詳細を言語で伝え、オフライン参加者は、情報をもとに頭のなかで作品を構築していった。その後、オフライン参加者が実際に作品を見ての感想、印象などをオンライン側に伝えた。合わせて講師が最後にミニギャラリートークというかたちで、本物ならではの気づきについてフォローを行った。

メインシステムはzoomを使用し、司会者もオンライン上（実際は美術館内の別室）から参加することで、オンライン、オフラインいずれかの優位性をなるべく持たせないように配慮した。また主にzoomの使用、接続等に関しての技術的側面をリアルタイムでフォローするチームを司会者とは別に置くことで、進行がスムーズになったことも、より内容に集中でき、満足度を高めるポイントとなった。

参加者は10代～70代まで、全国・海外からと、オンラインならではの幅広い層にわたり、作品の丁寧な鑑賞体験とともに、「ほんものを見る」とは何か、オンライン／オフラインという環境の違いとは何かなどについても気づきや意見が交わされ、今後の鑑賞イベント、ワークショップのスタイルの幅を広げるイベントとなった。



イベント風景



ミニギャラリートーク



司会者ブース

(4) 学校連携

児童生徒、教員が芸術文化にふれあい、ともに学ぶ場としての美術館の普及のため、学校との連携事業を実施。

ただし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、20名以上の学校団体による見学の受入、教員との共同授業、職場体験学習および教員の社会体験研修受入を中止とした。

【学校見学】

学校単位での来館に対し、解説、一般の来館者との調整などを行う。

平成31年度

累計：児童生徒・教員 のべ816名

令和2年度

累計：児童生徒・教員 のべ129名

【教員との共同授業】

多彩な授業を目指す学校や、学校単位での来館が困難な遠隔地の学校へ学芸員を派遣し、担当教員とともに共同で授業を行う。

平成31年度

■日時 令和2年1月28日(火)

対象 宇部市立上宇部小学校4・5・6年生

担当 福田善子

内容 「夢に向かって～ゲストティーチャーに学ぶ会～」

令和2年度

なし

【職場体験学習】

平成31年度

■日時 令和元年6月19日(水)、20日(木)、21日(金)

対象 山口市立宮野中学校

担当 福田善子、SPS

参加者 3名

■日時 令和元年7月30日(火)、31日(水)

対象 山口県立防府西高等学校

担当 福田善子、SPS

参加者 2名

■日時 令和元年9月19日(木)、20日(金)

対象 山口市立鴻南中学校

担当 福田善子、SPS

参加者 2名

令和2年度

なし

【教員社会体験研修】

平成31年度

■日時 令和元年8月1日(木)、2日(金)、5日(月)

対象 防府市立華浦小学校、山口県立山口中央高等学校

担当 福田善子、岡本麻美、SPS

参加者 各学校から1名

■日時 令和元年8月1日(木)、5日(月)、6日(火)

対象 山口県立徳山総合支援学校

担当 福田善子、岡本麻美、SPS

参加者 1名

令和2年度
なし

【教材・資料活用】
平成31年度
なし

令和2年度
なし

(5) 美術館ボランティア

美術館活動をサポートする組織としてボランティア制度を設けている。以下のとおり【展覧会サポート班】による、展覧会などに合わせた企画の立案を行ったが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からパネル展示のみの実施となった。なお、例年実施してきた【教育普及班】による《こどものためのギャラリートーク「みんなでみよう」》は、班員の活動休止による人員減等により実施には至らなかった。

平成31年度

活動内容

【展覧会サポート班】

岸田劉生展

「サインをさがせ！」（パネル展示）

時代とともに変化する岸田劉生のサインに注目。サインにも注目して観覧してもらうよう、記入した用紙を会場入口に設置し、自由にとってもらった。会場出口付近のスロープでは、異なるサインが入った作品を6種類程度ピックアップした紹介パネルを掲示した。

第73回山口県美術展覧会

「私のイチオシ！」（参加型展示）

全作品を対象として、来館者が選んだイチオシ作品の理由を記入した用紙をポストに入れてもらい、随時展示した。また、展示終了後の作品返却時に、出品者へ該当投票用紙を渡し、結果をフィードバックした。

実施結果：投票枚数 942枚

令和2年度

活動内容

【展覧会サポート班】

ハマスホイとデンマーク絵画展

「伝 デンマーク 伝」（パネル展示）

デンマークに関する豆知識をわかりやすく、イラスト入りでパネルにして、会場出口付近のスロープに展示した。

〈デンマークを紹介したテーマ〉

- ・「デザイン王国」
- ・「LEGO」
- ・「ハムレット」
- ・「Blue tooth」
- ・「チボリ公園」
- ・「徴兵制度」

奇才—江戸絵画の冒険者たち—展

「ボランティアが選んだ 勝手にいいね!!」（パネル展示）

ボランティアが6つのテーマを決めて、テーマに対応する作品を3点ずつピックアップし、会場出口付近のスロープに展示した。

〈6つのテーマ〉

- ・「トラ」
- ・「笑顔」
- ・「ペットにしたい」
- ・「ユニークキャラ」
- ・「突っ込みたくなる」
- ・「ソーシャルディスタンス」

(6) 県立美術館メンバーズクラブ

山口県立美術館および、山口県立萩美術館・浦上記念館では、山口県の県立美術館2館の展覧会等を通じて、美術に広く親しんでいただき、地域文化の向上に寄与することを目的に平成26年度より2館共通の会員組織、「県立美術館メンバーズクラブ」を設立。

1. 会 費 [平成31年度]
一般会員：2,500円、学生会員(19歳以上の学生)：2,000円、シニア会員(70歳以上)：1,600円
[令和2年度]
一般会員：2,800円、学生会員(19歳以上の学生)：2,300円、シニア会員(70歳以上)：1,900円
2. 特 典
①県立美術館2館の企画展が5回まで無料、6回目以降は半額
②2館の企画展オープニングセレモニーにご招待
③開催中の展覧会図録を割引販売
④2館の展覧会、イベント情報などを定期的に郵送
⑤館内カフェでの割引特典
⑥会員限定イベントの開催
⑦協賛店での割引販売
⑧提携施設の入館料割引(令和2年度から)
3. 会員募集期間 [平成31年度] 平成31年3月20日(水)～7月31日(水)まで
[令和2年度] 令和2年3月20日(金)～7月31日(金)まで
4. 有効期間 [平成31年度] 令和2年3月31日(火)まで
[令和2年度] 令和4年3月31日(木)まで
5. 入会者数 [平成31年度] 2,915名
[令和2年度] 976名

(7) キャンパスメンバーズ

県立美術館(山口県立美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館)を有効活用し、美術に親しむ機会をより豊かにしていただくことを目的とした、高等教育機関向けの会員制度。所属する学生及び教職員は、身分証の提示で展覧会を無料で何度でも鑑賞可能。平成29年度設立。

1. 年会費

学生数	年会費	学生数	年会費
500人未満	40,000円	4000人未満	275,000円
1000人未満	75,000円	5000人未満	345,000円
2000人未満	150,000円	1万人未満	440,000円
3000人未満	215,000円	1万人以上	550,000円

2. 特典

県立美術館2館(山口県立美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館)が開催する普通展示(コレクション展)及び企画展(山口県美術展覧会を除く特別展示)を、無料で何度でも鑑賞可能。

3. 募集期間 [平成31年度] 平成31年4月1日(月)～7月31日(水)
[令和2年度] 令和2年4月1日(水)～7月31日(金)
4. 有効期間 [平成31年度] 平成31年4月1日(月)(以降は入会日)～令和2年3月31日(火)
[令和2年度] 令和2年4月1日(水)(以降は入会日)～令和4年3月31日(木)
5. 入会校数 [平成31年度] 8法人10校
[令和2年度] 7法人 9校

(8) 博物館実習

例年、山口県美術展覧会審査会前後にあわせ博物館実習を行っている。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、同展覧会が次年度(令和3年度)に延期となったため、例年とは異なる実習プログラムにて実習生の受入を行った。

平成31年度

■実習生学校別内訳(3大学8名)

- | | | |
|---|----------------|----|
| 1 | 山口県立大学(国際文化学部) | 5名 |
| 2 | 京都女子大学(文学部) | 1名 |
| 3 | 山口大学(人文学部) | 2名 |

■実習内容

1月15日(水)	08:40~09:00	オリエンテーション
	09:00~10:30	【講義】山口県立美術館、教育普及(県美展、HEART)について
	10:40~12:10	【講義】展覧会の企画(コレクション展・企画展)について
	13:00~14:30	館内見学
1月16日(木)	14:45~16:20	作品の取り扱い(実習)
	09:00~10:00	【講義】美術館の指定管理業務について
	10:15~11:45	【講義】美術品の保存修復について
1月17日(金)	13:00~13:20	県美展搬入についての説明
	13:20~17:10	搬入準備
1月17日(金)	08:50~12:10	実際の作品の取り扱い(県美展搬入作業)
	13:00~16:10	実際の作品の取り扱い(県美展搬入作業)
1月18日(土)	08:50~12:10	実際の作品の取り扱い(県美展搬入作業)
	13:00~16:10	実際の作品の取り扱い(県美展搬入作業)
1月19日(日)	08:50~12:10	実際の作品の取り扱い(県美展搬入作業)
	13:00~16:10	実際の作品の取り扱い(県美展搬入作業)
1月21日(火)	16:10~16:20	県美展審査会についての説明
	08:45~12:10	実際の作品の取り扱い(県美展審査会作業)
	13:00~17:10	実際の作品の取り扱い(県美展審査会作業)
1月22日(水)	08:45~12:10	実際の作品の取り扱い(県美展審査会見学)
	13:00~15:30	実際の作品の取り扱い(県美展展示見学・補助)
	15:30~16:10	総括

令和2年度

■実習生学校別内訳(2大学9名)

- | | | |
|---|----------------|----|
| 1 | 山口県立大学(国際文化学部) | 7名 |
| 2 | 山口大学(人文学部) | 2名 |

■実習内容

1月27日(水)	08:40~09:00	オリエンテーション
	09:00~10:30	【講義】山口県立美術館、教育普及(県美展、HEART)について
	10:40~12:10	【講義】展覧会の企画(コレクション展・企画展)について
	13:00~14:10	館内見学
1月28日(木)	14:30~16:20	作品の取り扱い(実習)
	09:00~10:00	【講義】美術館の指定管理業務について
	10:15~11:45	【講義】美術品の保存修復について
1月29日(金)	13:00~13:20	対話型鑑賞-レクチャー
	13:20~17:10	対話型鑑賞-実践
	08:50~09:00	実習内容説明(※三密回避のため3班でローテーション)
2月1日(月)	09:00~12:10	作品資料調査、保存整理、書庫整理
	13:00~16:10	作品資料調査、保存整理、書庫整理
2月1日(月)	09:00~12:10	作品調査、資料保存整理、書庫整理・調査データ入力
	13:00~16:10	作品調査、資料保存整理、書庫整理・調査データ入力

2月2日(火)	09:00~12:10	作品調査、資料保存整理、書庫整理・調査データ入力
	13:00~16:10	作品調査、資料保存整理、書庫整理・調査データ入力
2月3日(水)	09:00~10:30	美術館紹介パンフレットの原稿案作成
	10:40~12:10	美術館紹介パンフレットの原稿案の発表および意見交換
	13:00~14:30	展覧会広報物作成のための作品選定および意見交換
	14:40~16:10	総括

(9) その他の事業

1. 美術館ニュース「天花」

「天花」のタイトルは、大内時代、雪舟が山口市天花(てんげ)に雲谷庵をいとなんだという故事にちなんで命名されたもの。第1-60号まではB5版、61-79号まではA4版であったが、第80号から現行のA5版となっており、年間スケジュール、展覧会や各種活動の紹介、所蔵品紹介を行っている。

第131号 (平成31年3月)

コレクション特別展

- ・香月泰男のシベリア・シリーズ

特別展

- ・山口県立美術館開館40周年記念 扇の国、日本
- ・下瀬信雄展
- ・ヨーロッパ絵画 美の400年 - 珠玉の東京富士美術館コレクション展
- ・没後90年記念 岸田劉生展

お知らせ

館内インフォメーション
年間スケジュール



第132号 (令和元年10月)

コレクション展

- ・木村伊兵衛と福田勝治

特別展

- ・没後90年記念 岸田劉生展
- ・雪舟の仏画
- ・ハマスホイとデンマーク絵画
- ・第73回山口県美術展覧会

館内インフォメーション ミュージアム・カフェ
年間スケジュール



第133号 (令和2年3月)

コレクション展

- ・麗らかに、凛として

特別展

- ・ハマスホイとデンマーク絵画
- ・奇才-江戸絵画の冒険者たち-
- ・生誕600年記念 雪舟と狩野派
- ・小村雪岱スタイル 江戸の粋から東京モダンへ

館内インフォメーション
年間スケジュール



第134号 (令和2年9月)

コレクション展

- ・雲谷派の花鳥図

館蔵品による特別企画2

- ・〈雪舟600年〉展
- ・国宝「山水長巻」デジタル映像展示

下半期展覧会へのご案内
新館長着任インタビュー
HEART2020

館内インフォメーション
年間スケジュール



2. 指定管理者自主企画事業

平成31年(2019年)度

■GW特別イベント(参加者総数869名)

- ・サントリー美術館エデュケーターによる「扇の国・日本」特別見どころ講座

日 時：4月5日(金)～4月6日(土)11:00～、13:00～、15:00～

参加者：171名

- ・スタンドグラスを紙で再現するローズウィンドウづくりワークショップ

日 時：5月2日(木)10:30～、14:00～

参加者：50名

- ・ザ・キャビンカンパニー ワークショップ～生まれよ！ガシガシ竜～

日 時：5月5日(日)10:00～12:00、14:00～16:00

内 容：大分県で絵本作家として活躍しているザ・キャビンカンパニーの二人を講師に迎え、筆の代わりにほうき、スタンプ、カラーテープ、歯ブラシ、スポンジ等を使い、自立可能の段ボールに『竜』の巨大絵を、みんなで絵の具でガシガシとダイナミックに描くワークショップを開催。完成した作品は「扇の国、日本」展最終日にエントランスロビーに展示。

参加者：85名

- ・ゴールデンウィーク工作コーナー

期 間：4月27日(土)～5月6日(月)

内 容：ゴールデンウィークに来館が増えることが予想される子ども向けに、手持ちこいのぼりづくり、オリジナル扇子づくりを開催。扇子の見本として、新元号「令和」の由来である万葉集の一節を書いて設置。

参加者：563名



GW特別イベント「扇の国・日本」特別見どころ講座

■ロビーコンサート

日 時：5月4日(土)11:00～、12月7日(土)14:00～

内 容：「扇の国、日本」展と、「岸田劉生展」の関連イベントとして 山口県交響楽団のご協力による弦楽四重奏のコンサートをエントランスロビーで開催。

参加者：5月4日開催 209名、12月7日開催 175名

■ミュージアムタウンヤマグチ「かぞくの時間」

「家庭の日」のコンセプトにあわせ、家族で過ごし絆を深めるイベントとして実施。また、ミュージアム・タウン・ヤマグチによるイベントとして、県立山口博物館、長門おもちゃ美術館など、県内文化施設との連携により実施。

- ・山口県立山口博物館連携イベント「工作コーナー」

- ・飛べ！オリジナルフリスビー

期 間：7月27日(土)～8月18日(日)

- ・オリジナル「UFO」を飛ばそう！

期 間：7月27日(土)～8月18日(日)

- ・どきどき！ドローン缶バッジ

期 間：8月2日(金)～4日(日)

- ・出張 長門おもちゃ美術館

日 時：8月7日(水) 9:30～16:30

- ・美術館で映画を観よう！「ペンギンズ FROM マダガスカル ザ・ムービー」

日 時：8月11日(日)11:00～、14:00～

- ・絵本交換会

期 間：7月27日(土)～8月18日(日) 9:30～16:30

参加者：延べ2,778名

参加費：無料

■山口県立美術館 開館40周年記念感謝デー

10月5日(土)、6日(日)に山口県立美術館開館40周年を記念したイベントを開催。

- ・映画観賞会「美術館を手玉に取った男」

日 時：10月5日(土)10:00～、13:30～

参加費：500円

- ・アートアンブレラづくり

日 時：10月5日(土)9:30～10:50、13:00～14:20

10月6日(日)9:30～10:50、13:00～14:20、15:00～16:20

参加費：300円

- ・大ビンゴ大会

日 時：10月6日(日)11:30～

- ・餅・菓子まき

日 時：10月6日(日)15:45～

- ・広島ウインドオーケストラ プラス・クインテット ミニコンサート

日 時：10月6日(日)14:30～15:30



開館40周年記念感謝デー 餅・菓子まき

参加者：1,257名

■シンフォニア岩国アーティストバンクミニコンサート

山口県立美術館開館40周年記念感謝デー(10月5日、6日)でのミニコンサートと餅・菓子まきのファンファーレの演奏者手配をシンフォニア岩国に依頼し、アーティストバンクより、前年の100万人イベントで実績のあった、広島ウインドオーケストラに再度ご協力いただいた。

参加者：400名

■いい夫婦の日イベント

期 間：11月22日(金)、23日(土)

内 容：「いい夫婦の日(11/22)」にちなんでご夫婦で来館された展覧会入場者に、記念品(岸田劉生展オリジナルポストカード&雪舟のクリアファイル)をプレゼント。例年は山口県立美術館と山口県立萩美術館・浦上記念館(萩美)の両館で開催していたが、今年度は萩美が休館中のため、当館単独で開催。

参加者：100組 200名

令和2年(2020年)度

■かぞくの時間 おうちでかんたんワークショップ「紙のオーナメントを作ろう」

期 間：11月1日(日)～12月25日(金)ホームページにダウンロード用PDFデータ掲載

11月1日(日)～3日(火) 木の素材の工作キットをプレゼント(先着50名)

内 容：ホームページ上でレシピを紹介し、個々に自宅で参加していただくワークショップを開催。完成した作品画像を送っていただき、全11作品をウェブ上で共有。

■かぞくの時間 「みんなでつなごう！写真による風景絵巻」

期 間：11月1日(日)～29日(日)

内 容：「雪舟600年」展の開催に合わせ、パークロードで撮影した写真をつなげて絵巻を作るワークショップを開催。参加者が思い思いに撮影した画像をつなげ、企画展示室出口のスロープに、絵巻に見立てて全11作品を展示。

参加組数：8組

■田中雅弘 オンライン・ミュージアム・コンサート

演奏日時：11月13日(金)18：00～18：40

配信期間：11月24日(火)～12月21日(月)

内 容：防府市出身・在住で、元東京都交響楽団首席奏者のチェリストである田中雅弘氏による演奏会に、メンバーズクラブ会員限定イベントとして抽選で20名を招待。

《Distance-ディスタンス》展の展示室で、ソーシャルディスタンスを確保して開催。演奏者と観覧者ともに展示室内における作品の一つに見立てたインスタレーション的な独特な雰囲気を感じさせる演奏会となった。後日、ホームページ上でコンサートの模様を無料動画配信。山口県立萩美術館・浦上記念館、シンフォニア岩国との連携による開催。



オンラインミュージアムコンサート

■「雪舟のぬりえ」プレゼント！

期 間：11月4日(水)～8日(日)

内 容：「雪舟600年」展の開催に合わせ、来館いただいた方へのおもてなしの一環として、当館が所蔵する雪舟の重要文化財2作品をぬり絵にしたもの(切手を貼って郵便ハガキとしても利用可能)をプレゼント。

参加者：227名

■いい夫婦の日イベント

期 間：11月22日(日)、23日(月)

内 容：「いい夫婦の日(11/22)」にちなんでご夫婦で来館された展覧会入場者に、当館所蔵の雪舟作「牧牛図」のステッカーを貼ったミニスプレーボトルをプレゼント。

参加者：29組58名



いい夫婦の日イベント

■アート年賀状

展示期間：1月2日(金)～31日(日)

内 容：山口県立美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館(萩美)の2館合同で作品を募集し、萩美で展示。

応募件数は396件。

(10) 原稿執筆・講演等

平成31年度

【大学での講義】

- 日時 令和元年6月6日(木)
科目 博物館実習事前授業「博物館実習(実務実習)」
大学 山口大学
担当 福田善子
- 日時 令和元年6月12日(水)
科目 博物館実習事前授業「博物館学内実習Ⅱ」
大学 山口県立大学
担当 福田善子
- 日時 令和元年11月11日(月)
科目 一般教養科目「山口の歴史と文化」「雪舟」
大学 山口県立大学
担当 荏開津通彦
- 日時 令和元年11月18日(月)
科目 一般教養科目「山口の歴史と文化」「雪舟と雲谷派」
大学 山口県立大学
担当 福田善子
- 日時 平成31年度(前期)
科目 「博物館概論」
大学 山口県立大学
担当 斎藤郁夫
- 日時 平成31年度(後期)
科目 「博物館経営論」
大学 山口県立大学
担当 斎藤郁夫

【講演】

- 日時 令和元年6月8日(土)
題目 きらり山口ひとものがたりセミナー [前期]
美術館学芸員が語る「館藏品」から見る“ひとものがたり”
「山口の写真 福田勝治から下瀬信雄まで」
主催 (公財)山口県ひとづくり財団
共催 山口県立美術館
担当 河野通孝
- 日時 令和元年10月5日(土)
題目 きらり山口ひとものがたりセミナー [後期]
美術館学芸員が語る“ひとものがたり”
「岸田劉生と最期の地・徳山」
主催 (公財)山口県ひとづくり財団
共催 山口県立美術館
担当 矢追愛弓
- 日時 令和元年10月13日(日)
題目 熊谷五右衛門生誕300年記念特別展「伝統から現代、未来へ」
トークセッション「雪舟と雲谷派」(画家・山本浩二氏との対談)
主催 熊谷美術館(萩市)
担当 福田善子
- 日時 令和元年10月26日(土)
題目 文化講演会「「うつす」ことの意味－絵巻の模本をめぐる－」
主催 防府史談会・防府市読書グループ連絡協議会
担当 岡本麻美
- 日時 令和元年11月9日(土)
題目 第17回雪舟サミット基調講演「山水長巻と雪舟」
主催 防府市、第17回雪舟サミット実行委員会
担当 荏開津通彦
- 日時 令和2年2月22日(土)
題目 19世紀のデンマークとヴィルヘルム・ハマスホイ
主催 東京都美術館
担当 萬屋健司

【書籍・論文等執筆寄稿】

- 執筆 荏開津通彦
題目 「大内氏と雪舟」
掲載 『室町戦国日本の覇者 大内氏の世界をさぐる』(勉誠出版)
刊行 令和元年7月
- 執筆 荏開津通彦
題目 「中世絵画における猿曳の図様に関する研究」

- 掲載 『鹿島美術研究』（年報36号別冊）
 刊行 令和元年11月
 ■執筆 萬屋健司
 書名 『ヴィルヘルム・ハマスホイ 静寂の詩人』（東京美術）
 刊行 令和2年1月
 ■執筆 福田善子
 題目 「雲谷等顔 筠溪玄轍賛 瀟湘八景詩画卷」
 掲載 『國華』第1492号（國華社）
 刊行 令和2年2月20日
 ■執筆 岡本麻美
 題目 「「うつす」ことの意味—絵巻の模本をめぐる—」
 掲載 『佐波の里』第48号（防府史談会）
 刊行 令和2年3月31日

令和2年度

- 【大学での講義】
- 日時 令和2年5月13日（水）
 科目 博物館実習事前授業「博物館学内実習Ⅱ」（リモート講義）
 大学 山口県立大学
 担当 福田善子
- 日時 令和2年5月14日（木）
 科目 博物館実習事前授業「博物館実習（実務実習）」（リモート講義）
 大学 山口大学
 担当 福田善子
- 日時 令和2年8月26日（水）
 科目 菊屋吉生氏（山口大学名誉教授）集中講義「江戸絵画の奇才」にて対談（リモート講義）
 大学 山口大学
 担当 福田善子
- 日時 令和2年11月30日（月）
 科目 一般教養科目「山口の歴史と文化」「雪舟」
 大学 山口県立大学
 担当 荏開津通彦
- 日時 令和2年12月7日（月）
 科目 一般教養科目「山口の歴史と文化」「雲谷派の展開」
 大学 山口県立大学
 担当 福田善子
- 日時 令和3年2月8日（月）～2月10日（水）
 科目 北欧文学演習Ⅰa（集中講義）
 大学 大阪大学
 担当 萬屋健司
- 日時 令和2年度（前期）
 科目 「博物館概論」
 大学 山口県立大学
 担当 斎藤郁夫
- 日時 令和2年度（後期）
 科目 「博物館経営論」
 大学 山口県立大学
 担当 斎藤郁夫
- 【講演・学会発表等】
- 日時 令和2年8月22日（土）
 題目 きらり山口ひとものがたりセミナー
 美術館学芸員が語る「館藏品」から見る“ひとものがたり”「雪舟 600歳！」
 主催 （公財）山口県ひとづくり財団
 共催 山口県立美術館
 担当 河野通孝
- 日時 令和2年11月28日（土）
 科目 日本水墨画大賞展2020「画聖雪舟生誕600年記念シンポジウム」
 大学 日本水墨画美術協会
 担当 荏開津通彦
- 日時 令和2年12月5日（土）
 科目 発表題目「雲谷等顔の文化人的側面について—和漢兼帯の教養と画事—」
 大学 第103回九州藝術学会
 担当 福田善子
- 【書籍・論文等執筆寄稿】
- 執筆 斎藤郁夫
 題目 「山を描いた画家たち 第1回 大下藤次郎」

- 掲載 『山と溪谷』 No.1021(山と溪谷社)
 刊行 令和2年4月
 ■執筆 斎藤郁夫
 題目 「山を描いた画家たち 第2回 丸山晚霞」
 掲載 『山と溪谷』 No.1022(山と溪谷社)
 刊行 令和2年5月
 ■執筆 斎藤郁夫
 題目 「山を描いた画家たち 第3回 吉田博」
 掲載 『山と溪谷』 No.1023(山と溪谷社)
 刊行 令和2年6月
 ■執筆 斎藤郁夫
 題目 「山を描いた画家たち 第4回 茨木猪之吉」
 掲載 『山と溪谷』 No.1024(山と溪谷社)
 刊行 令和2年7月
 ■執筆 荏開津通彦
 題目 「雪舟と道釈画」
 掲載 『禅文化』 257号
 刊行 令和2年7月
 ■執筆 斎藤郁夫
 題目 「山を描いた画家たち 第5回 中村清太郎」
 掲載 『山と溪谷』 No.1025(山と溪谷社)
 刊行 令和2年8月
 ■執筆 斎藤郁夫
 題目 「山を描いた画家たち 第6回 石井鶴三」
 掲載 『山と溪谷』 No.1026(山と溪谷社)
 刊行 令和2年9月
 ■執筆 斎藤郁夫
 題目 「山を描いた画家たち 第7回 足立源一郎」
 掲載 『山と溪谷』 No.1027(山と溪谷社)
 刊行 令和2年10月
 ■執筆 斎藤郁夫
 題目 「山を描いた画家たち 第8回 五百城文哉」
 掲載 『山と溪谷』 No.10218(山と溪谷社)
 刊行 令和2年11月
 ■執筆 斎藤郁夫
 題目 「山を描いた画家たち 第9回 高島北海」
 掲載 『山と溪谷』 No.1029(山と溪谷社)
 刊行 令和2年12月
 ■執筆 荏開津通彦
 題目 「東山殿会所の障子絵について」
 掲載 『日本美術史のつくり方—佐藤康宏先生の退職によせて』(羽鳥書店)
 刊行 令和2年12月
 ■執筆 斎藤郁夫
 題目 「山を描いた画家たち 第10回 山元春挙」
 掲載 『山と溪谷』 No.1030(山と溪谷社)
 刊行 令和3年1月
 ■執筆 斎藤郁夫
 題目 「山を描いた画家たち 第11回 寺崎広業」
 掲載 『山と溪谷』 No.1031(山と溪谷社)
 刊行 令和3年2月
 ■執筆 斎藤郁夫
 題目 「山を描いた画家たち 第12回 武井真澄」
 掲載 『山と溪谷』 No.1032(山と溪谷社)
 刊行 令和3年3月
 ■執筆 河野通孝
 題目 ブロック報告[中国]「コロナ禍における感染防止対策についての報告—山口県立美術館『ハマスホイとデンマーク絵画』展の場合」
 掲載 『Zenbi』 37号((一社)全国美術館会議)
 刊行 令和3年3月1日
 ■執筆 河野通孝
 題目 ミュージアム・ミュージアム 「Distance - デイスタンス」展
 掲載 『デアルテ』 36号(九州芸術学会)
 刊行 令和3年3月
 ■執筆 岡本麻美
 題目 「絵巻をうつす—「松崎天神縁起絵巻写」小考」
 掲載 『造形のポエティカ 日本美術史を巡る新たな地平』(佐野みどり先生古稀記念論集刊行会編、青簡舎)
 刊行 令和3年3月31日

事業

Ⅲ. 調査研究事業

(1) 雪舟研究会

平成31年度

■公開講座(シンポジウム) *ミュージアム・タウン・ヤマグチ実行委員会等と共催

日 時：令和元年(2019年)11月16日(土)13:00~16:15
会 場：山口県立美術館講座室
題 目：室町水墨画における中国道釈画の受容
コメンテーター：塚本磨充(東京大学東洋文化研究所)
司 会：畑 靖紀(九州国立博物館)
パネリスト：荏開津通彦(山口県立美術館)
梅沢 恵(神奈川県立金沢文庫)
西谷 功(泉涌寺宝物館心照殿)
定 員：80名(当日先着順・聴講無料)

(2) 調査研究実績

平成31年度

- 日付 平成31年4月6日(土)、7日(日)
内容 萩・菊屋家所蔵中国絵画調査
場所 菊屋家、山口県立萩美術館・浦上記念館
担当 荏開津通彦(呉孟晋[京都国立博物館]他2名との共同調査)
- 日時 令和元年5月29日(水)
内容 阿弥陀如来坐像、毘沙門天立像ほか仏像調査(主催：山口市文化財保護課)
場所 最明寺(山口市)
担当 福田善子(末吉武史[福岡市博物館学芸員]、寺島尚人[大津市歴史博物館学芸員]との共同調査)
- 日時 令和元年5月30日(木)
内容 毘沙門天立像ほか仏像調査(主催：山口市文化財保護課)
場所 玄濟寺(山口市)
担当 福田善子(末吉武史[福岡市博物館学芸員]、寺島尚人[大津市歴史博物館学芸員]との共同調査)
- 日時 令和元年6月4日(火)、5日(水)
内容 仏教絵画調査(瀬谷愛[東京国立博物館研究員]科研にかかる調査研究)
場所 持光寺(広島県尾道市)
担当 福田善子
- 日時 令和元年6月21日(金)
内容 襖絵調査
場所 個人(山口市)
担当 福田善子
- 日時 令和元年7月31日(水)
内容 雲谷等顔ほか山口県ゆかりの画家作品調査
場所 福昌院(萩市)
担当 福田善子(樋口尚樹[至誠館館長]との共同調査)
- 日時 令和元年10月4日(金)
内容 佐伯圭山作品調査
場所 萩博物館、個人(山口市、萩市)
担当 福田善子(八田真理子[岡山県立美術館学芸員]との共同調査)
- 日時 令和元年10月20日(日)
内容 雲谷派史料(柳川藩主立花家道具帳)調査
場所 柳川古文書館(福岡県柳川市)
担当 福田善子
- 日時 令和元年10月24日(木)
内容 雲谷派史料(萩藩主毛利家道具帳)調査
場所 毛利博物館(防府市)
担当 福田善子(樋口尚樹[至誠館館長]との共同調査)
- 日時 令和元年11月15日(金)
内容 室町時代の仏教絵画調査(畑靖紀[九州国立博物館研究員]科研にかかる調査研究)

- 場所 洞春寺、山口市歴史民俗資料館(山口市)
 担当 荏開津通彦、福田善子、岡本麻美
- 日時 令和元年11月17日(日)
 内容 室町時代の仏教絵画調査(畑靖紀 [九州国立博物館研究員] 科研にかかる調査研究)
 場所 周防国分寺(防府市)、龍蔵寺、龍福寺(山口市)
 担当 荏開津通彦、福田善子
- 日時 令和元年11月21日(木)
 内容 雲谷派史料(徳山藩主毛利家道具帳)調査
 場所 周南市美術博物館(周南市)、吉川史料館(岩国市)
 担当 福田善子(樋口尚樹 [至誠館館長] との共同調査)
- 日時 令和元年11月28日(木)
 内容 雲谷等顔連歌史料調査
 場所 明治大学図書館(東京都)
 担当 福田善子
- 日時 令和元年12月4日(水)
 内容 雲谷等笠涅槃図ほか絵画調査
 場所 長久寺(萩市)
 担当 福田善子(樋口尚樹 [至誠館館長] との共同調査)
- 日時 令和元年12月12日(木)、13日(金)
 内容 高山寺開山堂・釈迦三尊像ほか市内仏像確認調査(主催：柳井市文化財保護課)
 場所 高山寺ほか市内寺院(柳井市)
 担当 福田善子(末吉武史 [福岡市博物館学芸員]、寺島尚人 [大津市歴史博物館学芸員] との共同調査)
- 日付 令和2年1月30日(木)
 内容 南嶺子越・厚東武実像調査
 場所 東隆寺
 担当 荏開津通彦(梅沢恵 [神奈川県立金沢文庫] との共同調査)
- 日付 令和2年2月6日(木)
 内容 森重雪鳥作品調査
 場所 個人(山口市)
 担当 岡本麻美

令和2年度

- 日付 令和2年9月24日(木)
 内容 科研費基盤研究「室町時代の宗教絵画」調査
 場所 九州国立博物館
 担当 荏開津通彦(畑靖紀 [九州国立博物館] その他6名との共同調査)
- 日時 令和2年9月24日(木)
 内容 長府藩旧蔵手鑑調査
 場所 山口市歴史民俗資料館
 担当 福田善子、岡本麻美(尾崎千佳 [山口大学准教授] との共同調査)
- 日時 令和2年10月29日(木)
 内容 雲谷派史料(長府藩主毛利家道具帳)調査
 場所 下関市立歴史博物館(下関市)
 担当 福田善子(樋口尚樹 [至誠館館長] との共同調査)
- 日時 令和2年11月11日(水)、12日(木)
 内容 赤田神社・神像調査ほか仏像確認調査(主催：山口市文化財保護課)
 場所 赤田神社、清水寺、正護寺(山口市)
 担当 福田善子(末吉武史 [福岡市博物館学芸員]、寺島尚人 [大津市歴史博物館学芸員] との共同調査)
- 日時 令和2年12月10日(木)、11日(金)
 内容 絵画・古文書調査(東京大学史料編纂所一般共同研究「中近世山陰西部における曹洞宗寺院の諸関係―石見国妙義寺を中心に―」にかかる調査)
 場所 大寧寺(長門市)
 担当 福田善子(中司健一 [益田市歴史文化研究センター主任]、西田友広 [東京大学史料編纂所准教授]、角野広海 [島根県立石見美術館学芸員] との共同調査)

- 日時 令和2年12月21日(月)
- 内容 雲谷派作品調査(主催：山口市歴史民俗資料館)
- 場所 個人(山口市)
- 担当 福田善子
- 日時 令和3年3月12日(金)
- 内容 狩野派屏風調査
- 場所 個人(防府市)
- 担当 荏開津通彦、福田善子
- 日時 令和3年3月22日(月)、23日(火)
- 内容 釈迦三尊像調査(主催：山口市文化財保護課)
- 場所 正護寺(山口市)
- 担当 福田善子(川瀬由照 [早稲田大学教授]、末吉武史 [福岡市博物館学芸員]、寺島尚人 [大津市歴史博物館学芸員] との共同調査)
- 日時 令和3年3月24日(水)
- 内容 雲谷派天井画調査
- 場所 徳蔵院(萩市)
- 担当 福田善子(樋口尚樹 [至誠館館長] との共同調査)

事業

IV. 収集管理保存事業

(1) 館藏品寄託品貸出利用状況

作品	作者	貸出期間	貸出先	展覧会名等
鯉図屏風	雲谷等益	2019.4.11-2019.5.30	香川県立ミュージアム	自然に挑む 江戸の超グラフィック-高松松平家博物図譜
倣高克恭山水図	雪舟等楊	2019.8.28-2019.10.26	広島県立美術館	広島浅野家の至宝-よみがえる大名文化
倣李唐牧牛図(牧童)	〃	〃	〃	〃
倣李唐牧牛図(渡河)	〃	〃	〃	〃
マスク	澄川喜一	2020.1.15-6.23	横浜美術館	澄川喜一 そりとむくり
おうぎ	〃	〃	〃	〃
MASK(1974年)	〃	〃	〃	〃
そりのあるかたちA	〃	〃	〃	〃
そりのあるかたち2011	〃	〃	〃	〃
甲冑	〃	〃	〃	〃
MASK(1967年)	〃	〃	〃	〃
MASK-UN	〃	〃	〃	〃
MASK(1998年)	〃	〃	〃	〃
東台湾臨海道路	陳澄波	2020.10.3-2021.1.26	国立台北教育大学北師美術館	不朽の青春—臺灣美術再發現
龍図	伝雪舟等楊	2020.11.9-12.7	山口市歴史民俗資料館	雲谷庵展 —アトリエからサロンへ—
ウィリアムスン山、シエラ・ネヴァダ山脈、カリフォルニア州マンザナーより	アンセル・アダムズ	2020.12.16-2021.3.23	下関市立美術館	自然の秘密をさぐる—高島北海没後90年記念
冬の嵐の晴れ間、ヨセミテ国立公園、カリフォルニア州	〃	〃	〃	〃
山水図巻	雪舟等楊	2021.1.26-3.23	岡山県立美術館	雪舟と玉堂—ふたりの里帰り
倣李唐牧牛図(牧童)	〃	〃	〃	〃
倣李唐牧牛図(渡河)	〃	〃	〃	〃
東帯天神図	伝雪舟等楊	〃	〃	〃
倣夏珪山水図	雪舟等楊	〃	〃	〃

(2) コレクション

※凡例

以下の目録は平成31年(2020年)4月から令和3年(2022年)3月までに収蔵された館蔵品を網羅したものである。作品の整理方針及び個々のデータの記録法は『山口県立美術館蔵品目録1979』にほぼ準拠している。すなわち、作品は日本画(J)・洋画(O)・水彩画(W)・素描(D)・版画(P)・写真(Ph)・彫刻(S)・工芸(C)・書(Ca)・資料(R)の順で編集し、また個々のデータについては、整理番号・作者・生没年・タイトル・制作年・材質技法・寸法・収集年度とその経緯の順で記した。整理番号は『山口県立美術館年報 平成29～30年度』に続く通し番号である。



J-0346
田中柏陰
TANAKA Hakuin
1866-1934
緑陰水亭図
Lush Greenery and Water Gazebo
大正8年(1919)
絹本着色
180.3×72.8
平成31年度 寄贈



J-0347
森 寛斎
MORI Kansai
1814-1894
棕櫚群雀図
Palm Trees and Sparrows
19世紀後半～20世紀前半
紙本墨画
各168.6×92.7
令和2年度 寄贈



J-0348
雲谷等益
UNKOKU Toeki
1591-1644
林和靖図
Lin Hejin
元和後半～寛永初頭(1620年代前半頃)
紙本着色
24.3×35.0
令和2年度 寄贈



J-0349
兼重暗香
KANESHIGE Anko
1872-1946
梅椿に尾長
Plum Tree, Camellia and Azure-winged Magpies
昭和16年(1941)
絹本着色
167.2×142.8
令和2年度 寄贈



O-0267
 永地秀太
 NAGATOCHI Hideta
 1873-1942
 ポーズ
 Pose Nude
 1930年
 油彩/カンヴァス
 116.8×80.3
 平成31年度 寄贈



O-0268
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 周防灘
 The Sea of Suo
 1989年
 油彩/カンヴァス
 73.0×53.0
 令和2年度 寄贈



O-0269
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 祝島風景
 View of Iwaishima Island
 1994年
 油彩/カンヴァス
 51.7×71.6
 令和2年度 寄贈



O-0270
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 祝島風景
 View of Iwaishima Island
 1953年
 油彩/カンヴァス
 50.3×65.5
 令和2年度 寄贈



O-0271
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 祝島梅雨
 Fishing Boats(Rainy season in the Iwaishima Island)
 1980年代
 油彩/カンヴァス
 32.5×44.3
 令和2年度 寄贈



O-0272
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 祝島風景
 Iwaishima Island
 1970-80年代
 油彩/カンヴァス
 33.3×45.5
 令和2年度 寄贈



O-0273
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
筍
Bamboo Shoots
1970-80年代
油彩/カンヴァス
21.5×14.5
令和2年度 寄贈



O-0274
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
笛吹き
Street Musician
1983年
油彩/カンヴァス
45.5×53.0
令和2年度 寄贈



O-0275
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
こち
Flathead
1950-55年頃
油彩/カンヴァス
33.3×45.5
令和2年度 寄贈



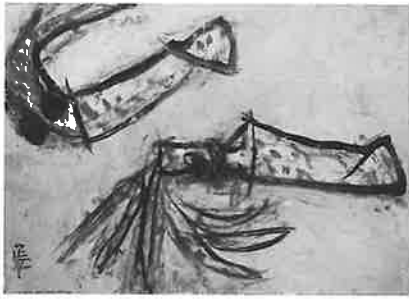
O-0276
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
バラ
Roses
1980-90年代
油彩/カンヴァス
53.0×41.0
令和2年度 寄贈



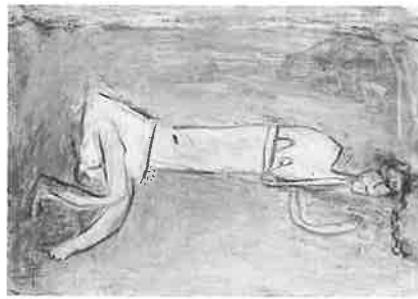
O-0277
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
魚
Fish
1960年代
油彩/カンヴァス
22.5×31.8
令和2年度 寄贈



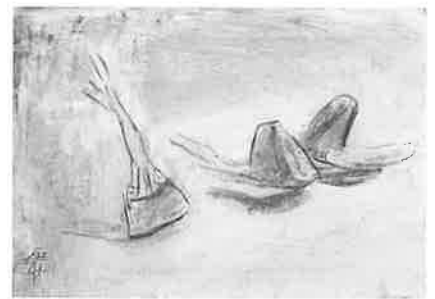
O-0278
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
NC嬢
Mademoiselle N.C.
1977年
油彩/カンヴァス
45.7×33.5
令和2年度 寄贈



O-0279
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
烏賊
Squids
1965年
油彩/カンヴァス
24.4×33.6
令和2年度 寄贈



O-0280
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
裸婦
Nude
1970-80年代
油彩/カンヴァス
30.7×40.0
令和2年度 寄贈



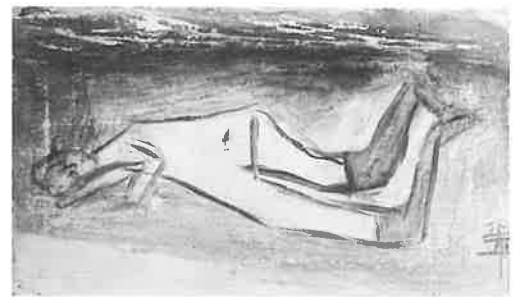
O-0281
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
くわい
Arrowheads
1980-90年代
油彩/カンヴァス
23.0×32.3
令和2年度 寄贈



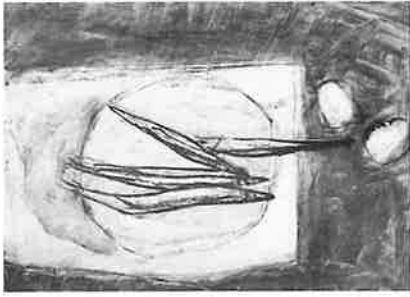
O-0282
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
少女
Portrait of a Girl
1980-90年代
油彩/カンヴァス
17.0×13.2
令和2年度 寄贈



O-0283
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
バラ
Roses
1980-90年代
油彩/カンヴァス
32.5×23.3
令和2年度 寄贈



O-0284
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
裸婦
Nude
1980-90年代
油彩/カンヴァス
18.0×32.3
令和2年度 寄贈



O-0285
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
小魚
Small Fishes
1960-70年代
油彩／カンヴァス
31.5×43.7
令和2年度 寄贈



W-0399
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
周防灘
The Sea of Suo
1999年
水彩・パステル／紙
52.5×36.8
令和2年度 寄贈



W-0400
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
少女
Portrait of a Girl
1999年
水彩／紙
40.5×31.5
令和2年度 寄贈



W-0401
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
洋梨
Pears
1960年代
水彩／紙
26.5×23.2
令和2年度 寄贈



W-0402
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
ボクシング
Boxing
1960年代
水彩／紙
35.5×23.5
令和2年度 寄贈



W-0403
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
花
Flowers
1980-90年代
水彩／紙
26.5×23.5
令和2年度 寄贈



W-0404
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
辻音楽師
Street Musicians
1980-90年代
水彩・パステル・鉛筆／紙
23.4×32.0
令和2年度 寄贈



W-0405
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
鶴舞風景
View of Tsurumai
1960年代
水彩・パステル／紙
23.5×27.5
令和2年度 寄贈



W-0406
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
バラ
Roses
1970-80年代
水彩・パステル・鉛筆／紙
32.5×23.5
令和2年度 寄贈



W-0407
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
バラ
Roses
1980-90年代
水彩・鉛筆／紙
26.3×23.5
令和2年度 寄贈



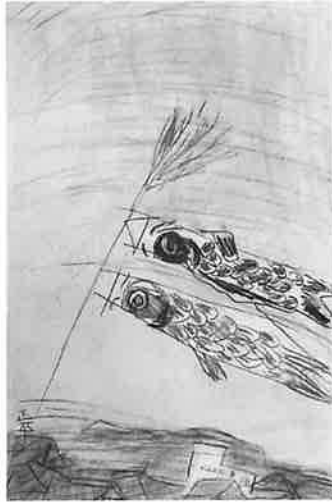
W-0408
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
キキョウ
Chinese Bellflower
1980-90年代
水彩・墨／紙
35.0×7.0
令和2年度 寄贈



D-0047
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
自画像
Self-Portrait
2000年
鉛筆／紙
33.3×23.5
令和2年度 寄贈



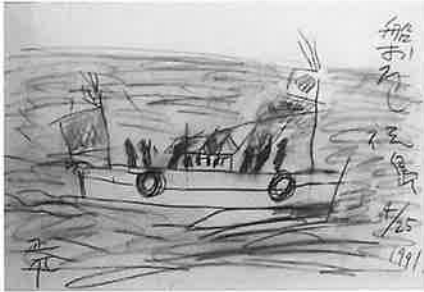
D-0048
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 祝島
 Iwaishima Island
 1980-90年代
 パステル・鉛筆／紙
 24.2×33.0
 令和2年度 寄贈



D-0049
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 鯉のぼり
 Koinobori (Carp Steamer)
 1980-90年代
 パステル／紙
 35.7×25.0
 令和2年度 寄贈



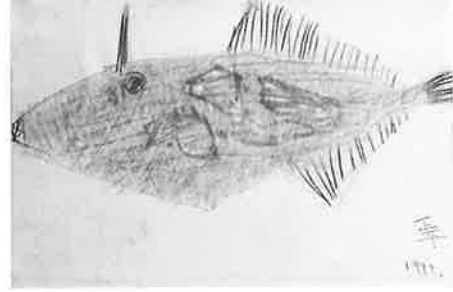
D-0050
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 鶴舞風景
 View of Tsurumai
 1990年代
 パステル／紙
 23.0×32.3
 令和2年度 寄贈



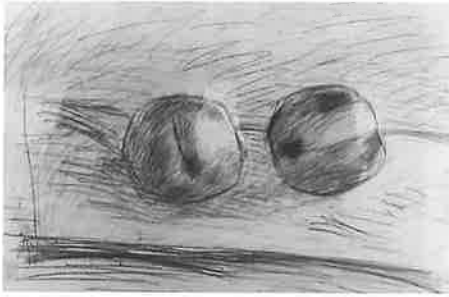
D-0051
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 船おろし
 Launching Ceremony
 1991年
 パステル・鉛筆／紙
 24.5×34.4
 令和2年度 寄贈



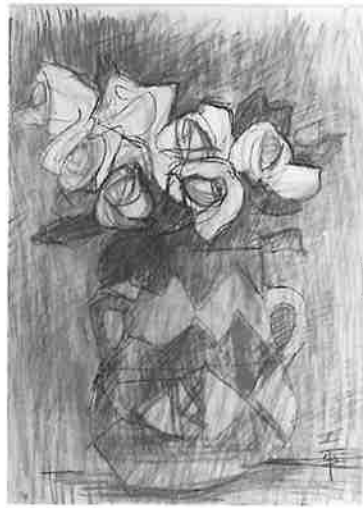
D-0052
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 祝島
 Iwaishima Island
 1987年
 パステル／紙
 24.5×33.0
 令和2年度 寄贈



D-0053
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 ハゲ (カワハギ)
 Filefish
 1991年
 パステル・鉛筆／紙
 18.5×26.0
 令和2年度 寄贈



D-0054
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
桃
Peaches
1960-70年代
パステル・鉛筆／紙
23.3×32.5
令和2年度 寄贈



D-0055
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
バラ
Roses
1950-60年代
パステル・ペン・鉛筆／紙
32.3×23.3
令和2年度 寄贈



D-0056
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
バラ
Roses
1960-70年代
パステル・鉛筆／紙
33.0×23.0
令和2年度 寄贈



D-0057
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
裸婦
Nude
1983年
鉛筆／紙
23.3×32.6
令和2年度 寄贈



D-0058
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
竜王山のさくら
Cherry Blossom of Mt.Ryuo
2002年
パステル・鉛筆／紙
25.0×33.7
令和2年度 寄贈



D-0059
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
たこ
Octopuses
1980-90年代
パステル・鉛筆／紙
23.5×32.2
令和2年度 寄贈



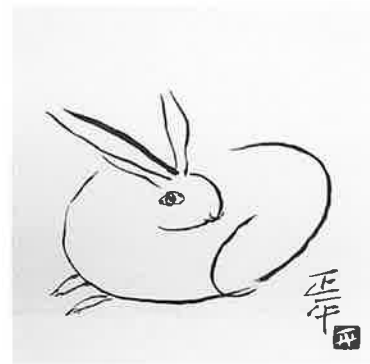
D-0060
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
ねずみ
Mouse
1995年
墨・鉛筆／紙
16.0×34.0
令和2年度 寄贈



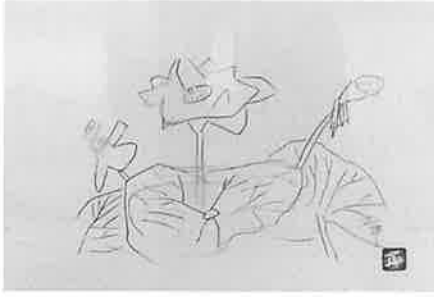
D-0061
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
烏賊
Squid
1980年代以降
墨／紙
32.5×34.7
令和2年度 寄贈



D-0062
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
水仙
Daffodils
1980年代以降
水彩・墨／紙
21.0×17.6
令和2年度 寄贈



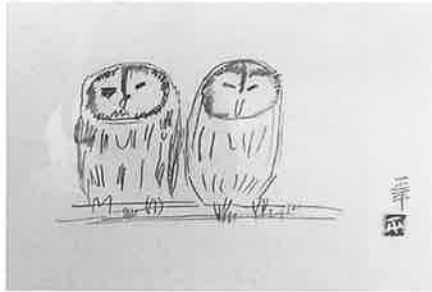
D-0063
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
うさぎ
Rabbit
1980年代以降
墨／紙
26.3×23.0
令和2年度 寄贈



D-0064
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 花
 Flowers
 1980年代以降
 鉛筆／紙
 23.5×31.5
 令和2年度 寄贈



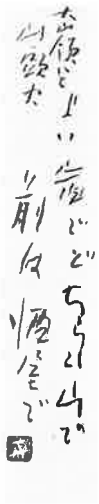
D-0065
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 少女（ネル・コレ嬢）
 Portrait of a Girl (Mademoiselle N.C.)
 1980年代以降
 墨／紙
 27.0×19.0
 令和2年度 寄贈



D-0066
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 フクロウ
 Owls
 1980年代以降
 鉛筆／紙
 23.5×31.5
 令和2年度 寄贈



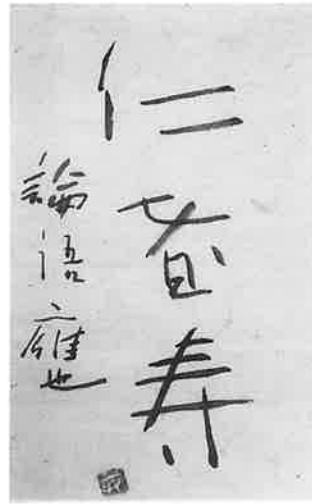
Ca-0005
 松田正平
 MATSUDA Shohei
 1913-2004
 手紙：暑中見舞い礼状
 Thanks Letter of Summer Greeting
 1980年代以降
 水彩・墨／紙
 19.0×41.5
 令和2年度 寄贈



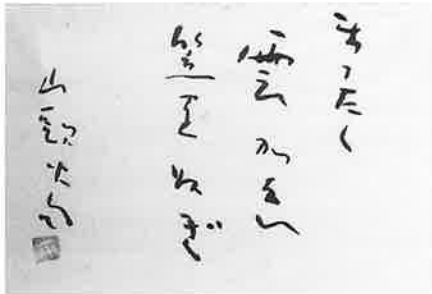
Ca-0006
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
書：種田山頭火「草木塔」より
Calligraphy
1980年代以降
墨／紙
36.0×7.5
令和2年度 寄贈



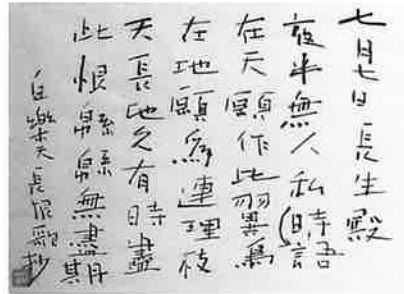
Ca-0007
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
書：祇管打坐
Calligraphy
1980年代以降
墨／紙
36.0×7.0
令和2年度 寄贈



Ca-0008
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
書：仁者寿（論語）
Calligraphy
1980年代以降
墨／紙
35.3×21.3
令和2年度 寄贈



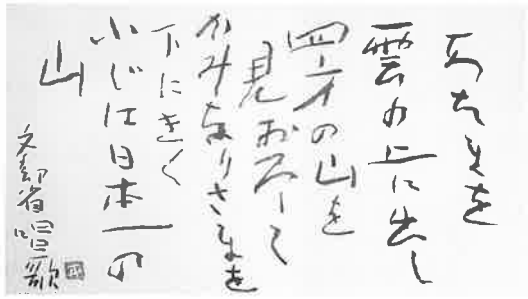
Ca-0009
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
書：種田山頭火「草木塔」より
Calligraphy
1980年代以降
墨／紙
23.4×30.0
令和2年度 寄贈



Ca-0010
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
書：白楽天「長恨歌」より
Calligraphy
1980年代以降
墨／紙
30.5×37.3
令和2年度 寄贈



Ca-0011
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
書：衆善奉行
Calligraphy
1980年代以降
墨／紙
35.0×7.0
令和2年度 寄贈



Ca-0012
松田正平
MATSUDA Shohei
1913-2004
書：文部省唱歌「ふじの山」より
Calligraphy
1980年代以降
墨／紙
29.0×51.0
令和2年度 寄贈



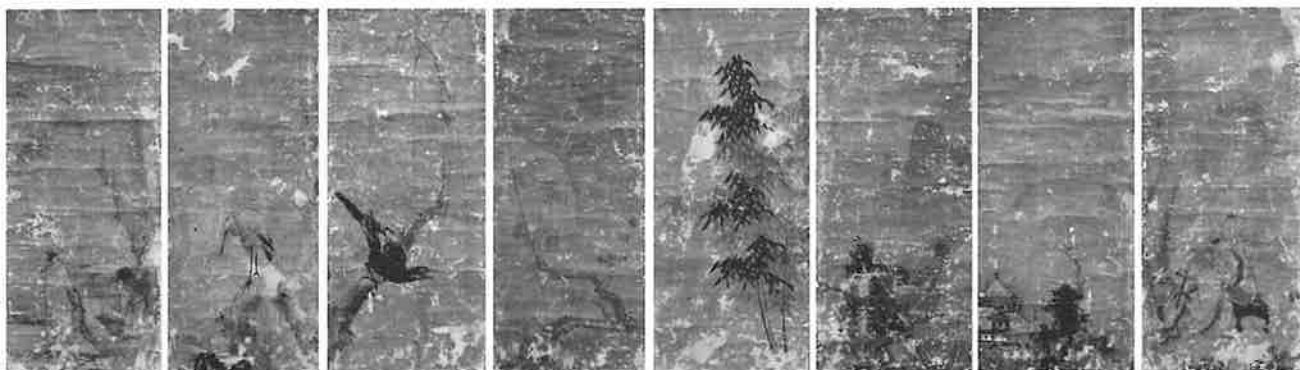
R-0109
加藤義雄
KATO Yoshio
恩師之像
Portrait of Mentor
昭和15年（1940）
油彩／カンヴァス
116.8×91.4
平成31年度 寄贈



R-0110
伝 雲谷等顔
Attributed to UNKOKU Togan
樹下馬図
Horse and Trees
17世紀
紙本墨画
111.2×45.2
平成31年度 寄贈



R-0111
伝 雲谷等顔
Attributed to UNKOKU Togan
馬図
Horse
江戸時代
紙本墨画
111.1×45.3
平成31年度 寄贈



R-0112

雲谷等益

UNKOKU Toeki

1591-1644

山水・人物・花鳥図

Landscape, Figures, Flowers and Birds

17世紀

紙本墨画

115.3×48.0 ほか

平成31年度 寄贈



R-0113

植木 茂

UEKI Shigeru

1913-1984

彫刻デザイン

Sketch of Sculpture

制作年不詳

紙本淡彩

28.8×21.3

平成31年度 寄贈



R-0114

小野具定

ONO Gutei

1914-2000

『長門の民俗』扉絵原画（美東町薬王寺の農家）

Original Frontispiece (*Folklore of Nagato*)

制作年不詳

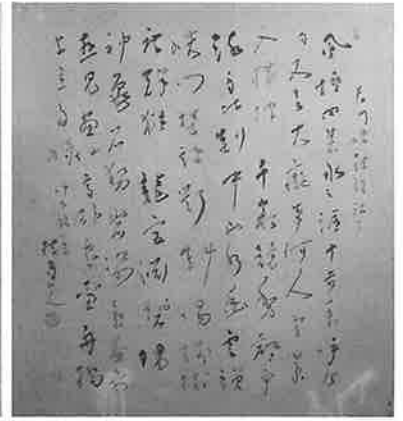
紙本墨画

17.7×22.3

平成31年度 寄贈



R-0115
兼重 暗香
KANESHIGE Anko
1872-1946
牡丹
Peony
昭和元年 (1926)
絹本着色
151.3×97.2
令和2年度 寄贈



R-0116
松林 桂月
MATSUBAYASHI Keigetsu
1876-1963
漁父図・長門峡雑詩録 三
Fisherman/Poem of Chomon Valley, Yamaguchi
昭和3年 (1928) 頃
紙本墨画淡彩/紙本墨書
絵：101.0×90.5 詩：100.0×91.0
令和2年度 寄贈



R-0117
永地秀太関連資料
Reference Materials of NAGATOCHI Hideta
大正～昭和時代
絵葉書、写真、手紙、地図 計36件246点
令和2年度 寄贈

(3) 美術図書

	平成31年度	令和2年度
図書	176	160
カタログ	253	151
逐次刊行物	467	427

入館者数一覧

平成31年度 (2019)

展覧会名	開催期間	有 料														
		個 人								団 体 ・ 前 売						
		一般		シニア		学生		その他	計	一般		シニア		学生		計
		料金	人数	料金	人数	料金	人数	人数	人数	料金	人数	料金	人数	料金	人数	人数
コレクション展		300	902	-	-	200	3	-	905	240	1	-	-	160	0	1
コレクション展(特別展との セット券,メンバーズ含む)	31.4.1~ 23.3.31(151)	100	7,970	-	-	100	717	-	8,687	-	-	-	-	-	-	0
コレクション展 合計		-	8,872	-	-	-	720	-	9,592	-	1	-	-	-	0	1
扇の国、日本	31.3.20~ 1.5.6(44)	1,300	1,856	1,100	687	1,100	39	-	2,582	1,100	485	900	187	900	20	692
下瀬信雄展	1.5.23~ 7.7(42)	1,200	2,165	1,000	913	1,000	15	-	3,093	1,000	451	800	159	800	22	632
香月泰男の シベリア・シリーズ	1.7.23~ 8.18(26)	800	1,853	600	575	600	38	-	2,466	600	363	500	99	500	5	467
ヨーロッパ絵画 美の400年	1.9.3~ 10.22(48)	1,300	28,057	1,100	10,078	1,100	323	-	38,458	1,100	8,653	900	2,884	900	67	11,604
雪舟の仏画	1.11.2~ 12.8(34)	500		400		400				400		300		300		
岸田劉生展	1.11.2~ 12.22(46)	1,300	5,090	1,100	2,328	1,100	44	-	7,462	1,100	1,945	900	751	900	6	2,702
第73回 山口県美術展覧会	2.2.13~ 3.1(17)	500	1,445	-	-	400	54	-	1,499	400	0	-	-	300	0	0
展覧会合計			49,338		14,581		1,233	0	65,152		11,898		4,080		120	16,098

※「扇の国、日本」展は、年度をまたいで開催(平成31年3月20日~令和元年5月6日、44日間)。
全期間を通じての入場者数は以下のとおり。

展覧会名	開催期間	有 料														
		個 人								団 体 ・ 前 売						
		一般		シニア		学生		その他	計	一般		シニア		学生		計
		料金	人数	料金	人数	料金	人数	人数	人数	料金	人数	料金	人数	料金	人数	人数
扇の国、日本	31.3.20 ~5.6(44)	1,300	2,399	1,100	854	1,100	54	-	3,307	1,100	612	900	218	900	25	855

有 料		無										合計
メンバーズ クラブ	小計	小・中生	高校生	18歳以下 その他	招待券 ポスター	案内状	シニア (70歳以上)	障がい者 手帳等	教育・文化 週間及び 無料展覧会	その他	小計	
-	906	943	180	120	-	-	5,357	2,065	0	1,949	10,614	11,520
-	8,687	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	8,687
0	9,593	943	180	120	0	0	5,357	2,065	0	1,949	10,614	20,207
3	3,277	380	65	87	3,329	197	-	627	-	1,550	6,235	9,512
0	3,725	316	29	81	2,848	935	-	645	-	1,688	6,542	10,267
3	2,936	307	54	54	912	233	-	278	-	577	2,415	5,351
30	50,092	3,184	956	1,056	6,980	522	-	5,084	-	3,881	21,663	71,755
	3,021										4,328	7,349
120	10,284	545	145	177	4,429	429	-	1,485	-	2,537	9,747	20,031
-	1,499	228	33	29	539	-	927	234	-	189	2,179	3,678
156	84,427	5,903	1,462	1,604	19,037	2,316	6,284	10,418	0	12,371	63,723	148,150

有 料		無										合計
メンバーズ クラブ	小計	小・中生	高校生	18歳以下 その他	招待券 ポスター	案内状	シニア (70歳以上)	障がい者 手帳等	教育・文化 週間及び 無料展覧会	その他	小計	
54	4,216	460	98	117	3,653	524	-	821	-	2,315	7,988	12,204

令和2年度（2020）

展覧会名	開催期間	有 料														
		個 人								団 体 ・ 前 売						
		一般		シニア		学生		その他	計	一般		シニア		学生		計
		料金	人数	料金	人数	料金	人数	人数	人数	料金	人数	料金	人数	料金	人数	人数
ハマスホイとデンマーク絵画	2.5.26～6.7(13)※1	1,500	3,262	1,300	499	1,300	54	-	3,815	1,300	1,054	1,100	138	1,100	21	1,213
奇才-江戸絵画の冒険者たち-	2.7.7～8.30(49)	1,400	8,440	1,200	1,351	1,200	176	-	9,967	-	-	-	-	-	-	0
館藏品による特別企画 Distance・香月泰男展※2	2.9.15～10.18(32)	500	286	400	76	400	13	-	375	400	54	300	9	300	6	69
館藏品による特別企画 Distance・香月泰男・雪舟600年展	2.10.31～12.21(48)	800	712	700	242	700	12	-	966	700	129	600	22	600	4	155
雪舟600年展 Vol.2	3.1.9～3.28(62)	300	827	200	266	200	37	-	1,130	-	-	-	-	-	-	0
展覧会合計			13,527		2,434		292	0	16,253		1,237		169		31	1,437

※1 「ハマスホイとデンマーク絵画」の当初予定会期は、2.4.7～6.7(56)であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4.7～5.25は臨時休館となった。

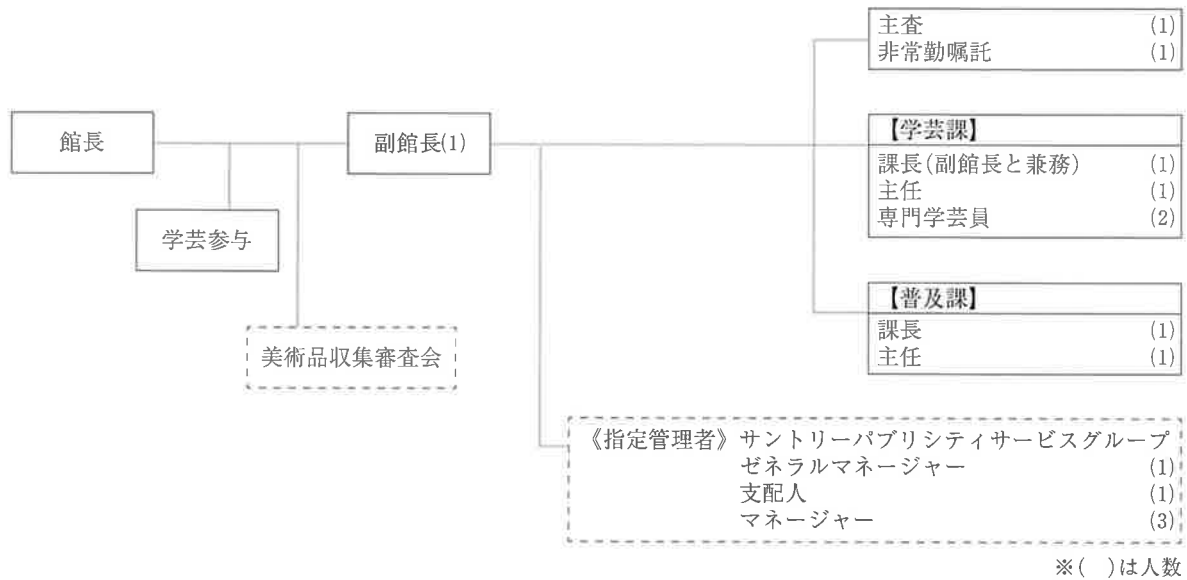
※2 「館藏品による特別企画 Distance・香月泰男展」、「館藏品による特別企画 Distance・香月泰男・雪舟600年展」について、「団体・前売」欄にオンラインによる入館者数を計上した。

有 料		無									合計	
メンバーズ クラブ	小計	小・中生	高校生	18歳以下 その他	招待券 ポスター	案内状	シニア (70歳以上)	障がい者 手帳等	教育・文化 週間及び 無料展覧会	その他		小計
0	5,028	155	85	47	1,229	85	-	367	-	982	2,950	7,978
7	9,974	853	243	252	2,503	217	-	908	-	1,540	6,516	16,490
-	444	123	6	14	47	0	-	57	-	263	510	954
0	1,121	99	31	47	164	0	-	133	-	441	915	2,036
0	1,130	62	25	27	16	0	-	98	-	401	629	1,759
7	17,697	1,292	390	387	3,959	302	0	1,563	0	3,627	11,520	29,217

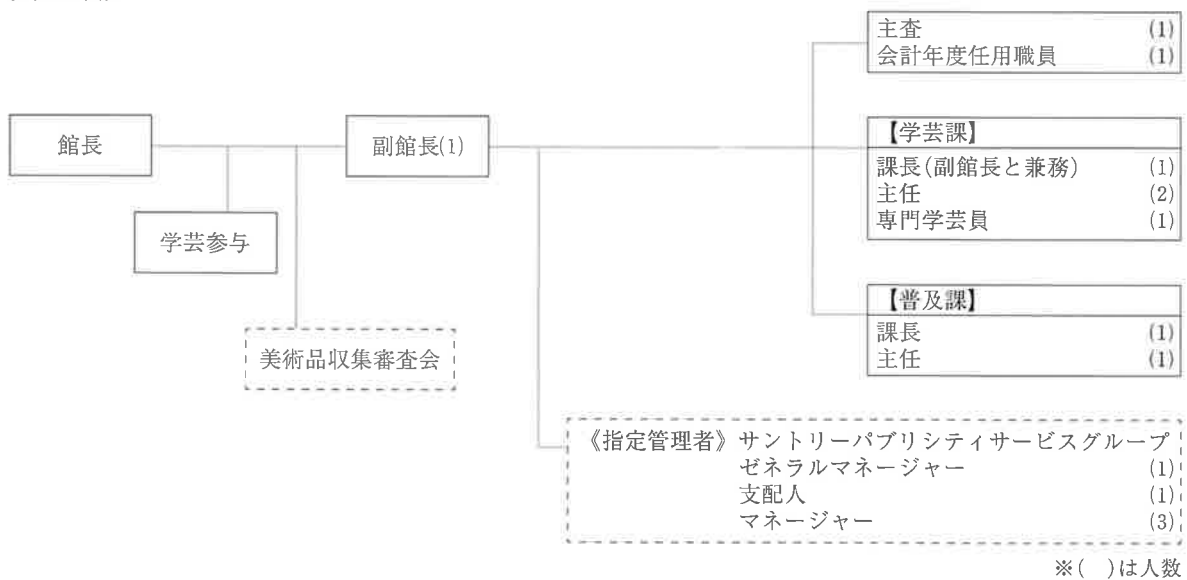
組織等

組織図

平成31年度



令和2年度



美術品収集審査委員

浦上 敏朗 山口県立萩美術館・浦上記念館名誉館長 ※令和2年8月15日逝去
 奥平 俊六 大阪大学名誉教授
 菊屋 吉生 山口大学教育学部教授
 森川 紘一郎 元周南市美術博物館館長
 (以上平成31年度)

奥平 俊六 大阪大学名誉教授
 菊屋 吉生 山口大学名誉教授
 森川 紘一郎 元周南市美術博物館館長
 (以上令和2年度)

美術館職員構成

(平成31年度4月)

館長	岡田 実
副館長	河野 通孝
学芸参与	斎藤 郁夫
主査	梶山 洋子
嘱託	松永 政彦

学芸課

課長(兼)	河野 通孝
主任	萬屋 健司
専門学芸員	岡本 麻美
専門学芸員	矢追 愛弓

普及課

課長	荏開津 通彦
主任	福田 善子

(令和2年度4月)

館長	上野 清
副館長	河野 通孝
学芸参与	斎藤 郁夫
主査	梶山 洋子
会計年度任用職員	松永 政彦

学芸課

課長(兼)	河野 通孝
主任	萬屋 健司
主任	岡本 麻美
専門学芸員	矢追 愛弓

普及課

課長	荏開津 通彦
主任	福田 善子

職員の動静

平成31.4

学芸専門監(兼学芸課長) 河野通孝、副館長に昇任
学芸参与 斎藤郁夫、任用(平成30年度退職)
県民生活課主査 梶山洋子、美術館主査に転入
学芸課主任 福田善子、普及課に内部異動
普及課専門学芸員 矢追愛弓、学芸課に内部異動

令和2.3

館長 岡田 実、退任

令和2.4

館長 上野 清、任用
学芸課専門学芸員 岡本麻美、主任に昇任

発行 山口県立美術館
山口市亀山町3-1
tel 083-925-7788 (代表)
fax 083-925-7790 (代表)
083-925-7784 (学芸課・普及課)

発行日 令和4年3月31日

印刷 株式会社山口県農協印刷
tel 083-989-6100



